

唐古・鍵遺跡 考古資料目録Ⅲ

—木器・木製品・石器・石製品編—



田原本町教育委員会

2017.3

例 言

1. 本書は、唐古・鍵遺跡の出土品のうち、特に重要と思われる遺物について報告する『唐古・鍵遺跡考古資料目録』の第3冊目「木器・木製品・石器・石製品編」である。
2. 本書に収録した遺物は、唐古・鍵遺跡第1次から第118次までの調査で出土した遺物の中から選定したものである。発掘調査は、第3～12次までは奈良県立橿原考古学研究所、第13次以降は田原本町教育委員会が実施したもので、田原本町教育委員会所蔵の遺物である。
3. 唐古・鍵遺跡第3～15次調査の出土遺物の遺構名の番号については、概報・報告書では全ての遺構を2桁で表記(S D-02等)としていたが、本目録では弥生時代中期・後期の遺構を100番台、前期の遺構を200番台とし、3桁(S D-102等)に改めている。
4. 遺物写真の撮影は、亀村俊二・佐藤右文・田原本町教育委員会事務局文化財保存課職員による。
5. 遺跡の調査概要と出土資料の全容については、『唐古・鍵遺跡考古資料目録Ⅰ』(2015)を参照されたい。
6. 木製品の製品名称は、奈良国立文化財研究所1993『木器集成図録 近畿原始編』奈良国立文化財研究所史料 第36冊を参考にした。
7. 漆・赤色顔料付着の木器・木製品・石器・石製品の一部は、奥山誠義氏(奈良県立橿原考古学研究所)の同定によるものである。
8. 木器・木製品の樹種は、元興寺文化財研究所、環境考古研究会、能城修一氏(森林総合研究所)、鈴木三男氏・小林和貴氏(東北大学植物園)、佐々木由香氏(株式会社パレオ・ラボ)、村上由美子氏(京都大学総合博物館)の同定によるものである。一部の成果については、『田原本町文化財調査年報24』に掲載している(能城修一・鈴木三男・小林和貴・佐々木由香・村上由美子2016『唐古・鍵遺跡とその周辺遺跡で出土した木製品の樹種』『田原本町文化財調査年報24』田原本町教育委員会)。
9. 唐古・鍵遺跡出土資料のうち、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館に展示するものについては、北井利幸氏(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館)に多大なご協力を賜った。
10. 本書の第Ⅰ・Ⅱ部は、藤田三郎が執筆し、清水琢哉・柴田将幹・江浦至希子・小松博子・榎原初美・中谷利枝・服部文子の協力を得た。編集は、藤田・西岡成晃がおこなった。

目 次

第Ⅰ部 個別資料の概要

- | | |
|--------------|---|
| 1. 木器・木製品の概要 | 1 |
| 2. 石器・石製品の概要 | 6 |

第Ⅱ部 考古資料目録

凡例

- | | |
|-----------|-----|
| 1. 木製品 | 12 |
| 2. 石器・石製品 | |
| 2-1. 打製石器 | 86 |
| 2-2. 磨製石器 | 118 |
| 2-3. 石製品 | 140 |
| 2-4. 礫石器 | 149 |

附

- | | |
|---------------|-----|
| 1. 遺物図版 | 158 |
| 2. 文献(発掘調査関係) | 164 |

第I部 個別資料の概要

1. 木器・木製品の概要

標高49m前後の沖積地に立地する唐古・鍵遺跡は、水分を十分に含んだ粘土質の堆積層で埋没している。この保湿性の高い環境によって、木製品や編み籠製品など有機質の遺物は現代まで残存し、発掘調査によって掘り出されることになる。これら木製品の状態は、出土時には木質そのものの赤味がまだ残る色調を呈しているが、瞬間に酸化によって黒褐色に変色する。また、風化等も少なく、器表面の状態も良好で加工痕や形態が保持されているが、内部のセルロースは分解しており、木製品自体は脆弱な状態である。このような良好な木製品が大半を占めることから、概ね保湿性のある環境が維持されたとみられるが、一部の地区、あるいは地点においては埋没環境が悪く、劣化した木製品が出土する場合もある。

唐古・鍵集落での木製品の製作は、集落が弥生時代前期から古墳時代前期まで継続的に維持された地域の拠点集落であったため、自給的な製作だけでなく、周辺集落にも木製品を供給していたと考えられる。また、原材料や製作途中の木製品を水漬けしておくための穴（木器貯蔵穴）が弥生時代前期段階から多数見つかり、木製品の生産システムが初期段階から整っていたと考えて良い。このようなことから、唐古・鍵集落は地域の木製品製作の一拠点として位置づけて良いであろう。

さて、唐古・鍵遺跡で検出される木器貯蔵穴は、一辺2～3m前後、深さ1mあまりの大きさである。発掘調査では、このような穴から取り出されず残置された製作途中の木製品が穴底から見つかる場合（土坑が開口しているため、中・上層にさまざまな遺物が投棄されている）と、取り出した後一気に埋め戻した場合（遺物はほとんど無く、粘土やシルトがブロック状になった状態の埋土）の2パターンが見いだされる。このような穴は、特に弥生時代前期に多く、西地区中央部の第20次調査では列を成すように掘削されているものもあり、貯蔵穴が集落内部に計画的に配置されたと考えられる。また、このような木器貯蔵穴は、集落形成の初期段階（大和第1-1様式）から出現し

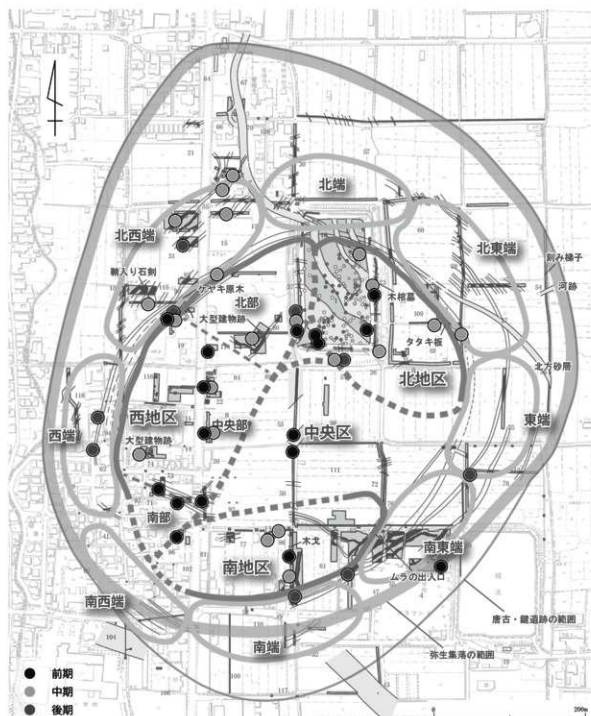


写真1 木器貯蔵穴から出土した高杯未成品・原材
(第53次)



写真2 埋没した井戸に水漬けされた一木筒未成品
(第37次)

第I部 個別資料の概要



第1図 唐古・鐵道跡の調査成果と地区区分および木製品の原木・未成品の分布図 (S=1/5,000)

ており、他の地域より出現時期が早く、数量的にも顕著であることから盆地中央部において一大生産拠点であった可能性がある。中期以降になると、このような専用の穴を掘削することは少なくなり、その代用として埋没過程の井戸や環濠、区画溝などの中・上層に水浸けするようになった。井戸では、3点前後の未成品が水漬けされている場合が多い。環濠での貯木で顕著な例として、後期初頭に再掘削された南側の環濠がある。これは、推定延長100mの範囲にわたって多量の木製農具

1. 木器・木製品の概要

第1表 各種未成品の地区・時期別出土遺構一覧表

	北地区・北端・中央区	西地区・西端	南地区・南東端・東端
第I-1様式	杓子 (第45次 SR-201)	平鍬身・高杯 (第38次 SK-208)	
第I-2様式		平鍬身・縦杓子 (第16次 SX-102) 直柄縦斧柄 (第20次 SK-215) 平鍬身 (第20次 SD-201) 無頭産 (第58次 SD-201) 蓋 (第74次 SR-201)	
第II-1様式	直柄縦斧柄 (第53次 SR-101B) 高杯 (第53次 SK-201)	縦杓子 (第74次 SK-203)	平鍬身 (第33次 SD-205) 平鍬身・一木鍬 (第33次 SK-208)
第II-2様式			
第II-3様式	平鍬身 (第23次 SK-151) 磨柄横斧柄 (第26次 SK-1102)	平鍬身 (第33次 SK-1101/ 第37次 SK-2139) 泥除 (第37次 SK-2102)	
第III-1様式			
第III-2様式	鉢 (第34次 SK-103) 直柄縦斧柄 (第50次 SD-106)		
第III-3様式	横杓子未成品 (第23次 SK-2116)		組合せ鍬・高杯未成品 (第33次 SK-124)
第III-4様式	平鍬身・組合せ鍬 (第23次 SK-113)		
第IV-1様式		平鍬身 (第79次 SK-130) 横杓子 (第115次 SD-101D)	
第IV-2様式			
第V-1様式	匙 (第51次 SK-104) 梯子 (第55次 SD-102)	匙 (第13次 SD-102) 泥除 (第19次 SK-102) 一木鍬 (第37次 SK-2103) 組合せ鍬 (第90次 SD-101C)	平鍬身・泥除・一木鍬 (第3次 SD-102) 平鍬・組合せ鍬 (第63次 SD-103A) 平鍬・泥除 (第69次 SD-1109)
第V-2様式			
第VI-1様式			
第VI-2様式			
第VI-3様式			
第VI-4様式 庄内式	蓋 (第23次 SK-102)		
布留0・1式			

※ 上記表内の表現では、各種未成品の「未成品」は省略する。

未成品が水漬けされている可能性があり、また、北西端の第15次調査の環濠では、多量の木片が出土している地点の例もあり、これらの近隣に木製品製作場所を想定できるかもしれない。

木製品の製作では、木の表面を柔らかくし加工しやすくなるため、また、木の歪みを軽減することを目的として、長期の水漬けをおこなっていた可能性があり、単年で完結する行程ではないと考

第I部 個別資料の概要

えられる。まさに上記のような未成品のあり方は、数年単位の製作で需要と供給のバランスをとるような状況を示すものであり、このようなシステムが唐古・鍵集落で構築されていたと思われる。

唐古・鍵遺跡の木製品は、使用により破損・廃棄されており、その全体像が不明なものも多いが、上記のように残置された製作途中の木製品からその製作工程や技術を知ることができる。平鋸や泥除などの連結した未成品、一本鋸や着柄鋸の各段階の未成品、高杯未成品の側面に残る連結部切断痕など農具や容器類の製作については、ほぼその過程を追うことができ、各地の弥生集落でのあり方とほぼ同様である。木製品の樹種については、概ね広葉樹の利用が全体の3/4を占めており(第2図)、唐古・鍵遺跡周辺の樹種構成の環境がそのまま現れていると考えて良いだろう。その中でも農具などはカシ類、高杯や匙などはヤマグワ、弓はイヌガヤ、盾は針葉樹と適材適所の樹種が使われている⁽¹⁾。

各種木製品の出現時期の分析はおこなっていないが、顕著なものとして木製穂摘具が中期後半(大和第IV様式)以降、大形木鋸と田舟(槽)は後期(大和第VI様式)以降に出現したとみられる。他の製品は概ね弥生時代中期段階には揃っていると考えられる。漆を塗布するものは、堅櫛を除き、ほぼ前期段階のもので数量的には10点も満たない。全体としては、後期後半以降の木製品の数は、他の時期のものより少ないようである。

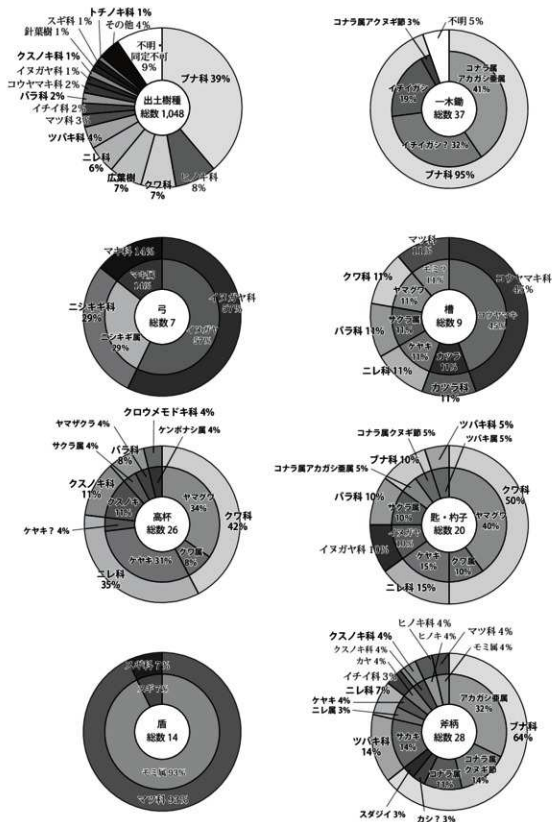
木製品の特殊なあり方を示すものがある。匙未成品(第22・23次)や木鋸12点(第40・74次)を井戸底・中に、また、猪下顎骨に穿孔したものでアアカニシなどと共に堅杵(第37次)を土坑に、箕や鞘入り石剣、盾、火鑽白・裏などと共に匙未成品が環濠の凹み(落ち込み)に、ト骨や盾、吉備産大形器台と共に匙未成品(第51次)が井戸に投棄された例などからは、匙が祭祀性のある木製品として扱われていたと想定することも可能である。このほか、環濠掘削後の環濠斜面(第40次)や、方形周溝墓の溝に鋸や鎌を放置した例(第91次)など、これら掘削行為に対する儀礼的な行為を想定できるものもある。

この他、年代を測定した木製品に、大型建物跡の柱がある。唐古・鍵遺跡の調査では、弥生時代中期初頭(第74次)と中期中頃(第93次)の2棟の大型建物跡が見つかっており、その柱穴の一部に柱が残存していた。第74次調査の建物跡では、直径60cmほどのケヤキ柱3本とクワの棟持柱が残っており、3本のケヤキ柱のうち、柱を据えた状態のままでも出土した2本には目渡穴がなく瘦せた柱で、倒された状態の北東の隅柱には目処穴が残った状態も良いものであった。これら2種の柱の違いは、炭素14年代測定法による年代でも異なり、前者は紀元前4～3世紀前半代、後者は下っても紀元前5世紀までの年代が与えられており、100年以上の開きがみられ、これらの違いからは柱が転用されていた可能性も考えられる。第93次調査の建物跡では、弥生時代最大級の直径83cmのケヤキ柱が見つかっている。炭素14年代測定法では、紀元前275年と同170年頃の可能性がある。

註

(1) 田原本町教育委員会『弥生遺産Ⅱ～唐古・鍵遺跡の木製品～』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録

2. 木器・木製品の概要



- ※ グラフ中の広葉樹はゴシック体、針葉樹は明朝体で示した。
- ※ 出土樹種の「その他」には、同定数が5点以下の樹種（ウルシ科、マキ科、ヤナギ科等）を含む。
- ※ 鉄・銅のうち、身と柄で樹種の異なるものは、身のデータを採用した。

第2図 唐古・鍵遺跡の木製品別にみた樹種選択の傾向

第1部 個別資料の概要

2. 石器・石製品の概要

1943年に発刊された唐古池の発掘調査の成果報告書『大和唐古弥生式遺跡の研究』⁽¹⁾において、土器や木製品以外の石器の報告も重要である。打製石器においては、各種打製石器の説明とともに、多量に出土する「若干の加工のある剥片の類や単なる核石等」からこの遺跡においては石器製作がおこなわれていたこと、また、打製石器に用いられる「讃岐石」が、二上山産であることを推定した。また、石庭丁においては、出土地点の関係を整理し、前期には「変質安山岩（流紋岩）を用い背部が直線形で両刃の形式、中期には「輝岩」（結晶片岩）を用い背部が外湾形で片刃の形式に変遷するということが明らかにした。さらに未成品の存在から製作工程や、敲打と錐による穿孔手法などを解明し、近畿地方の石器研究の基礎が作られた。

さて、唐古・鍵遺跡は、弥生時代の全期間を通して継続的に営まれた中核的な大集落であり、多量の土器とともに石器・石製品も数多く出土している。これら石器・石製品の石材の供給は、沖積地に立地する唐古・鍵集落内では困難であり、集落近隣の初瀬川等からの採集、あるいはサヌカイト（二上山西麓）や結晶片岩（紀ノ川中流）、流紋岩（耳成山）などの特定石材については原石採集地からの流通によって獲得していたと考えられる。奥田尚氏の同定によると、近畿地方を主としておおよそ13ヶ所から運ばれてきていると推定されている⁽²⁾。

唐古・鍵遺跡の発掘調査（第3～121次）で出土した石器・石製品（各調査単位での任意的な自然石サンプルや中世遺構における礎石等を除く）の総量は、おおよそ遺物箱（W34 cm × D54 cm × H15 cm）に換算して約230箱である。これらは、弥生時代から近世までのものも含まれるが、石器・石製品としては大半が弥生時代の所産のものである。弥生時代の中での石器・石製品の変遷・数量は把握できていないが、弥生時代前期と後期がかなり少ないので、弥生時代中期の石器・石製品がその主体であったと推定される。

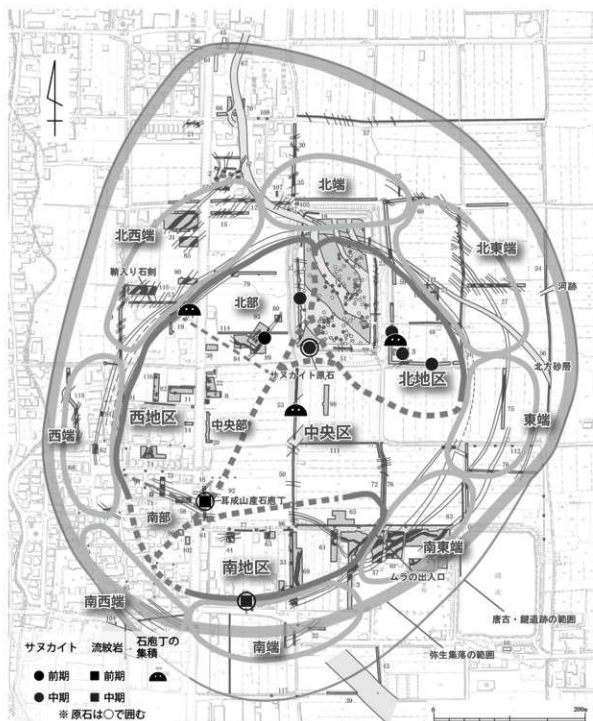
石器・石製品の中で、最も多いのはサヌカイト石材で約96箱を占めている。地区別にみると、『唐古・鍵遺跡I』の報告⁽³⁾では、南地区（第61・65・69次分／調査面積1,800㎡）のサヌカイト総量は約94kgであり、1㎡あたり約52gである。西地区北部（第79・80・84・89・93次分／



写真3 埋納されたサヌカイト原石 (第37次)



写真4 穴に投棄されたサヌカイト剥片 (第93次)



第3図 唐古・縄遺跡の調査成果と地区区分および石器の原石・割片と石龜丁の集積分布図 (S=1/5,000)

調査面積 1,752 m²)でのサヌカイト総量は約 144 kgであり、1 m²あたり約 81 gで、特に第 80 次約 180 g、第 93 次約 112 gと群を抜いて多いことが判明している。また、第 79・84 次では石核の点数が多い。中央区 (第 98 次分/調査面積 253 m²)でのサヌカイト総量は約 37 kg、1 m²あたり約 151 gで、特に群を抜いて多い。この調査区では未成品や製作失敗品と考えられるものも多くあり、西地区北部から中央区北部にかけて、石器製作に関わる場を想定できよう。上記 2 地区から

第I部 個別資料の概要

50mほどの地点にはサヌカイト原石が集積された土坑（第37次調査 SX-4101）、サヌカイト剥片や失敗品が投棄された土坑（第37次調査 SK-2114）があり、このような想定を裏付ける資料となる。

サヌカイト製品の集落でのあり方で、特別な状況を示すものは前述した第37次調査例のようなものがあるが、遺跡全体では少ない。唐古・鍵遺跡でのサヌカイト原石の集積は、第37次調査例が唯一で、集積された6点のサヌカイト原石の重量は約2.5、3.1、4.7、6.1、8.4、11.5kgである。この内、重量の重い3点は原石あるいは原石に一打撃のみを加えただけのものである。サヌカイト原石は、これらが最大の大きさであるが、他に、0.8kg（長軸12cm×短軸10cm）ほどの小形の原石もみられ、集落への搬入の大きさはさまざまなようである。このほか、多量の剥片や失敗品等を集積して大形土坑に投棄した例（第37・59・93次）、微細剥片を小ピットに一括廃棄した例（第5・33・59次）がある（第3図）。小ピットへの廃棄内容は、最終工程の微細片のみであり、製作途中品等を含む全体の製作と異なる場面を想定する必要があるかもしれない。

一方、磨製石器の主体を占めるのは、石庖丁である。石庖丁の石材は、主として弥生時代前期には流紋岩、中期には結晶片岩が使われている。粘板岩系の石材は、数点である。流紋岩は、唐古・鍵遺跡の南方6kmにある耳成山産のものが使われている。流紋岩の原石・剥片は、西地区中央部南端の第16次調査地でまとまって出土しており、遺物箱5箱分が出土している。いずれも大溝や土坑に投棄された状態のもので、集積状況を示すものはない。原石は20×35cm前後で、重量10kgほどのものである。この他、第16次調査地の南東110mの第52次調査地や西方20mの第58次調査地においても原石が散見しており、第16次調査地付近が流紋岩の集積地と考えられよう。この流紋岩は硬く、磨製の石庖丁の製作にあたっては結晶片岩と比較して効率が悪い。このことから、中期段階の石庖丁は結晶片岩製に移行・使用された。結晶片岩製石庖丁では、未成品があることから集落内で製品化をおこなっているが、未成品の全長は20cmほどのものが最大であるので、素材としても進んだ段階のものが運ばれてきている可能性がある。このような磨製の穂道具のほか、大形剥片を利用した「大型直縁刃石器」も数点出土しているが、点数的にはごく僅かであり、時期的にも弥生時代の前期段階が中心と考えられる。



写真5 流紋岩原石の出土状況（第16次）



写真6 集積・埋納された石庖丁（第59次）

2. 石器・石製品の概要

上記のようなサヌカイト製の各種打製石器や磨製石庖丁は、未成品が出土することから唐古・鍵集落内での製作が判明しているが、一方で未成品が出土しない太型蛤刃石斧や挟入り柱状片刃石斧が存在する。ただし、小形の石斧である扁平片刃石斧や柱状片刃石斧は、大形の石斧や石庖丁からの転用品の可能性が高いので、中・大形の石斧が製品として特殊な流通経路をもって唐古・鍵遺跡に運ばれてきたと考えられるであろう。

この他、砥石類では、手持ちと置き型のものがある。形態的には、扁平板状・柱状（楕形）・滴形がある。この中で、鑄造関連遺物が多く出土した南東端の第61・65次調査地から出土した砥石は注目される。金属器を磨くための砥石と考えられる、小形の柱状片刃石斧状のものである。

礫石器の多くは、敲打痕や摩擦痕をもつ調理具と考えられるものである。この中には朱の付着するものも見られることから、朱の精製にかかわる道具も存在したようである。

上記のような日常的な使用が考えられる工具・狩猟具・武器等のほか、特殊な祭祀具も存在する。1つ目は縄文時代の伝統を残す石器群で、石棒（石製品013～016）や独鈷石（石製品017）、環状石斧（磨製石器223～225）、多頭石斧（磨製石器226）である。点数的には少なく、前期から中期前半のものが多い。2つ目は青銅祭器との関連を示す矛形石製品（磨製石器222）である。

唐古・鍵遺跡における石器・石製品の概要は、上記のとおりであるが、これとは別に石器の使用方法を示すものが3点ある。いずれも木製品との関連で判明したもので、鞘入り石剣（木製品123／打製石器211）、柄付きの打製石戈（木製品124）、柄付きの石小刀（木製品012／打製石器259）である。いずれも類例のない重要な遺物である。

註

- (1) 末永雅雄・小林行雄・藤岡謙二郎『大和唐古弥生式遺跡の研究』京都帝国大学文学部考古学研究报告第16冊 1943
- (2) 奥田尚「第1節 唐古・鍵遺跡出土石器の石種」『唐古・鍵遺跡Ⅰ—特殊遺物・考察編—』田原本町埋蔵文化財調査報告第5集 2009
- (3) 田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡Ⅰ—遺構・主要遺物編—』田原本町埋蔵文化財調査報告第5集 2009

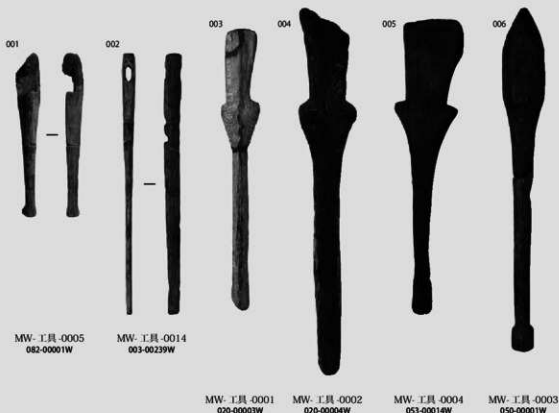
第Ⅱ部 考古資料目録

第Ⅱ部 凡例

1. 遺物は、木器・木製品（以降、「木製品」という）、石器・石製品の順に掲載し、石器・石製品は打製石器、磨製石器、石製品、礫石器の順に掲載した。また、遺物の所属時期は共伴した土器を指標とし、大和土器編年に従い、「大和第〇-□様式」と記載した。ただし、石器・石製品については、土器包含層や中世遺構等からの出土であるなどの理由で、詳細な時期を判別できないものについては「弥生時代」「弥生時代前・中・後期」と記載した。
2. 遺物の掲載に際し、木製品は「MW」、石器・石製品は「MS」から始まる管理番号を付記した。遺物が複数の破片等にわたるものは、それぞれの写真に管理番号の枝番を付した。
3. 上記管理番号とともに、回数ごとの製品コードを付記した。これは頭3桁が調査回数、続く5桁を基本的には器種ごとに順に付している。末尾のW・SはWood(木)・Stone(石)の略号である。
4. 遺物の大きさの単位はcmとし、小数点第2位以下を四捨五入し、第1位までを記載した。なお、複数の遺物を単一の観察表にまとめているものは、法量が残存値である場合()を、復元値である場合※を用いて表記した。また、木製品は保存処理後の法量である。
5. 木製品の保存処理方法は、以下のように略して観察表に記した。
 - 「ラクチトール」……ラクチトール含浸法
 - 「ラクチ・トレハ」……ラクチトール・トレハロース含浸法
 - 「PEG」……PEG含浸処理法
 - 「脂肪酸」……脂肪酸エステル法
 - 「アルコール」……高級アルコール保存処理法
 - 「アル・キシ」……アルコール・キシレン・樹脂法
 - 「真空凍結」……真空凍結乾燥法
6. 掲載した木製品の写真の縮尺は任意である。石器・石製品は一部を除き縮尺は1/3である。
7. 掲載遺物の未接合破片は、巻末に附、遺物図版として掲載した。

001～006 木製品（工具/直柄縦斧柄・未完成品）

001～006



調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共存時期/年代	長さ	幅	形状	保存処理	
001	第82次	SK-209	第3層	—	W-301	271	大和第1-1様式	64.7	5.1	アクリル 樹脂	PEG
002	第3次	SD-106	—	黒粘土	—	10647	大和第III-V-1様式	55.8	3.6	アクリル 樹脂	PEG
003	第20次	SK-215	第5層	青灰色微砂	W-501	759	大和第1-2様式	59.8	8.4	アクリル 樹脂	PEG
004	第20次	SK-215	第5層	青灰色微砂	W-503	759	大和第1-2様式	77.9	12.3	—	PEG
005	第53次	SR-1018	第6(下)層	黒粘土	W-651	384	大和第1-1様式	62.7	13.6	アクリル 樹脂	樹脂酸
006	第50次	SD-106	第3層	—	W-301	311	大和第II-2様式	72.9	9.1	コナラ属	樹脂酸

木製品001は、西地区中央部の第82次調査の土坑から出土した直柄縦斧柄である。頭部の一部を欠損する。頭部の断面はやや丸みのある三角形、握り部は楕円形を呈す。小形の直柄で、頭部左側面の装着溝は頭部の中心に向かって広がる「鍔溝」形態で、石斧等の断面形態に沿わない。握り基部は突起を作り出す。共存土器は大和第1-1様式である。

木製品002は、南東端の第3次調査の環濠から出土した直柄縦斧柄である。頭部から直線的に徐々に細くなる柄で、側面の一部を欠損する。断面は楕円形である。頭部には縦長の楕円孔をあける。共存土器は大和第III・IV-1様式である。

木製品003・004は、西地区中央部の第20次調査の木器貯蔵穴から、一括出土した直柄縦斧柄未完成品である。木製品003は頭部が扇形に広がり、その下位は段を成してくびれる形態である。握り部は棒状を呈す。木製品004は頭部の一部を欠損する。木製品003よりもひとまわり大きく、製作工程も進んでいない。頭部は扇形に広がり、その下位は段を成してくびれる。握り部も太い。いずれも共存土器は大和第1-2-a様式である。

木製品005は、中央区の第53次調査の落ち込み状遺構から出土した直柄縦斧柄未完成品である。握り部の太さに比較して頭部がかなり大きい。頭部は扇形に広がり、その下位は段を成してくびれる。頭部の一側面は直線的である。出土時に土器口縁が頭部に接していたため、土器圧痕の凹みがある。握り部は、基部をやや太くする。共存土器は大和第II-1様式である。

木製品006は、中央区の第50次調査の区画溝から出土した直柄縦斧柄未完成品である。柄部の一部を欠損する。握り部からゆるやかにふくらむ頭部をもつ。頭部は上・下面が平坦で、横断面が台形を呈する形態である。握り部の断面は丸く、基部は突起を作り出す。共存土器は大和第II-2様式である。

007 木製品 (工具 / 膝柄横斧柄)

本木製品は、西地区中央部の第74次調査の土坑から出土した。完形品。斧台は小さく、その先端は段を成して短くすばまる。この部分に鹿角製の斧台の間接具(『目録Ⅳ』掲載予定、骨角牙027)が装着されていた。この鹿角製斧台の装着面は前面にあり、幅・長さから小形方柱状石斧が装着された可能性が高い。握り部は斧台に比べて長く、ゆるやかに反っている。共伴土器は大和第三-2様式である。

第74次調査
遺構：SK-113
層位：第10層
土色：灰黒色粘砂
取上：—
No.：324
共伴：大和第三-2様式
長さ：38.5
台部長：11.2
樹種：コナラ属?カガシ亜属
保存処理：ラクチツール

MW-工具-0010
074-00002W

間接具(骨角牙製品027)の装着状況

007

008 木製品 (工具 / 膝柄横斧柄)

本木製品は、西北端の第19次調査の環濠から出土した。斧台の一部と握り部下半を欠損する。斧台の後面全体は平坦である。斧台の先端は段を成してひとまわり小さく削り出し、後面を平坦にして装着面とする。前面の先端は小さく、突起を設ける。装着面の幅・長さから小形方柱状石斧が装着された可能性が高い。共伴土器は大和第三-1様式である。

第19次調査
遺構：SD-204
層位：第10層
土色：黒粘
取上：—
No.：859
共伴：大和第三-1様式
残存長：17.0
台部長：14.7
樹種：カヤ
保存処理：ラクチツール

MW-工具-0008
019-00018W

008

009 木製品 (工具 / 膝柄横斧柄)

本木製品は、西地区中央部の第16次調査の区画溝から出土した。握り部の下半を欠損する。斧台後面の装着面は一段削り込み、その中央は僅かに凹む。それに対応する斧台前面の中央は、緊縛用に一段削り込む。共伴土器は大和第三-3様式である。

第16次調査
遺構：SD-101
層位：—
土色：黒褐色砂質土
取上：W-03
No.：79
共伴：大和第三-3様式
残存長：29.7
台部長：18.5
樹種：—
保存処理：PEG

MW-工具-0006
016-00005W

009

第II部 考古資料目録

010



MW-工具-0015
003-00079W

010 木製品 (工具 / 膝柄横斧柄)

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から、木製品037・038・041・052～054・057・076・188とともに出土した。握り部の下端を欠損する。斧台後面の装着面は一段削り込む。削り込み部分は、17.5cmの長さがある。斧台前面の先端は、緊縛用に一段削り込む。共伴土器は大和第V様式である。

第3次調査	
遺構:	SD-102
層位:	—
土色:	黒粘II
取上:	W-07
No.:	10560
共伴:	大和第V様式
残存長:	35.0
台部長:	22.4
樹種:	コナラ
保存処理:	PEG

011



MW-工具-0011
026-00031W

011 木製品 (工具 / 膝柄横斧柄未成品)

本木製品は、北地区の第26次調査の井戸から出土した。斧台の一部を欠損する。斧台と握り部をほぼ成形したものである。斧台は長く、後面は平坦である。握り部の断面は細く丸い。共伴土器は大和第II-3-b様式である。

第26次調査	
遺構:	SK-1102
層位:	第5層
土色:	黒粘
取上:	W-501
No.:	392
共伴:	大和第II-3様式
長さ:	47.2
台部長:	25.9
樹種:	—
保存処理:	ラクチトール

012



MW-工具-0012 (MS-打他-0089)
033-00105W (033-004085)

012 木製品 (工具 / 石小刀柄)

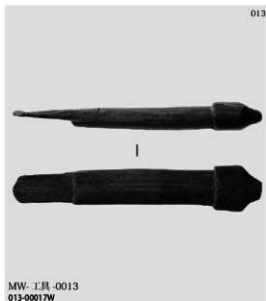
本木製品は、南地区の第33次調査の井戸から出土した。柄部は完形で、石小刀の刃部(打製石器259)は折損する。柄部は、基部がやや太く、先端に向かってすぼまる形態である。丸棒の先端にスリットを入れ、石小刀の基部を差し込み、樹皮で全面を緊縛している。樹皮は、石小刀の圧力によって一部切れている。共伴土器は大和第II-3-b様式である。

第33次調査	
遺構:	SK-123
層位:	第2層
土色:	灰黒粘
取上:	W-208
No.:	603
共伴:	大和第II-3様式
長さ:	5.9
幅:	2.2
樹種:	—
保存処理:	ラクチ・トレハ

013 木製品 (工具 / 柄)

本木製品は、北西端の第13次調査の環壕から出土した。完形品。柄部は、基部から先端に向かってややすぼまる形態で、基部は一段太く作り出している。断面は、縦長の楕円形を呈す。先端は、片面を一段削り込み、工具の装着面とする。また、その反対面の先端は突起を設け、繫縛用の紐かけを作り出す。共伴土器は大和第四V-1様式である。

第13次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：植物層
取上：—
No.：110
共伴：大和第四V-1様式
長さ：9.2
幅：1.7
樹種：—
保存処理：アル・キシ

MW-工具-0013
013-00017W

014 木製品 (農具 / 狭鋏身)

本木製品は、北西端の第19次調査の木器貯蔵穴から出土した。完形品。縦長の短冊形で、刃部は丸くなっている。柄孔の隆起は紡錘形を呈すが、上部は丸く、下部は細長く尖った形態である。後面は全体に炭化する。共伴土器は大和第二2様式である。

第19次調査
遺構：SK-1101
層位：第4層
土色：灰黒粘
取上：W-401
No.：565
共伴：大和第二2様式
長さ：34.7
幅：10.7
樹種：イチイガシ?
保存処理：PEG

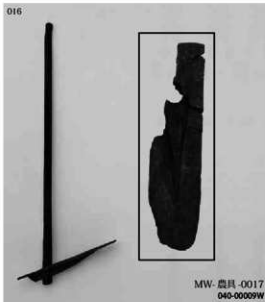
MW-農具-0009
019-00006W

015 木製品 (農具 / 狭鋏身)

本木製品は、南地区の第61次調査の区画溝から出土した。刃部・上端が欠損する。縦長の短冊形であるが、刃部がやや広がり丸くなっている。右側辺の上端は、僅かにくびれをもつ。柄孔の隆起は紡錘形を呈すが、上部は丸く、下部は細長く尖った形態である。共伴土器は大和第二3様式である。

第61次調査
遺構：SD-151CN
層位：第7層
土色：暗灰褐粘
取上：—
No.：1451
共伴：大和第二3様式
残存長：30.3
幅：9.1
樹種：イチイガシ?
保存処理：ラクチ・トレハ

MW-農具-0076
061-00009W



016 木製品（農具/狭鍬）

本木製品は、南東端の第40次調査の環濠から、鍬身に柄が装着された状態で出土した。柄の基部は僅かに突起を作り出す。鍬身は縦長の短冊形で、右側面を欠損する。柄孔の隆起は後面にあり、紡錘形を呈すが、上部は丸く、下部は細長く尖った形態である。共伴土器は大和第II-1様式である。

第40次調査
遺構：SD-104B
層位：第4(下)層
土色：一
取上：W-401
No.：378
共伴：大和第II-1様式
長さ：107.3
身部長：43.4
樹種：キナンドヤブ
保存処理：ラクチトール



017 木製品（農具/平鍬身）

本木製品は、北西端の第19次調査の木器貯蔵穴から出土した。側辺の一部を欠損する。縦長の長方形で、刃部は上端よりやや広い。左右側辺は中央よりやや上でくびれ部をもつ。このくびれ部とほぼ同じ位置に柄孔をあける。柄孔の隆起は紡錘形を呈すが、上部は丸く、下部は細長く尖った形態である。共伴土器は大和第II-2様式である。

第19次調査
遺構：SK-1102
層位：第4層
土色：黒粘
取上：W-405
No.：555
共伴：大和第II-2様式
長さ：31.6
幅：19.5
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG



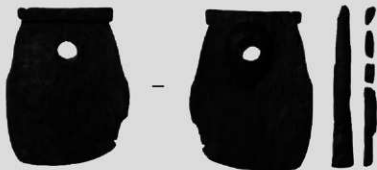
018 木製品（農具/平鍬）

本木製品は、南東端の第40次調査の環濠から、鍬身に柄が装着された状態で出土した。右側辺の一部を欠損する。鍬身は、左右側辺が上端でくびれ部をもつ形態で、縦長の三角形に台形を呈す頭部がつく。刃部はやや丸い。このくびれ部とほぼ同じ位置に柄孔をあける。柄孔の隆起は後面にあり、紡錘形を呈すが、上部は丸く、下部は細長く尖った形態である。共伴土器は大和第II-2様式である。

第40次調査
遺構：SD-104B
層位：第4層
土色：灰黒粘
取上：一
No.：351
共伴：大和第II-2様式
長さ：28.2
残存幅：16.2
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチトール

019 木製品（農具 / 平鍬）

019

MW-農具-0047
051-00004W

本木製品は、北地区の第51次調査の井戸から、盾(木製品118)等とともに、鍬身に柄が装着された状態で出土した。柄は腐食のため細く、断片となる。鍬身は右側辺の一部を欠損する。側辺上端にくびれ部をもち、縦長の台形を呈す。刃部はやや丸い。柄孔の隆起は後面にあり、上部が丸みのある舟形で、下部がやや尖る。前面の上端には、泥除装着のための段を設ける。段下部は、泥除が外れにくくなるように内側に挟り込む。また、段の下側は、柄孔の上端より斜めに削り込み、泥除の接着面を増やしている。共伴土器は大和第V-1様式である。

第51次調査

遺構：SK-104

層位：第5層

土色：—

取上：W-513

No.：120

共伴：大和第V-1様式

身部長：24.2

身部幅：18.8

樹種：コナラ属アカガシ亜属

保存処理：ラクチ・トレハ

020 木製品（農具 / 平鍬身）

020

MW-農具-0071
090-00001W

本木製品は、北西端の第90次調査の環濠から出土した。左側辺の一部を欠損する。上端が内湾ぎみにすばまる縦長の長方形を呈す。柄孔の位置から刃部は使用により、かなり磨り減っていると思われる。柄孔の隆起部は後面にあり、ほぼ円形を呈すが、下部がやや尖っている。前面の上端には、泥除装着のための段を設ける。段下部は、泥除が外れにくくなるよう内側に挟り込んでいる。また、段の下側は、柄孔の上端より斜めに削り込むことで泥除の接着面を増やしている。共伴土器は大和第V-1様式である。

第90次調査

遺構：SD-101C

層位：第16(下)層

土色：—

取上：W-1655

No.：92

共伴：大和第V-1様式

長さ：21.9

残存幅：19.4

樹種：コナラ属アカガシ亜属

保存処理：ラクチ・トレハ

021



021 木製品（農具/平鍬）

本木製品は、北西端の第29次調査の環濠から出土した。鍬身の右側辺部と刃部、柄の下半を欠損する。上端が内湾ぎみにすばまる縦長の長方形を呈す。柄孔の隆起部は後面にあり、柄孔部から緩やかに薄くなる。前面の上端には、泥除装着のための段が横方向に作られている。装着された泥除が外れにくいように、段は下部が内側に挟られている。共伴土器は大和第V-1様式である。

第29次調査
遺構：SD-110
層位：第2層
土色：植物層
取上：W-201
No.：37
共伴：大和第V-1様式
身部残存長：19.7
身部残存幅：14.1
樹種：コナラ属アカガシ等属
保存処理：脂肪酸

022



022 木製品（農具/平鍬身未成品）

本木製品は、南地区の第33次調査の木器貯蔵穴から、後述の一木鋤未成品(木製品059・060)・用途不明未成品(木製品218)とともに出土した。完形品。身の形態は縦長の長方形で、柄孔があげられ、隆起部は下部が尖った舟形に削り出している。両側辺は薄く仕上げられているが、刃は無く、厚みがあることから、刃をつける最終工程前の未成品である。共伴土器は大和第II-1-b様式である。

第33次調査
遺構：SK-208
層位：第5層
土色：灰褐色
取上：W-501
No.：1072
共伴：大和第II-1様式
長さ：27.2
幅：14.5
樹種：イチイガシ?
保存処理：PEG

023 木製品（農具／平鍬身未成品）

本木製品は、西地区中央部の第38次調査の木器貯蔵穴から、高杯未成品(木製品163)とともに出土した平鍬身未成品である。ほぼ完形品。上端が丸くなるが、幅広の長方形の形態である。隆起部はほぼ円形に削り出し、その上面には2cmほど抉る未完通の柄孔がある。身の厚みは1cmほどで、形・厚みともほぼ整えられており、刃部調整と柄孔製作途中の未成品である。共伴土器は大和第1-1b様式である。

第38次調査
遺構：SK-208
層位：第2層
土色：—
取上：W-202
No：177
共伴：大和第1-1様式
長さ：25.8
幅：20.5
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチトール

MW-農具-0074
038-0006W

023

024 木製品（農具／平鍬身未成品）

本木製品は、北地区の第23次調査の土坑から、後述の平鍬身未成品(木製品025)とともに出土した。刃部右端および上右端が欠損する。上端から刃部に向かってゆるやかに広がる身部で、左右両側辺の上端には三角形の突起部を作り出す。後面の隆起部は、上端が丸く、下方へ細長く尖った舟形である。隆起部の上面には約1.4cmほど抉った未完通の柄孔がある。身の厚みは、1.1cmほどで、形・厚みともほぼ整えられており、刃部調整と柄孔製作途中の未成品である。共伴土器は大和第II-3b様式である。

第23次調査
遺構：SK-151
層位：第5層
土色：灰黑色砂質土
取上：W-502
No：338
共伴：大和第II-3様式
長さ：33.8
幅：21.8
樹種：カシ
保存処理：脂肪酸→PEG

MW-農具-0038
023-00019W

024

025 木製品（農具／平鍬身未成品）

本木製品は、北地区の第23次調査の土坑から、前述の平鍬身未成品(木製品024)とともに出土した。刃部左端および上右端、柄孔隆起部の一部が欠損する。身部は上端がやや細くなるが、ほぼ縦長の長方形を呈する。隆起部は、下部が細く尖るタイプであるが、まだ形態的に整えられておらず、柄孔も無い。左側辺部が厚いが、右側辺部や刃部が薄く不揃いで、形を整える段階の未成品である。共伴土器は大和第II-3b様式である。

第23次調査
遺構：SK-151
層位：第5層
土色：灰黑色砂質土
取上：W-505
No：338
共伴：大和第II-3様式
長さ：44.1
幅：22.5
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ

MW-農具-0058
023-00007W

025

026



MW-農具-0013
033-00023W

026 木製品（農具／平鋸身未成品）

本木製品は、南地区の第33次調査の区画溝から出土した。ほぼ完形品。身部は長方形を呈す。紡錘形の隆起部で、柄孔はまだ無い。身の厚みは、0.7cmほどで、形態的にはかなり整えられている段階の未成品である。木製品の表面は、土中埋没中に乾燥した段階があったと考えられ、収縮痕がみられる。共伴土器は大和第II-1様式である。

第33次調査
遺構：SD-205
層位：第2層
土色：灰黒粘
取上：W-203
No：1026
共伴：大和第II-1様式
長さ：29.0
幅：16.0
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチトール

027



MW-農具-0057
022-00001W

027 木製品（農具／平鋸身未成品）

本木製品は、西地区中央部の第22次調査の井戸上層から出土した。右上端部の一部を欠損する。身部は長方形を呈す。隆起部は細長い紡錘形を呈し、柄孔はまだ無い。身の厚みは1cmほどで、形態的にはかなり整えられており、刃部調整と柄孔穿孔前の段階の未成品である。共伴土器は大和第II-3-a様式である。

第22次調査
遺構：SK-1101
層位：第3層
土色：黒粘
取上：W-309
No：366
共伴：大和第II-3様式
長さ：31.6
幅：16.1
樹種：イチイガシ
保存処理：脂肪酸→PEG

028



MW-農具-0010
020-00016W

028 木製品（農具／平鋸身未成品）

本木製品は、西地区中央部の第20次調査の区画溝から出土した。両側縁を微欠するが、ほぼ完形品。身部は長方形を呈すが、両側辺はやや内湾ぎみになる。上端に紡錘形の隆起部を削り出すが、柄孔はまだ無い。身の厚みは2.6cmほどで、上下端は連続する身部からの切断痕が残っており、切り離した段階の未成品である。共伴土器は大和第I-2様式である。

第20次調査
遺構：SD-201
層位：第5層
土色：灰黒粘
取上：W-546
No：686
共伴：大和第I-2様式
長さ：41.2
幅：22.2
樹種：アカガシ亜属
保存処理：脂肪酸→PEG

029 木製品（農具 / 平鋤身未成品）

029



MW_農具_0066
037-00001W

本木製品は、北地区の第37次調査の区画溝から出土した。側縁を小欠するが、ほぼ完形品。身部は長方形を呈すが、両側辺はやや内湾ぎみになる。上端には、紡錘形の隆起部を削り出すが、まだ柄孔は無い。前面の上端部と下端部に幅広の平坦面を設けるが、両端部を除く部分は内湾する。身の厚みは1.5cmほどである。下端部は連続する身部からの切断痕が残っている。共伴土器は大和第1様式である。

第37次調査
遺構：SD-4201
層位：第1層
土色：黒灰粘
取上：W-01
No.：908
共伴：大和第1様式
長さ：40.7
幅：32.6
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ

030 木製品（農具 / 平鋤身未成品）

030

本木製品は、西地区中央部の第16次調査の土坑から、縦杓子未成品(木製品141)とともに出土した。ほぼ完形品。2連の平鋤身の未成品である。2つの平鋤の身部は長方形を呈すが、両側辺はやや内湾ぎみになる。上下端には2つの紡錘形の隆起部を削り出すことによって、向かい合う身部となる。柄孔はまだ無い。身の厚みは2.5cmほどで、平鋤を切断する前の未成品である。共伴土器は大和第1-2-b様式である。

第16次調査
遺構：SX-102
層位：—
土色：黒粘Ⅲ
取上：W-07
No.：224
共伴：大和第1-2様式
長さ：74.4
幅：21.5
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG



MW_農具_0021
016-00009W

第Ⅱ部 考古資料目録

031



MW-農具-0014
023-0004W

031 木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、北地区の第23次調査の井戸上層から、後述の組合せ鋤身未成品(木製品066)とともに出土した。後面の上端部一部欠損。身上端からゆるやかに広がり、中央部から直線的に刃部にいたる形態である。身上半の中央に柄孔があけられる。明瞭な柄孔隆起部はなく、柄孔部から徐々に薄くなる。右側辺部は薄いが、刃部や左側辺部は2cmほどあり、薄く仕上げる前段階の未成品である。共伴土器は大和第三-4様式である。

第23次調査
遺構：SK-113
層位：第4層
土色：灰黒色粘質土
取上：W-401
No：402
共伴：大和第三-4様式
長さ：29.8
幅：20.4
樹種：イチイガシ?
保存処理：PEG

032 木製品（農具 / 平鍬身未成品）

032



MW-農具-0056
069-0009W

本木製品は、南地区の第69次調査の環濠から、後述の泥除未成品(木製品051)とともに出土した。完形品。身上端から1/3程度ゆるやかに広がり、その下は直線的に刃部にいたる形態である。前面の上端には、泥除装着のための横方向の段が作られており、その下位の柄孔にあたる部分を大きく削り込んでいる。身上端の厚みは約7cmもあり、後面の柄孔周囲の調整をする前段階の未成品と考えられる。共伴土器は大和第V-1様式である。

第69次調査
遺構：SD-1109
層位：第6層
土色：—
取上：W-680
No：1003
共伴：大和第V-1様式
長さ：30.7
幅：23.1
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチトール

033 木製品（農具 / 平鍛身未成品）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。完形品である。身部の平面形態は、上端から下方へ徐々に広がり、下半は縦長の台形を呈する。身部後面は平坦で、前面は身部中央にふくらみのある形態である。厚みは左側辺が薄く(約0.8 cm)、右側辺が厚い(約2.5 cm)。共伴土器は大和第V様式である。

第3次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：黒粘 I
取上：—
No.：10553
共伴：大和第V様式
長さ：45.3
幅：14.9
樹種：アカガシ亜属
保存処理：PEG

MW-農具-0087
063-0001SW

033

034 木製品（農具 / 平鍛身未成品）

本木製品は、南地区の第63次調査の区画溝から出土した。後述する木製品035・036と一括品で、形態や大きさから3連結した未成品を切り離したものである。後面上端の一部を欠く。身上端からゆるやかに広がり、中央部から直線的に刃部にいたる形態である。身上半から徐々に薄くなる。左側辺が厚く、右側辺は薄い。前・後面には多数の刃線痕がみられる。共伴土器は大和第V-1様式である。

第63次調査
遺構：SD-103A
層位：第3(下)層
土色：暗灰粘
取上：W-354
No.：311
共伴：大和第V-1様式
長さ：30.2
幅：19.1
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：脂肪酸

MW-農具-0077
063-0004W

034

035 木製品（農具 / 平鍛身未成品）

本木製品は、南地区の第63次調査の区画溝から、木製品034・036とともに出土した。完形品。身上端からゆるやかに広がり、中央部から直線的に刃部にいたる。身上半から徐々に薄くなる。右側辺が厚く、左側辺は薄い。上端の切断面は斜めで大きい。前・後面には多数の刃線痕がみられる。木製品034とほぼ同段階の製作工程で、身の厚みを減ずる途中段階の未成品である。共伴土器は大和第V-1様式である。

第63次調査
遺構：SD-103A
層位：第3(下)層
土色：暗灰粘
取上：W-356
No.：311
共伴：大和第V-1様式
長さ：29.3
幅：18.6
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：脂肪酸

MW-農具-0078
063-0005W

035

036



MW- 農具-0079
063-0006W

036 木製品（農具／平鍛身未成品）

本木製品は、南地区の第63次調査の区画溝から木製品034・035とともに出土した。完形品。身部上端からゆるやかに広がり、中央部から直線的に刃部にいたる形態である。身部上半から徐々に薄くなる。右側辺が厚く、左側辺は薄い。前面には刃線痕がみられる。本木製品は、木製品034・035より厚みがあり、後面の刃線痕がみられないことから、工程的には一段階遅れているものである。共伴土器は大和第V-1様式である。

第63次調査
遺構：SD-103A
層位：第3(下)層
土色：暗灰粘
取上：W-358
No.：311
共伴：大和第V-1様式
長さ：33.0
幅：19.9
樹種：イチイガシ
保存処理：脂肪酸

037



MW- 農具-0088
003-00063W

037 木製品（農具／平鍛身未成品）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から、木製品010・038・041・052～054・057・076・188とともに出土した。完形品である。身部は、縦長の長方形を呈し、左側辺上端がやや細くなる。前面は平坦で、後面側がやや丸みをもつ。上端には切断痕がみられることから、連結された平鍛身未成品の切り離された1つである。厚みは右側辺が薄く(約1.5cm)、左側辺が厚い(約3.5cm)。共伴土器は大和第V様式である。

第3次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：黒粘Ⅱ
取上：W-23
No.：10579
共伴：大和第V様式
長さ：38.3
幅：22.0
樹種：アカガシ亜属
保存処理：PEG

038



MW- 農具-0089
003-00064W

038 木製品（農具／平鍛身未成品）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から、木製品010・037・041・052～054・057・076・188とともに出土した。完形品である。身部は、縦長の長方形を呈し、左側辺上端がやや細くなる。前面は平坦で、後面側がやや丸みをもつ。上端には切断痕がみられることから、連結された平鍛身未成品の切り離された1つである。前面の上端は斜めに切断されている。後面には、縦方向の刃線痕が残る。厚みは右側辺が薄く(約1cm)、左側辺が厚い(約3cm)。共伴土器は大和第V様式である。

第3次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：黒粘Ⅱ
取上：—
No.：10578
共伴：大和第V様式
長さ：22.3
幅：15.2
樹種：アカガシ亜属
保存処理：PEG

039 木製品（農具／平鋏身未成品）

本木製品は、南地区の第37次調査の井戸中層から出土した。完形品。身の上端は水平でなく斜めに切断されている。その上端からゆるやかに広がり、下部から直線的になり刃部にいたる。身の厚みは上端で7cm、刃部で5cmほどあり全体に厚いが、特に後面の柄孔隆起部は意識されて厚い。また、左側辺が厚く、右側辺は薄い。単品として切断された段階の未成品であろう。共伴土器は大和第Ⅱ-3-b様式である。

第37次調査
遺構：SK-2139
層位：第5層
土色：灰黒粘
取上：W-501
No.：1066
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長さ：37.5
幅：26.4
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ



MW-農具-0048
037-00059W

039

040 木製品（農具／平鋏身未成品）

本木製品は、西地区北部の第79次調査の土坑から出土した。完形品。2連の平鋏身の未成品である。2つの平鋏の身は上端からゆるやかに広がり、中央部から直線的に刃部にいたる形態である。柄孔にあたる部分が厚く、刃部方向に薄くなる。後面には斜位の刃線痕が多数残る。単品に切り離す直前の未成品である。共伴土器は大和第Ⅳ-1様式である。

第79次調査
遺構：SK-130
層位：第5層
土色：—
取上：W-502
No.：653
共伴：大和第Ⅳ-1様式
高さ：61.1
幅：24.3
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ



MW-農具-0046
079-00002W

040

041



MW-農具-0044
003-00069W

041 木製品（農具／平鋤身未成品）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から、木製品010・037・038・052～054・057・076・188とともに出土した。片方の先端を僅かに欠くが、ほぼ完成品である。両端に身部、中央に頭部を作り出した杵状を呈す2連の曲柄平鋤身の未成品である。身部は、上端から刃部にかけてゆるやかにやや広がる形態である。身部先端の一方は約1.5cmと薄い、全体の厚みは3.0cmほどでほぼ均一である。共伴土器は大和第V様式である。

第3次調査
遺構：SD-102
層位：一
土色：黒粘Ⅱ
取上：W-20
No：10575
共伴：大和第V様式
長さ：106.2
幅：14.3
樹種：アカガシ亜属
保存処理：PEG

042



MW-農具-0075
049-00001W

042 木製品（農具／横鋤身）

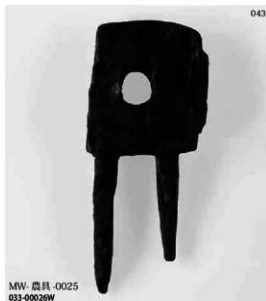
本木製品は、南地区の第49次調査の大溝から出土した。左側辺の一部を欠く。横長の長方形を呈す形態で、身部中央やや上側に柄孔をあける。柄孔部が厚く、徐々に刃部・側辺部に向かって薄くなる。特に側辺部の先端は、刃部より鋭い。共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。

第49次調査
遺構：SD-108
層位：東壁第4層
土色：一
取上：一
No：241
共伴：大和第Ⅲ-3様式
長さ：19.0
幅：36.6
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：脂肪酸

043 木製品（農具 / 又鋏身）

本木製品は、南地区の第33次調査の区画溝から出土した。身部両側辺と刃部の一部を欠損する。横長の身部中央に柄孔をあけ、柄孔部分は後面側が僅かにふくらむ。刃部は丸棒状で細く、2本が残存するが長さは不揃いである。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第33次調査
遺構：SD-202B
層位：第5層
土色：灰黒粘
取上：一
No：1063
共伴：大和第Ⅱ-2様式
残存長：22.9
残存幅：10.5
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクトール

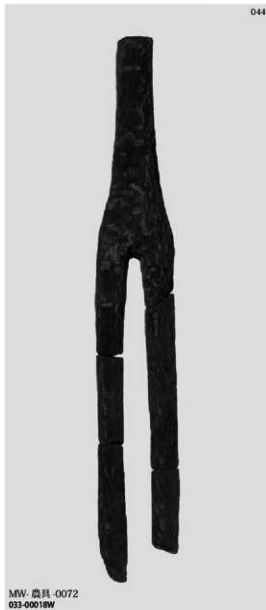


MW-農具-0025
033-00026W

044 木製品（農具 / 又鋏身）

本木製品は、南地区の第33次調査の土坑から出土した。刃部の両先端を欠損する。頭部から刃部へはゆるやかに広がる「ナデ肩」である。ほぼ同じ幅の刃部は、ほぼ真っ直ぐにのびる。横断面は蒲鉾形で、前面は平坦で、後面は丸くなっている。刃部の厚みは1.5cmほどで均一である。共伴土器は大和第Ⅲ-1様式である。

第33次調査
遺構：SK-134
層位：第4層
土色：灰黒粘
取上：W-401
No：515
共伴：大和第Ⅲ-1様式
残存長：79.8
幅：11.7
樹種：イチイガシ
保存処理：ラクチ・トレハ



MW-農具-0072
033-00018W

045



MW- 農具-0086
003-00415W

045 木製品（農具 / 又鋤身）

本木製品は、南東端の第3次調査の土坑から、絵西土器・記号土器（「目録IV」掲載予定、補遺絵画130・補遺記号096～098・102・104）とともに出土した。刃部の先端と側縁、肩部を僅かに欠く。頭部は直線的で、刃部へはゆるやかに広がるナデ肩で肩部は長い。刃部先端が広がる。頭部の横断面は蒲鉾形で、前面は平坦、後面が丸くなっている。頭部の端部近くに抉りを入れる。刃部の厚みは1.5cmほどで均一である。共伴土器は大和第VI-2様式である。

第3次調査	
遺構:	Plt-105
層位:	—
土色:	—
取上:	W-13
No.:	10648
共伴:	大和第VI-2様式
長さ:	66.8
幅:	12.8
樹種:	アカガシ亜属
保存処理:	PEG

046



MW- 農具-0080
079-00033W

046 木製品（農具 / 鋤曲柄）

本木製品は、西地区北部の第79次調査の環濠から出土した。柄の大半を欠損する。鋤身の刃部方向へ頭部が屈曲してのびる膝柄である。頭部は幹部分、柄は枝部分を利用する。頭部（鋤台）は、鋤身との装着面を平坦に削り、台部前面の上下端は緊縛のための突起を削り出している。共伴土器は大和第IV様式である。

第79次調査	
遺構:	SD-101B
層位:	第7層
土色:	—
取上:	W-701
No.:	401
共伴:	大和第IV様式
残存長:	22.1
残存高:	19.8
樹種:	サカキ
保存処理:	ラクチ・トレハ

047



MW- 農具-0002
013-00026W

047 木製品（農具 / 泥除）

本木製品は、北西端の第13次調査の環濠から出土した。泥除は、柄孔から上端の一部を欠損するが、欠損面を再加工している。また、土圧のため変形しているが、中央がふくらむようである。上端には鎌と緊縛するための小円孔を穿っていることから泥除と考えられる。ただし、泥除とした場合、形態的には隅丸の台形を呈すところが、逆台形である。柄孔周辺部に焼痕がある。共伴土器は大和第III・4様式である。

第13次調査	
遺構:	SD-106C
層位:	第7層
土色:	砂質土II
取上:	—
No.:	386
共伴:	大和第III-3・4様式
残存長:	15.7
残存幅:	35.1
樹種:	イチイガシ?
保存処理:	PEG

048 木製品（農具 / 泥除未成品）

048

本木製品は、西地区北部の第37次調査の土坑から出土した。下端を欠損する。やや横長の半円形を呈す。前面中央がふくらみ、それに対応するように後面の周縁を残して中央を僅かに抉っている。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

第37次調査
遺構：SK-2102
層位：第3層
土色：黒粘
取上：—
№：1062
共伴：大和第Ⅱ-3様式
残存長：17.6
残存幅：27.9
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラウチ・トレハ



MW-農具-0073
037-00040W

049・050 木製品（農具 / 泥除未成品）

049・050



MW-農具-0006
019-00001W



MW-農具-0007
019-00002W

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期/時代	長さ	幅	樹種	保存処理
049	第19次	SK-102	第8(上)層	黒色粘質土	W-801	777	大和第V-1様式	31.2	31.6	コナラ属アカガシ亜属	PEG
050	第19次	SK-102	第7層	黒粘	W-703	736	大和第V-1様式	25.0	30.3	イデイシ?	PEG

木製品049は、西地区中央部の第19次調査の井戸上層から、後述の木製品050とともに出土した泥除未成品である。完形品。2連あるいは3連の泥除未成品の右端の泥除未成品にあたる。圓丸の長方形にちかい形態を呈す。前面がふくらみ、それに対応するように後面を抉っている。左側辺部は僅かに切断痕が残るが、全体的には平面調整も少しおこなった段階の未成品である。共伴土器は大和第V-1様式である。

木製品050は、西地区中央部の第19次調査の井戸上層から、前述の木製品049とともに出土した泥除未成品である。完形品。上下辺が直線的な不整円を呈す形態である。前面の柄孔にあたる部分が僅かにふくらむ。全体的に薄くなり、ほぼ形態調整をおこなった段階のものであるが、木製品049よりは進行した未成品である。共伴土器は大和第V-1様式である。

051・052 木製品（農具 / 泥除未成品）

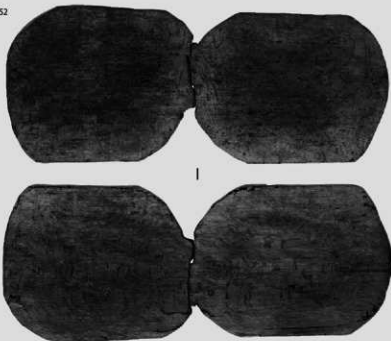
051・052

051



MW-農具-0063
069-0010W

052



MW-農具-0090
003-00065W

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	厚	保存処理
051	第69次	SD-1109	第6層	—	W-603	8.48	大和第V-1様式	28.2	5.88	仔(古)?	ラク子
052	第3次	SD-102	—	黒粘Ⅱ	W-01	10559	大和第V様式	31.0	7.60	7.5分厚	PEG
053	第3次	SD-102	—	黒粘Ⅱ	W-24	10554	大和第V様式	25.7	89.3	7.5分厚	PEG
054	第3次	SD-102	—	黒粘Ⅱ	W-19	10649	大和第V様式	25.5	103.0	7.5分厚	PEG

木製品051～054は泥除未成品である。

木製品051は、南端の第69次調査の環濠中層から、平鐵未成品(木製品032)とともに出土した。完形品。泥除が2つ連結した未成品であるが、左右側辺部の形態の差異から右側辺部は未成品を切り離した痕跡と推定され、本来は3連結以上の未成品であったと思われる。単品の形態は、隅丸方形にちかい形態である。いずれの上辺にも樹皮が残存していた。前面の柄孔にあたる部分が厚くふくらみ、それに対応するように後面の中央を削り込んでいる。後面側の刃線や側辺部の切断痕は鋭い。共存土器は大和第V-1様式である。

木製品052～054は、南東端の第3次調査の環濠から、木製品010・037・038・041・057・076・188とともに出土した。

木製品052は、2つに分かれるが、ほぼ完形品。上下辺が直線的な不整目を呈す形態で2連結の未成品であ

053・054 木製品（農具／泥除未成品）

053・054

053



I

MW-農具_0091
003-00066W

054



I

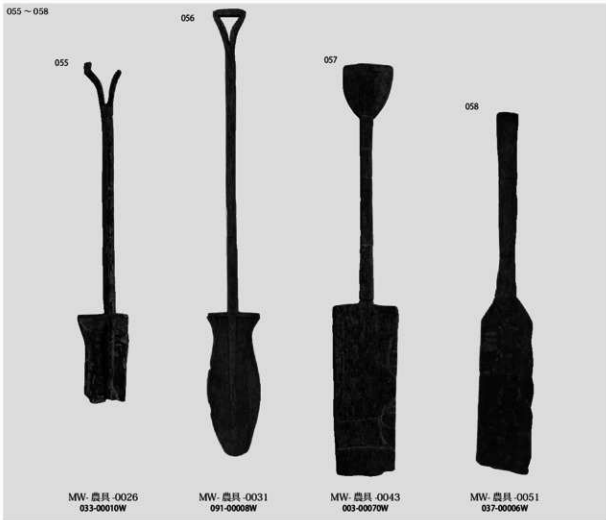
MW-農具_0092
003-00477W

る。切り離し部分は、下辺は大きく、上辺を小さく挟んでいる。前面はややふくらみもち、それに対応するように後面中央をくぼめる。

木製品053は、3つに分かれるが、ほぼ完形品。上下辺が直線的な不整円を呈す形態で3連結の未成品である。左端の未成品は、052・054に比べ下辺が斜めになっている。切り離し部分は、下辺は小さく、上辺を大きく挟っている。前面はややふくらみもち、対応するように後面中央を僅かにくぼめる。

木製品054は、後面を一部欠く。上下辺が直線的な不整円を呈す形態で3連結の未成品である。切り離し部分は、下辺はなく、上辺のみ挟っている。前面の柄孔にあたる部分が厚くふくらみ、それに対応するように後面の中央を僅かにくぼめる。いずれも共伴土器は大和第V様式である。

055～058 木製品（農具・一木鋤・一木鋤未成品）



調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	備特	保存処理	
055	第33次	SD-110	第6層	灰黒粘	W-601	1148	大和第Ⅱ-1様式	(100.4)	(14.2)	子木製 055	PEG
056	第91次	SD-101D	第11層	—	W-1101	532	大和第Ⅱ-3様式	131.5	15.7	子木製 056	PEG
057	第3次	SD-102	—	黒粘Ⅱ	W-02	10643	大和第Ⅴ様式	121.3	18.6	アサギ 057	PEG
058	第37次	SK-2103	第3層	黒粘	W-308	122	大和第Ⅴ-1様式	106.6	16.0	イイダ 058	PEG
059	第33次	SK-208	第5層	灰黒粘	W-504	1072	大和第Ⅱ-1様式	122.1	17.5	子木製 059	PEG
060	第33次	SK-208	第5層	灰黒粘	W-503	1072	大和第Ⅱ-1様式	125.2	17.0	子木製 060	亜酢酸

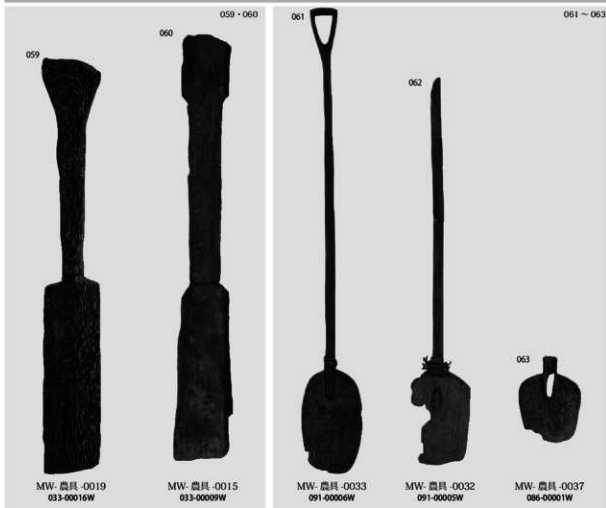
木製品055は、南端の第33次調査の環濠から出土した一木鋤である。把手部・身部左側辺部と先端を欠損する。把手は内湾ぎみの逆二等辺三角形を呈する。身上端は水平で肩があり、側辺部は内湾ぎみに細くなる。身部の横断面形は、後面において中央と両側辺部が立ち上がる。共存土器は大和第Ⅱ-1様式である。

木製品056は、南東端の第91次調査の環濠から出土した一木鋤である。把手は小さく、2辺がやや内湾する逆二等辺三角形を呈する。身上端は水平で肩があり、側辺部は上端がくびれ、中央で広がり、先端で細くなる。身部の横断面形は、後面において中央と両側辺部が立ち上がる。共存土器は大和第Ⅱ-3様式である。

木製品057は一木鋤未成品で、南東端の第3次調査の環濠から、木製品010・037・038・041・052～054・076・188とともに出土した。ほぼ完形である。柄の上端は逆二等辺三角形を呈する。身部の上端は水平で肩があり、側辺部は直線的で縦長の長方形を呈する。柄の部分はかなり細く削り出すとともに、把手や身部もかなり薄く成形している。身部後面はやや内湾ぎみになる。共存土器は大和第Ⅴ様式である。

木製品058は、西地区北部の第37次調査の井戸上層から出土した一木鋤未成品である。把手がない完形品である。身部の形状は柄から身部へは斜めの「ナデ肩」で、縦長の長方形を呈する。身部の側辺部に樹皮が残っていたが、現在剝離している。柄部は3.5cmの厚みがあるが、身部は1～2cmでかなり削りが進行した段階である。共存土器は大和第Ⅴ-1様式である。

059～063 木製品（農具／一木鋤未成品・組合せ鋤・組合せ鋤身）



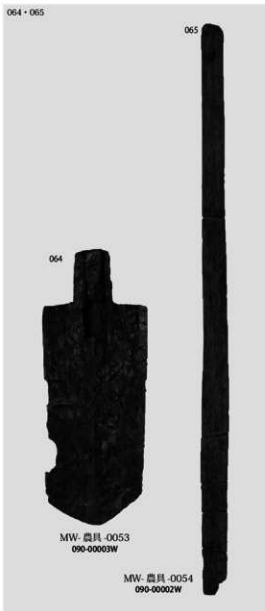
	調査次数	遺構	層位	土色	取土番号	No	共存時期・時代	長さ	幅	重量	保存状態
061	第91次	SD-201E	第5(下)層	—	W-551	992	大和第Ⅱ-3様式	137.0	17.6	3.5g	良好
062	第91次	SD-101D	第11層	—	W-1103	532	大和第Ⅱ-3様式	(114.0)	(17.4)	3.5g	良好
063	第86次	SK-6201	第2層	—	W-201	177	大和第Ⅱ様式	(25.9)	18.5	3.5g	良好

木製品059・060は、南地区の第33次調査の木器貯蔵穴から出土した一木鋤未成品である。平鎌身未成品(木製品022)および後述の用途不明未成品(木製品218)と共存する。いずれも完形品。059の柄上端は逆二等辺三角形、060は縦長の長方形を呈する。身部は、いずれも柄に比較して長めの縦長の長方形を呈する。060は把手と身部の側面に樹皮が残存する。共存土器はいずれも大和第Ⅱ-1-b様式である。

木製品061は、南東端の第91次調査の方形周溝墓の周溝から出土した組合せ鋤で、先端の一部を欠損する。柄は長く、上端は逆二等辺三角形の把手がつく。柄の下端は尖らせ、柄孔に挿入している。身の上部には断面「U」字形の着柄軸を設け、その延長上の身上部に柄孔を穿つ。この部分に柄を挿入し樹皮状のもので緊縛している。軸頭は紐かけの突起を削り出している。身部の平面形態は、縦長の楕円形を呈する。身部の横断面形態は、後面において両側辺部が僅かに立ち上がる内湾形態である。共存土器は大和第Ⅱ-3様式である。

木製品062は、南東端の第91次調査の環濠から出土した組合せ鋤で、柄部上端と身部左側辺部の一部を欠損する。柄の下端は尖らせ、柄孔に挿入している。身の先端から後面上部に断面「U」字形の着柄軸を設け、軸部下端に柄孔を穿つ。この部分に柄を挿入し樹皮状のもので緊縛している。軸頭は紐かけの突起を削り出している。身部の平面形態は、上端が斜めで縦長の長方形を呈する。身部の横断面形態は、後面において両側辺部が僅かに立ち上がる内湾形態である。共存土器は大和第Ⅱ-3様式である。

木製品063は、南地区の第86次調査の土坑から出土した組合せ鋤身で、刃部の一部を欠損する。身の先端には断面「U」字形の着柄軸を設け、延長上の身上部に柄孔を穿つ。軸頭は紐かけの突起を削り出す。身部の横断面形態は、後面において両側辺部が僅かに立ち上がる内湾形態である。共存土器は大和第Ⅱ様式である。



064 木製品（農具／組合せ鋤身未成品）

本木製品は、西北端の第90次調査の環濠から、後述の組合せ鋤柄未成品(木製品065)とともに出土し、それと組み合う鋤身の未成品である。身部右側辺部の一部を欠損する。身の先端には断面蒲筈形の着柄軸を設けている。着柄軸はまだ抉られていないが、その延長上の身上部は一段削り込まれている。柄孔はまだない。身部の平面形態は、先端が水平で側辺は直線的、刃部は幅広の「V」字形である。身部の後面はやや内湾、前面は中央がややふくらみを呈す形態である。共伴土器は大和第V-1様式である。

第90次調査
遺構：SD-101C
層位：第15層
土色：—
取上：W-1502
№：78
共伴：大和第V-1様式
残存長：48.7
幅：18.3
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ

065 木製品（農具／組合せ鋤柄未成品）

本木製品は、西北端の第90次調査の環濠から、前述の組合せ鋤身未成品(木製品064)とともに出土し、その着柄となる木製品の未成品である。柄部下端の一部を欠損する。直線的な柄で、柄上半の断面は楕円形、下半は長方形を呈し、下端は薄く尖りぎみになる。共伴土器は大和第V-1様式である。

第90次調査
遺構：SD-101C
層位：第16層
土色：—
取上：W-1604
№：85
共伴：大和第V-1様式
長さ：100.7
幅：4.8
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ



066 木製品（農具／組合せ鋤身未成品）

本木製品は、北地区の第23次調査の井戸上層から、前述平鍬身未成品(木製品031)とともに出土した組合せ鋤身未成品である。着柄軸の一部を欠損する。身の先端には断面「U」字形の着柄軸を設けているが、その延長上の身上部に柄孔はまだない。身部の平面形態は、先端が水平で側辺は直線的な縦長の長方形を呈する。身部の横断面形は、僅かに後面が内湾する形態である。共伴土器は大和第III-4様式である。

第23次調査
遺構：SK-113
層位：第2層
土色：黒粘
取上：W-201
№：193
共伴：大和第III-4様式
高さ：47.9
幅：18.2
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG

067 木製品（農具 / 組合せ鋤身未成品）

本木製品は、南地区の第33次調査の木器貯蔵穴から、後述の高杯未成品(木製品164)とともに出土した。刃部の一部を欠損する。身の上端に着柄軸にあたる突起を設けている。身部の平面形態は、上端が水平で側辺は直線的であるが刃部に向かって僅かに細くなる。身部の横断面形は、後面は平坦で、前面は身部中央にふくらみのある形態である。また、縦断面は上端から徐々に薄くなる。共伴土器は大和第三様式である。

第33次調査
遺構：SK-124
層位：第6層
土色：黒粘
取上：W-604
No：770
共伴：大和第三様式
長さ：45.7
幅：23.2
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG

MW-農具-0016
033-00014W

067

068 木製品（農具 / 組合せ鋤身未成品）

本木製品は、南地区の第63次調査の区画溝から、後述未成品? (木製品069)とともに出土した。刃部の一部を欠損する。着柄軸部分から身部上端に腐食がみられる。身の上端に着柄軸にあたる突起を設けている。身部の平面形態は、上端が水平で側辺は直線的であるが刃部に向かって僅かに細くなる。身部後面は平坦で、前面上半は身部中央にふくらみのある形態である。また、縦断面は上端から徐々に薄くなる。共伴土器は大和第五様式である。

第63次調査
遺構：SD-103A
層位：第3(下)層
土色：暗灰粘
取上：W-360
No：311
共伴：大和第五様式
長さ：56.3
幅：21.4
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ

MW-農具-0084
063-00019W

068

069 木製品（農具 / 組合せ鋤身未成品?）

本木製品は、南地区の第63次調査の区画溝から、前述組合せ鋤身未成品(木製品068)とともに出土した。両側辺の一部に腐食がみられる。長方形の板状で、上端が左右にナデ肩を呈する形状から、一本鋤未成品の身の部分として製作されたと推定される。柄の部分が欠損したため、他の用途(組合せ鋤身?)に転用したものと考えられる。後面は平坦で、前面はやや丸みをもつ。上端が厚く、下端に向かって薄くなる。下端部は、両面から削り尖る。共伴土器は大和第五様式である。

第63次調査
遺構：SD-103A
層位：第3(下)層
土色：暗灰粘
取上：W-359
No：311
共伴：大和第五様式
残存長：59.6
残存幅：17.6
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：脂肪酸

MW-農具-0085
063-00014W

069

070・071 木製品（農具／一木又鋤）

070・071



MW-農具-0082
096-0003W

MW-農具-0081
069-00013W

072 木製品（農具／掘り棒）

072



MW-農具-0083
019-0008W

調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共存時期/時代	長さ	幅	厚	保存処理
070	第98次	SX-201	第2層	—	W-201	557	大和第Ⅱ-1様式	74.80	(1.37)	—
071	第69次	SD-1109	第6層	—	W-665	1003	大和第V-1様式	86.61	11.8	子午線照準 子午線照準 5591-1
072	第19次	SD-204	第7層	暗褐色粘砂	W-702	717	大和第IV-1様式	109.4	5.5	— 5591-1

木製品070は、中央区の第98次調査の落ち込み状遺構から出土した。一木又鋤とするが、類例が少ない。把手と刃部の一部を欠損する。上端に横長の長方形の把手、その下に縦細の長方形と砂時計形の透孔をあける。刃部は二股で、細い。先端は尖る。前面・後面の区別はほとんどつかない。共存土器は大和第Ⅱ-1-b様式である。

木製品071は、南地区の第69次調査の環濠から出土した。前述木製品070とほぼ同じ形態で一木又鋤とするが、類例が少ない。把手と刃部の一部を欠損する。把手は逆二等辺三角形で、その下に縦長の不整長方形の透孔をあける。刃部は二股で、細い。前面・後面の区別はほとんどつかない。片面はほぼ炭化している。共存土器は大和第V-1様式である。

木製品072は、西北端の第19次調査の環濠から出土した掘り棒である。基部を小欠するが、ほぼ完形品である。長柄の先端に、木葉形の小さな身部がつく。柄は、断面円形を呈する。身部は、後面はやや内側りであるが、先端部は丸い。共存土器は大和第IV-1様式である。

073 木製品（農具 / 穂摘具）

本木製品は、西北端の第19次調査の環濠から出土した。完形品。刃部に対して75°の角度で木目が走るもので、側辺が木目と平行する平行四辺形を呈する。四辺形の四隅は、使用により丸くなる。背近くに2孔一對の紐孔を穿っている。紐孔はやや左寄りで、横長の楕円形である。刃部は使用のためやや内湾する。共伴土器は大和第四-1様式である。

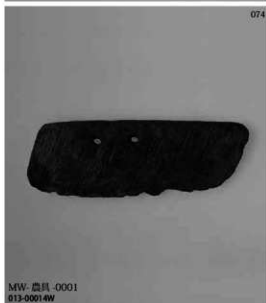
第19次調査
遺構：SD-204
層位：第7層
土色：暗褐色粘砂
取上：W-701
No.：717
共伴：大和第四-1様式
長さ：4.9
幅：11.9
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：アルコール



074 木製品（農具 / 穂摘具）

本木製品は、西北端の第13次調査の環濠から出土した。完形品。刃部に対して70°の角度で木目が走るもので、側辺が木目と平行する平行四辺形を呈する。背近くに2孔一對の紐孔を穿っている。紐孔はやや左寄りである。刃部は使用のため一部欠ける。共伴土器は大和第四-1様式である。

第13次調査
遺構：SK-107
層位：第5層
土色：粗砂層
取上：W-501
No.：564
共伴：大和第四-1様式
長さ：5.5
幅：15.7
樹種：コナラ属クヌギ節
保存処理：PEG



075 木製品（農具 / 穂摘具）

本木製品は、西北端の第19次調査の土坑から出土した。完形品。刃部に対して70°の角度で木目が走るもので、側辺が木目と平行する平行四辺形を呈する。背近くに2孔一對の紐孔を穿っている。刃部は使用のため一部磨り減っている。共伴土器は大和第三-2様式である。

第19次調査
遺構：SK-1104
層位：第7層
土色：黒粘
取上：W-701
No.：1115
共伴：大和第三-2様式
長さ：5.4
幅：16.1
樹種：—
保存処理：ラクチ・トレハ



076



MW-農具-0093
003-00077W

076 木製品（農具 / 穂摘具）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から、木製品010・037・038・041・052～054・057・188とともに出土した。刃部を僅かに欠くが、ほぼ完形品である。刃部に対して60°の角度で木目が走るもので、側辺が木目と平行する平行四辺形を呈する。平行四辺形の左側辺が長く、右側辺は短い。表面の背近くには、幅約0.8cmの溝を彫り、その溝内に2孔一対の紐孔を穿つ。紐孔は左寄り、横長の楕円形である。刃部は使用によりやや内湾するとともに鋸歯状になる。共伴土器は大和第V様式である。

第3次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：黒粘Ⅱ
取上：W-28
No：10650
共伴：大和第V様式
長さ：6.3
幅：17.8
樹種：—
保存処理：PEG

077



MW-農具-0094
003-00012W

077 木製品（農具 / 穂摘具）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。周縁を僅かに欠くが、ほぼ完形品である。刃部に対して75°の角度で木目が走るもので、側辺が木目と平行する平行四辺形を呈する。表面の背近くには、幅約1cmの溝を彫り、その溝内に2孔一対の紐孔を穿つ。紐孔はやや右寄り、円形である。背部から刃部に向かって薄くなる。共伴土器は大和第V様式である。

第3次調査
遺構：SD-102N
層位：—
土色：—
取上：—
No：10599
共伴：大和第V様式
長さ：6.3
幅：12.4
樹種：未同定
保存処理：PEG

078



MW-農具-0096
003-000417W

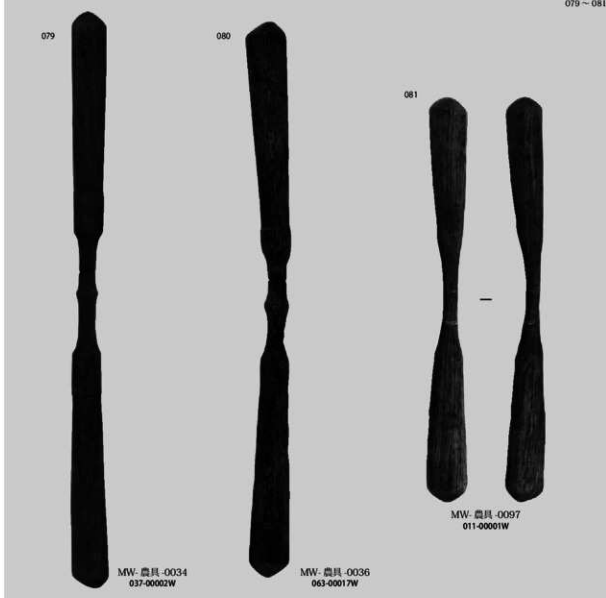
078 木製品（農具 / 穂摘具未成品）

本木製品は、南東端の第3次調査の土坑から出土した。周縁を僅かに欠くが、ほぼ完形品である。形状から穂摘具未成品と考えられる。刃部に対して70°の角度で木目が走るもので、側辺が木目と平行する平行四辺形を呈する。背部から刃部に向かって薄くなる。共伴土器は大和第V様式である。

第3次調査
遺構：Pit-105
層位：—
土色：—
取上：—
No：10596
共伴：大和第V様式
長さ：6.8
幅：17.9
樹種：未同定
保存処理：PEG

079～081 木製品（農具／竪杵）

079～081



	調査次数	遺構	層位	土色	取土番号	No	共存時期・年代	長さ	径	種類	保存処理
079	第37次	SK-2114	第6(下)層	—	W-1607	469	大和第Ⅲ-1様式	120.8	7.2	ヤブツバサ	PEG
080	第63次	SD-103B	第4(下)層	黒灰色粘質土(植物)	W-451	336	大和第Ⅲ-2様式	116.5	8.5	ツバサ	PEG
081	第11次	SK-115	下層	黒粘土	—	10428	大和第Ⅵ-3様式	84.5	8.3	—	PEG

木製品079～081は竪杵である。

木製品079は、西地区北部の第37次調査の土坑から、木製品080は、南地区の第63次調査の区画溝から出土した。ともに完形品である。搦き部と握部から成る上下対称の杵である。中央の1ヶ所にやや低い算盤玉状の節帯を作り出す。搦き部は、両端から握部に向かって徐々に細くなり、握部との界に幅広く低い隆起帯を巡らせる。079の搦き部両端は、尖りぎみである。079の搦き部の横断面は円形を呈し、080では楕円形を呈す。079の共存土器は大和第Ⅲ-1様式、080の共存土器は大和第Ⅲ-2様式である。

木製品081は、西地区中央部の第11次調査の土坑から出土した。握部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。搦き部と握部から成る上下対称の杵である。中央に節帯のない素朴な作りである。搦き部は、両端から握部に向かって徐々に細くなり、握部との界は僅かに屈曲させる。搦き部両端は、尖りぎみである。共存土器は大和第Ⅵ-3様式である。



082 木製品 (農具/白)

本木製品は、南地区の第69次調査の井戸杵(集水施設)として転用されていたものである。大白の底を打ち欠き、逆さにして井戸底に据え、この大白の上に底部を打ち欠いた大裏(目録Ⅱ「特殊115」)を重ねていた。円筒状の内部を逆円錐状に深く削り貫き、搦き部としたものである。外面も内面の搦き部に合わせた形に削り貫くが、四方には縦方向に把手を削り残す。共伴土器は大和第三Ⅲ-3様式である。

第69次調査
遺構：SK-1130
層位：第12層
土色：—
取上：W-1201
No.：1985
共伴：大和第三Ⅲ-3様式
高さ：44.0
幅：48.5
樹種：トチノキ
保存処理：PEG



083 木製品 (農具/小型白)

本木製品は、南東端の第47次調査の区画溝から出土した。口縁部から底部の一部を欠く。鉢形を呈し、底部はやや尖りぎみである。底部は、器高に対して1/3程度の厚さがあるが、鉢部から口縁部は薄くなる。搦き部は調整により、摩滅し滑らかである。共伴土器は大和第三Ⅲ-1様式である。

第47次調査
遺構：SD-2105
層位：第7層
土色：灰黒粘
取上：—
No.：501
共伴：大和第三Ⅲ-1様式
残存高：14.6
残存幅：19.9
樹種：エノキ属
保存処理：PEG



084 木製品 (農具/横槌)

本木製品は、西地区北部の第38次調査の区画溝から出土した。敲打部を一部欠く。握部より敲打部のほうが長く、その界はくびれている。敲打部の横断面形は楕円形を呈す。敲打部の上端に使用によると思われる横位の凹みがみられる。握部の基部は、突起を作り出す。共伴土器は大和第一Ⅰ-2様式である。

第38次調査
遺構：SD-201
層位：第1層
土色：—
取上：W-10
No.：100
共伴：大和第一Ⅰ-2様式
長さ：32.2
幅：6.9
樹種：コナラ属アカシヤ属
保存処理：ラクチツール

085 木製品（農具 / 横槌）

本木製品は、西地区中央部の第20次調査の大型井戸から出土した。卜骨や完形土器（『目録Ⅱ』弥生043・特殊005・105）と共存する。完形品。敲打部より握部ほうが長い。握部からゆるやかに太くなり敲打部にいたるが、全体に細身である。敲打部の横断面形は円形を呈す。握部の基部は、僅かに太くなる。共存土器は大和第三-1様式である。

第20次調査
遺構：SX-101
層位：第6層
土色：灰黒色砂質土
取上：W-626
№：378
共存：大和第三-1様式
長さ：22.1
幅：3.7
樹種：サカキ
保存処理：PEG



085

086 木製品（農具 / 横槌）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。敲打部の一部と握部下端を欠く。敲打部より握部のほうが長く、その界は一段削り出す。敲打部・握部とも横断面形は円形を呈す。共存土器は大和第四様式である。

第3次調査
遺構：SD-107
層位：—
土色：黒粘土
取上：—
№：10651
共存：大和第四様式
残存長：17.2
残存幅：3.9
樹種：—
保存処理：PEG



086

087 木製品（農具 / 横槌）

本木製品は、南地区の第65次調査の井戸から出土した。卜骨（『目録Ⅳ』掲載予定、骨角牙070）と共存する。敲打部より握部ほうが長い。握部からゆるやかに太くなり、くびれて敲打部にいたる。敲打部の横断面形はほぼ円形を呈すが、使用により一部が凹む。握部の基部は、僅かに太くなる。共存土器は大和第五-1様式である。

第65次調査
遺構：SK-134
層位：第5(下)層
土色：—
取上：W-553
№：701
共存：大和第五-1様式
長さ：42.4
幅：7.8
樹種：ナシ亜科
保存処理：ラクチ・トレハ



087

088



MW・編編-0012
051-0008W

088 木製品（編具／編台？）

本木製品は、北地区の第51次調査の土坑から出土した。完形品。二股に分かれた部分を利用して、「Y」字形を呈する。二股の部分は短い。縦の割材で、片面には樹皮が残存する。下端は、片側からの切断で尖っている。枝部分の末端も切断面を残す粗雑な作りである。編台であろう。共伴土器は大和第三-2様式である。

第51次調査
遺構：SK-105
層位：第2層
土色：—
取上：W-201
No：152
共伴：大和第三-2様式
長さ：41.4
幅：22.0
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチトール

089



MW・編編-0006
013-00015W

089 木製品（編具／木錘）

本木製品は、西北端の第13次調査の環濠から出土した。直径2cmほどの芯持材の両端を切断し、その側面中央に細い溝を巡らせるものである。長さ5cmほどの小型品で、樹皮はそのまま残している。共伴土器は大和第三-V-1様式である。

第13次調査
遺構：SD-106B
層位：第4層
土色：灰黒粘
取上：—
No：334
共伴：大和第三-V-1様式
長さ：5.3
幅：2.4
樹種：ヒサカキ属
保存処理：PEG

090



MW・編編-0005
013-00016W

090 木製品（編具／木錘）

本木製品は、西北端の第13次調査の環濠から出土した。直径2cmほどの芯持材の両端を切断し、その側面中央に細い溝を巡らせるものである。長さ6cmほどの小型品で、樹皮はそのまま残している。共伴土器は大和第三-2様式である。

第13次調査
遺構：SD-106C
層位：第7層
土色：砂質土II
取上：W-737
No：382
共伴：大和第三-2様式
長さ：6.5
幅：2.3
樹種：ヤナギ属
保存処理：PEG

091～102 木製品 (編具/木鍾)

091～102



調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No	共存時期/時代	長さ	幅	厚	重量	保存処理
091	第40次	SK-101	第7層	植物層	W-701	318	庄内式	14.6	10.7	3.2g	ラジウム 照射済み
092	第40次	SK-101	第7層	植物層	W-702	318	庄内式	14.4	10.9	3.2g	ラジウム 照射済み
093	第40次	SK-101	第7層	植物層	W-703	318	庄内式	14.7	10.4	3.2g	ラジウム 照射済み
094	第40次	SK-101	第7層	植物層	W-704	318	庄内式	14.3	11.3	3.2g	ラジウム 照射済み
095	第40次	SK-101	第7層	植物層	W-705	318	庄内式	14.0	11.0	3.2g	ラジウム 照射済み
096	第40次	SK-101	第7層	植物層	W-706	318	庄内式	13.9	10.5	3.2g	ラジウム 照射済み
097	第40次	SK-101	第7層	植物層	W-707	318	庄内式	15.0	11.1	3.2g	ラジウム 照射済み
098	第40次	SK-101	第7層	植物層	W-708	318	庄内式	14.2	10.6	3.2g	ラジウム 照射済み
099	第40次	SK-101	第7層	植物層	W-709	318	庄内式	15.5	10.1	3.2g	ラジウム 照射済み
100	第40次	SK-101	第7層	植物層	W-710	318	庄内式	14.4	10.7	3.2g	ラジウム 照射済み
101	第40次	SK-101	第7層	植物層	W-711	318	庄内式	14.5	11.4	3.2g	ラジウム 照射済み
102	第40次	SK-101	第7層	植物層	W-712	318	庄内式	15.2	13.9	3.2g	ラジウム 照射済み

これら木製品は、南東端の第40次調査の井戸底から12点が一括出土した木鍾である。樹皮をそのまま残したままの直径11cmほどの素木を、長さ約14cmに切断した大型の木鍾である。一木を連続して12個に切断したもので、その切断面はやや膨らみのあるものもあるが、ほぼ平坦である。その側面中央に細い溝を巡らせている。溝内には、鬚状の紐が残っているものがある(木製品100)。共存土器は庄内式である。

103



MW- 織編-0032
098-00030W

103 木製品(編具/木針)

本木製品は、中央区の第98次調査の土坑から出土した。先端の一部を欠く。頭部は扁平でやや大きく作り、その中央に0.8cmの孔をあける。先端に向かって徐々に細くなり、断面形は楕円形になる。先端は尖らず、やや丸い。共伴土器は大和第II-2様式である。

第98次調査
遺構：SK-201
層位：第4層
土色：—
取上：W-402
No：529
共伴：大和第II-2様式
残存長：22.9
残存幅：3.5
樹種：ヒノキ
保存処理：ラクチ・トレハ

104



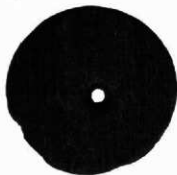
MW- 織編-0010
023-00023W

104 木製品(編具/木針)

本木製品は、北地区の第23次調査の区画溝から出土した。基部の一部を欠く。基部から先端に向かって徐々に細くなる。身部の断面は丸い。基部は突起を巡らせる。先端より2cmの位置に径0.3cmの小孔があげられ、この小孔と先端の間には樹皮が巻かれている。共伴土器は大和第II-3様式である。

第23次調査
遺構：SD-1102
層位：第6層
土色：植物業
取上：—
No：392
共伴：大和第II-3様式
長さ：25.1
幅：2.4
樹種：ヒノキ
保存処理：PEG

105



MW- 織編-0018
037-00010W

105 木製品(紡織具/紡錘車)

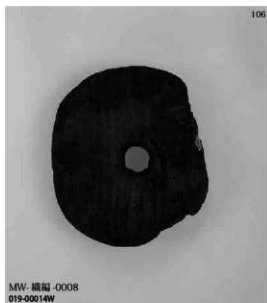
本木製品は、西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。周縁の一部を欠く。ほぼ正円で板状である。孔は中心からややずれ、小さい。共伴土器は大和第II-3-b様式である。

第37次調査
遺構：SK-2116
層位：第5(下)層
土色：灰粘
取上：—
No：1114
共伴：大和第II-3様式
径：4.2
厚さ：0.6
樹種：—
保存処理：ラクチ・トレハ

106 木製品（紡織具 / 紡錘車）

本木製品は、西北端の第19次調査の環濠から出土した。周縁の一部を欠く。不整円形で、周縁はやや薄くなる。孔はやや大きい。共伴土器は大和第V-1様式である。

第19次調査
遺構：SD-204
層位：第4(下)層
土色：黒粘
取上：W-4004
No：673
共伴：大和第V-1様式
長 軸：6.7
残存短軸：6.4
樹種：広葉樹
保存処理：ラクチトール



107 木製品（紡織具 / 糸巻）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。一木で、木芯を軸部としてその両端を円盤状に削り出したものである。両端の円盤部はその一部を欠く。共伴土器は大和第III様式である。

第3次調査
遺構：SD-106
層位：—
土色：黒粘II下灰色バラス層
取上：—
No：10646
共伴：大和第III様式
長 軸：8.4
端部径長軸：3.0
樹種：ヒノキ?
保存処理：PEG



108 木製品（紡織具 / 糸巻）

本木製品は、西地区北部の第93次調査の土坑から出土した。木芯を軸部としてその両端を円盤状に削り出したものであるが、片側の円盤を欠き、軸部は炭化している。製品としては、やや粗雑である。共伴土器は大和第IV-2様式である。

第93次調査
遺構：SK-2116
層位：第4b層
土色：植物層
取上：—
No：312
共伴：大和第IV-2様式
残存幅：6.1
径：3.1
樹種：カヤ
保存処理：ラクチ・トレハ



100



MW・織編-0003
013-00020W

109 木製品（紡織具 / 緯打具）

木製品は、西北端の第13次調査の環濠から、工具(木製品013)、盾(木製品119)、石剣鞘(木製品123)、匙未成品(木製品134)、火鑽臼(木製品183)、箕(「目録Ⅳ」掲載予定、織維製品007)とともに出土した。片端を欠くが、両端が尖る形態と思われる。下端は直線的で刃部をもつ。上端は緩やかな弓形の湾曲を呈し、断面円形の隆起帯を削り出す。共伴土器は大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1様式である。

第13次調査	
遺構:	SD-102
層位:	—
土色:	植物層
取上:	W-43
No.:	111
共伴:	大和Ⅳ-2・Ⅴ-1様式
残存長:	6.3
残存幅:	31.5
樹種:	コナラ属アカガシ帯属
保存処理:	PEG

110・111 木製品（紡織具 / 布送具）

110・111



110



MW・織編-0002
013-00020W

111



MW・織編-0019
115-00005W

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期/時代	長さ	幅	樹種	保存処理
110	第13次	SD-106C	第6層	砂質土	W-616	346	大和Ⅳ-1様式	5.5	(53.2)	ムクノキ	PEG
111	第115次	SD-101B	第13層	—	W-1302	183	大和Ⅳ-1様式	5.7	(24.8)	サカキ	真空凍結

木製品110は、西北端の第13次調査の環濠から出土した布送具の上辺部材である。左側の把手と下辺の一部を欠く。身部の断面形は逆「V」字状を呈し、下辺中央には溝が作られている。身部の両端から約6cmには鋸歯文の文様帯がある。鋸歯文帯は左右各8帯で、小さな向かい合う鋸歯文を陰刻する。共伴土器は大和第Ⅳ-1様式である。

木製品111は、西北端の第115次調査の環濠から出土した布送具の下辺部材である。左側の把手と身部の一部が残存する。8cmほどの把手で、断面は楕円形で先端は尖っている。身部の断面形は逆「V」字状を呈し、下辺中央には溝が作られている。身部の左端から5.5cmほどが一段高い隆起帯となり、その下端には「U」字形の削り込みがある。身部中央は、下辺に刃があり、上辺は段をもって「V」字形を呈す。共伴土器は大和第Ⅳ-1様式である。

112 木製品 (武器 / 木鏃)

本木製品は、南地区の第65次調査の井戸から出土した。先端を尖らせ、基部に浅い抉りを巡らせるものである。表面の仕上げは丁寧ではなく削り痕がみられる。身部の片面には黒色物が付着、あるいは炭化している。共伴土器は大和第V-1様式である。

第65次調査
遺構：SK-105
層位：第4層
土色：黒粘
取上：—
№：335
共伴：大和第V-1様式
長さ：4.5
幅：0.8
樹種：モミ属
保存処理：ラクチ・トレハ



MW-武器-0009
065-0006W

112

113・114 木製品 (武器 / 弓)

木製品113は、中央区の第98次調査の区画溝から出土した。弓幹が一木からなる短弓で、大きく湾曲している。両端は斜めに削り、さらにその内側に抉りを入れ強とするものである。弦は、湾曲の内側面にあるため、現状の湾曲とは逆方向に弓幹を曲げて弦を張った可能性がある。弦近くの下端内湾側と外湾中央は、削りによる面取りがある。弓幹の側面には一部樹皮が残る。共伴土器は大和第1-2-a様式である。

113
第98次調査
遺構：SD-201
層位：—
土色：暗灰粘 (シルト混)
取上：—
№：370
共伴：大和第1-2様式
長さ：65.5
幅：22.9
樹種：ヒノキ
保存処理：ラクチ・トレハ



113

114

木製品114は、北地区の第38次調査の区画溝から出土した。弓幹が一木からなる短弓で、中央においてやや湾曲が強いが、全体としては弱い。両端は斜めに削り、さらにその内側に抉りを入れ強とするものである。弦は、湾曲の内側面にあるため、現状の湾曲とは逆方向に弓幹を曲げて弦を張った可能性がある。共伴土器は大和第1-1様式である。

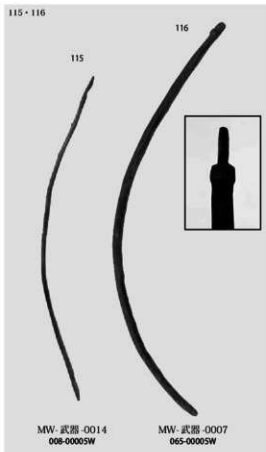
114
第38次調査
遺構：SD-201
層位：第4層
土色：黒灰粘
取上：—
№：133
共伴：大和第1-1様式
長さ：73.6
幅：8.8
樹種：イヌガヤ
保存処理：ラクチ・トレハ



MW-武器-0008
096-0005W

MW-武器-0006
038-00019W

113・114



115・116 木製品 (武器/弓)

木製品115は、西地区中央部の第8次調査の土坑から出土した。弓幹が一木からなる短弓で、中央において少し湾曲しているが、全体としてはその度合いは低い。両端は斜めに削り、さらにその内側に抉りを入れ弦とする。弦は、湾曲の内側面にあるため、現状の湾曲とは逆方向に弓幹を曲げて弦を張った可能性がある。内湾面を削る。共伴土器は大和第1様式である。

木製品116は、南地区の第65次調査の区画溝から出土した。一端が欠損する。弓幹は一木からなるもので、大きく湾曲している。直径約2cmの弓幹で、全体に丁寧な削り調整をおこなない、外湾面に幅0.5cmの「U」字形の棒を挿入している。弦は、内湾面以外の部分に隆起帯を巡らせ、先端は縦方向に薄く削り出している。共伴土器は大和第III-1・2様式である。

115
第8次調査
遺構：SK-211
層位：第2層
土色：黒灰色砂
取上：—
No：10679
共伴：大和第1様式
長さ：75.0
幅：10.0
樹種：未同定
保存処理：PEG

116
第65次調査
遺構：SR-151S
層位：第5層
土色：—
取上：W-501
No：904
共伴：大和第III-1・2様式
残存長：89.8
残存幅：21.7
樹種：マキ属?
保存処理：ラクチ・トレハ



117・118 木製品 (武器/盾)

木製品117は、南地区の第61次調査の区画溝から出土した。上下端と一側辺を残す無彩の盾である。表裏とも加工痕が全体に明瞭に残り、表裏は判断できない。上下端部は片面を削り薄くするが、横棧を使って補強する。上端部の両面では、細棒の横棧をその上下にあけた小孔を手がかりに三角に縦じる。下端部には縦方向の切れ込みを多数入れ、両面に渡した蔓状植物をコイル巻きした横棧を樹皮で縦じる。共伴土器は大和第II-3様式である。

木製品118は、北地区の第51次調査の井戸から出土した。左上側面を残す無彩の盾である。上部がややすばまる長方形で、上辺が半円を呈する。主軸に対して、横方向に列をなす小孔が約1cm間隔であけられ、この孔列は5cm間隔で縦12段分が残存する。共伴土器は大和第V-1様式である。

117
第61次調査
遺構：SD-151BN
層位：第8層
土色：灰黒粘
取上：W-805
No：1532
共伴：大和第II-3様式
長さ：112.3
残存幅：15.7
樹種：モミ属
保存処理：アル・キシ

118
第51次調査
遺構：SK-104
層位：第5層
土色：—
取上：W-519
No：120
共伴：大和第V-1様式
残存長：56.5
残存幅：10.7
樹種：モミ属
保存処理：PEG

119・120 木製品(武器/盾)

木製品119は、北西端の第13次調査の環漆から異形高坏(『目録Ⅱ』特殊063)とともに出土した。左上面を残す赤彩の盾である。上端が円弧状の縦長の長方形を呈す。上端部は薄くなり、幅0.2cm間隔で深さ1cmほどの細い切れ込みを入れる。主軸に対して、横方向に列をなす小孔を約1cm間隔で穿つ。この孔列は約6.2cm間隔で縦8段分が残存する。共伴土器は大和第四V-1様式である。

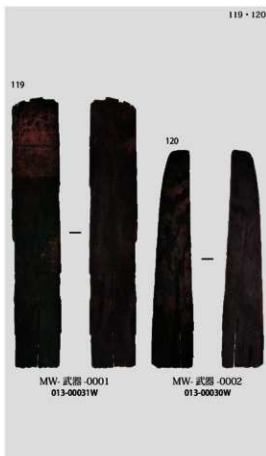
木製品120は、北西端の第13次調査の環漆から出土した。左上側面を残す赤彩の盾である。上端がやや細くなる縦長の長方形を呈する盾である。主軸に対して、横方向に列をなす小孔を約1.3cm間隔で穿つ。また、この横方向の孔列は約7cm間隔(上端のみ4.7cm)で縦6段分が残存する。共伴土器は大和第四V-1様式である。

119

第13次調査
遺構: SD-102
層位: —
土色: 植物層
取上: W-29
No.: 114
共伴: 大和第四V-1様式
残存長: 55.0
残存幅: 9.5
樹種: モミ属
保存処理: PEG

120

第13次調査
遺構: SD-106C
層位: 第6層
土色: 砂質土
取上: W-622
No.: 346
共伴: 大和第四V-1様式
残存長: 43.0
残存幅: 8.2
樹種: モミ属
保存処理: PEG

MW-武器-0001
013-00031WMW-武器-0002
013-00030W

121・122 木製品(武器/刺簡)

木製品121は、西地区北部の第93次調査の大型建物の柱穴から出土した。2枚合わせの板による鞘であるが、片面の右半分と鞘尻が欠損する。平面はほぼ長方形を呈し、内面は内割りしているため、横断面形は縦に半截した紡錘形を呈する。鞘の両端には小溝を作っており、樹皮によって緊縛していたと考えられる。共伴土器は大和第三V-3様式である。

木製品122は、北東端の第60次調査の環漆から出土した。2枚合わせの板による鞘であるが、片面の右半分が残る。平面は細長の長方形を呈す。内面の内割りは浅く、鞘口にあたる部分は柄の一部が収まるように一段彫りくぼめている。鞘の両端には1.1cmほどの隆起帯を設けている。共伴土器は布留1式である。

121

第93次調査
遺構: Pit-1201W
層位: 西アゼSec.第7層
土色: 黒色粘砂(木片混)
取上: —
No.: 1133
共伴: 大和第三V-3様式
残存長: 9.0
残存幅: 1.9
樹種: マキ属
保存処理: ラクチ・トレハ

122

第60次調査
遺構: SD-1117
層位: 第1層
土色: 青灰色粘質土
取上: W-101
No.: 77
共伴: 布留1式
長さ: 21.6
残存幅: 2.1
樹種: —
保存処理: 脂肪酸

MW-武器-0012
093-00007WMW-武器-0011
060-00003W

123



MW-武器-0010
013-00060W

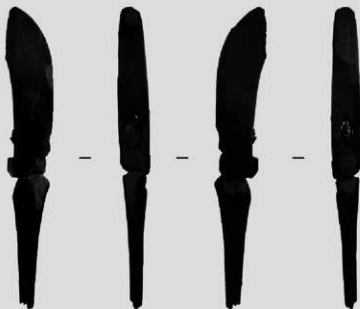
123 木製品（武器 / 石剣鞘）

本木製品は、北西端の第13次調査の環濠から出土した。本鞘は、柄部に樹皮を巻いた石剣（打製石器211）が収まった状態で出土した。側表中央を欠損する。鞘口から鞘尻に向かって徐々にすぼまる。2枚合わせの板で、鞘の横断面形は、紡錘形を呈する。側表・側裏の両端には全周するように幅0.6cmの小溝を作り、樹皮によって緊縛している。鞘尻の中央には、小孔をあける。共伴土器は大和第IV-2・V-1様式である。

第13次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：植物層
取上：W-31
No：114
共伴：大和第IV-2・V-1様式
長さ：14.0
幅：4.2
樹種：ヒノキ
保存処理：真空凍結

124 木製品（武器 / 石戈柄）

124



MW-武器-0013
093-00008W

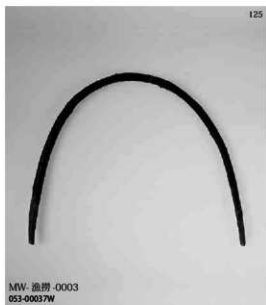
本木製品は、西地区北部の第93次調査の井戸から折損した石戈の基部がそのまま挿入された状態で出土した。柄の基部は焼損、身部の一部も焼損と欠損がみられる。柄は、頭部と握り部から成る。頭部上端は緩やかに弧を描き、断面はやや太めの長方形を呈す。柄は直線的で断面はほぼ丸い。頭部と握り部の界には、幅広の隆起帯を一段設け、その直上に縦長の楕円形の装着孔を穿つ。石戈を挿入後、固定のために両面に小孔を穿ち、木釘を打ち込んでいる。柄孔には石戈の基部が残存している。共伴土器は大和第III-2様式である。

第93次調査
遺構：SK-2120
層位：第11(下)層
土色：—
取上：W-1151
No：1279
共伴：大和第III-2様式
残存長：34.1
残存幅：5.9
樹種：ヤブツバキ
保存処理：ラクチ・トレハ

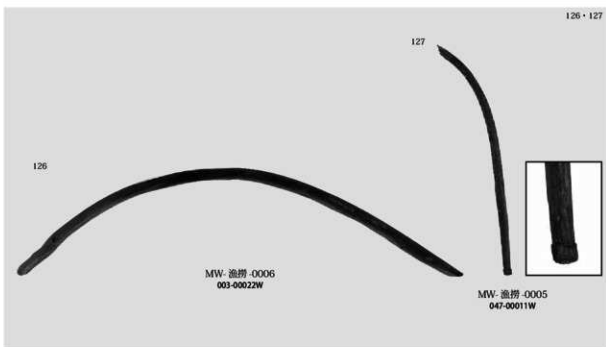
125 木製品（漁撈具／網杵）

本木製品は、中央区の第53次調査の落ち込み状遺構から出土した。両先端を僅かに欠損するが、ほぼ完形品。直径1.4cmほどの素木を大きく湾曲させ、半円状にした小形の漁網である。両端を細く尖らせる。中ほどと両端付近に蔓状植物が僅かに残る。共伴土器は大和第Ⅱ-1様式である。

第53次調査
遺構：SR-101B
層位：第6層
土色：植物層
取上：W-602
No：335
共伴：大和第Ⅱ-1様式
残存長：27.0
幅：34.5
樹種：ヒノキ
保存処理：ラクチツール



126・127 木製品（漁撈具／網杵）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No	共伴時期／時代	長さ	幅	樹種	保存処理
126	第3次	SD-102	—	黒粘1	—	10653	大和Ⅳ様式	115.2	53.8	モミ	PEG
127	第47次	SD-2101	第8層	黒粘粘（植物説）	—	399	大和Ⅴ-1様式	69.5	2.3	—	動物産

木製品126・127は、大型の漁網である。

木製品126は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。完形品である。杵木は太めの素木で、弓形を呈す。両端は鋭く切断し面をもつ。両端部を除く杵木の湾曲内側を「山」形に面取りする。共伴土器は大和第Ⅵ様式である。

木製品127は、南東端の第47次調査の環濠から出土した。一端のみ残存する。杵木は太めで、内側を「山」形に面取りする。面取り部分には、9cmほどの間隔で、網を取り付ける緊縛用の小孔をあける。端部は紐緊縛のための突起を削り出す。共伴土器は大和Ⅴ-1様式である。

128



MW-漁撈-0008
047-00019W

128 木製品（漁撈具/權）

本木製品は、南東端の第47次調査の環濠から出土した。軸部を一部欠損する。両端に身部を有する形態である。軸部の中央からゆるやかに幅広となり、断面は楕円形を呈する。両端の身部は、対称となる側縁に刃をもつ。共伴土器は、大和第II-1様式である。

第47次調査
遺構：SD-2104B
層位：第14層
土色：黒粘
取上：—
No：452
共伴：大和第II-1様式
残存長：78.8（写真下）
幅：6.0（写真下）
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：脂肪酸

129



MW-食器-0011
053-00054W

129 木製品（食器具/匙）

本木製品は、中央区の第53次調査の落ち込み状遺構から出土した。身の口縁部と柄の一部を欠損する。身の口縁部は、柄より一段高く削り出し、身の内側も深く削りくぼめている。柄は斜め上方へ湾曲して伸び、その端部側辺を突出させ、上面からみると楕円形を呈す。共伴土器は大和第I-1様式である。

第53次調査
遺構：SR-101B
層位：第8層
土色：暗灰粘
取上：—
No：404
共伴：大和第I-1様式
長さ：28.3
残存幅：6.8
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラクチツール

130 木製品（食器具 / 匙）

本木製品は、南地区の第33次調査の区画溝から出土した。身の口縁部と柄の一部を欠損する。身の口縁部と柄の上面には段はなく、身の内側は浅く削りくぼめている。柄は斜め上方へ湾曲して伸び、その端部側辺と身との界を0.5cmほど突出させるとともに刻み目を入れ裝飾とする。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第33次調査
遺構：SD-127
層位：第5層
土色：黒灰色粘質土
取上：W-501
No：1151
共伴：大和第Ⅱ-2様式
残存長：12.3
残存幅：4.5
樹種：ヤマダワ
保存処理：PEG



MW-食器-0009
033-0002W

131 木製品（食器具 / 匙）

本木製品は、南地区の第33次調査の環壕から出土した。身の口縁部と柄の基部を欠損する。身の口縁部は、柄より一段高く削り出し、身の内側も深く削りくぼめている。柄は斜め上方へのびる。共伴土器は大和第Ⅱ-1b・Ⅱ-2様式である。

第33次調査
遺構：SD-110
層位：第4層
土色：灰粘
取上：—
No：344
共伴：大和第Ⅱ-1・2様式
残存長：12.8
幅：6.2
樹種：—
保存処理：ラクチトール

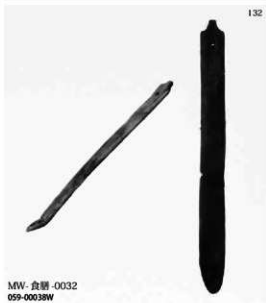


MW-食器-0015
033-0001W

132 木製品（食器具 / 組合せ式匙の柄）

本木製品は、北地区の第59次調査の井戸から出土した。身部は外れて、柄のみ残存する。身部との接合は、段差がでないように柄前面の下部を、一段低く削り落とし、受け部を作っている。身部と接着させるため、受け部には小孔が2つあり、木釘が残存している。柄の上端部は、両側辺から挟りを入れ突出させている。また、その下方に小孔をあけている。柄主軸と受け部との角度は約20°である。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

第59次調査
遺構：SK-3135
層位：第4(下)層
土色：灰褐粘
取上：—
No：1102
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長さ：15.7
幅：1.6
樹種：広葉樹
保存処理：アルコール



MW-食器-0032
059-0003W

133



MW-食器-0031
059-00078W

133 木製品（食具 / 組合せ式匙の柄）

本木製品は、北地区の第59次調査の井戸から出土した。身部は外れて、柄のみ残存する。身部との接合は、段差がでないように柄前面の下部を、一段低く削り落とし受け部を作っている。この部分には小孔が2つあり、木釘により身部と接着させたと考えられる。柄主軸と受け部との角度は約40°である。共伴土器は大和第三-2様式である。

第59次調査
遺構：SK-1101
層位：第7層
土色：黒粘
取上：—
No：235
共伴：大和第三-2様式
長さ：17.1
幅：1.8
樹種：針葉樹
保存処理：アルコール

134



MW-食器-0002
013-00028W

134 木製品（食具 / 匙未成品）

本木製品は、北西端の第13次調査の環濠から、鞘入り石剣（打製石器211・木製品123）・火鑽白（木製品181）とともに出土した。完形品。身部は紡錘形を呈す。内面の列り込みは浅い。柄は身との界目近くでくびれてやや広くなり、斜め上方へ外湾ぎみにすばまりながら伸びる。共伴土器は大和第四-2・V-1様式である。

第13次調査
遺構：SD-102
層位：植物層下部
土色：—
取上：—
No：105
共伴：大和第四-2・V-1様式
長さ：24.8
幅：6.1
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG

135



MW-食器-0027
051-00012W

135 木製品（食具 / 匙未成品）

本木製品は、北地区の第51次調査の井戸から、大形器台（『目録II』搬入008）・卜骨（『目録IV』掲載予定、骨角牙072）・盾（木製品118）・平鎌（木製品019）とともに出土した。完形品。身部の厚みはあまりなく、平面は紡錘形を呈す。内面は列り込まれていない。柄は身部から屈曲して斜め上方へ外湾し、すばまりながら伸びる。柄の先端は逆「V」字形に尖らせる。共伴土器は大和第五-V-1様式である。

第51次調査
遺構：SK-104
層位：第5層
土色：—
取上：W-512
No：120
共伴：大和第五-V-1様式
長さ：28.0
幅：5.0
樹種：—
保存処理：樹脂蝋

136 木製品（食器具 / 横杓子未成品）

本木製品は、北限の第45次調査の河跡から出土した。完形品。身部の先端が細長く伸びる不整形形で、柄部が水平方向に一体的に伸びる。身部は削り込んでいない。柄部の端部は下方へ屈曲する。全体に厚みのある未成品である。共伴土器は大和第1-1-a様式である。

第45次調査
遺構：SR-201
層位：第4・5層
土色：黒色微砂
取上：—
No：22
共伴：大和第1-1様式
長さ：35.8
身部幅：13.2
樹種：—
保存処理：PEG

MW-食器-0016
045-0001W

137 木製品（食器具 / 横杓子未成品）

本木製品は、北地区の第26次調査の土坑から出土した。ほぼ完形である。身部は丸く、内面は口縁部に面をもたせ、その中央を僅かに削り込んでいる。柄部は身部底部から水平に伸び、上部に横長の縦把手を作り込む。共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。

第26次調査
遺構：SK-2116
層位：第4層
土色：黒粘（砂混）
取上：W-401
No：523
共伴：大和第Ⅲ-3様式
長さ：26.5
幅：13.7
樹種：サクラ属
保存処理：PEG

MW-食器-0005
026-0001W

138 木製品（食器具 / 組合せ式横杓子未成品）

本木製品は、北西端の第115次調査の環濠から出土した。完形品。身部は丸く、内面は口縁部から中央に向かって削りくぼめているが、まだ厚みがある。身の口縁部の一端に楕円形の突起を削り出し、柄を取り付ける受け部とする。柄は上面あるいは側面に接着させると思われる。共伴土器は大和第Ⅳ-1様式である。

第115次調査
遺構：SD-101B
層位：第12層
土色：—
取上：W-1243
No：169
共伴：大和第Ⅳ-1様式
長さ：13.5
幅：11.8
樹種：サクラ属
保存処理：真空凍結

MW-食器-0043
115-0001W

139



MW-食器-0035
079-00015W

139 木製品（食器具 / 縦杓子未成品）

本木製品は、西地区北部の第79次調査の環壕から出土した。ほぼ完形である。首部は小さな半球状で、少し削りくぼめている。柄は、斜め上方へ長く伸びる。柄の端部は、後面側に円形の突起を作り出す。共伴土器は大和第IV様式である。

第79次調査
遺構：SD-101B
層位：第7-b層
土色：黒灰色微粘砂（植物灰）
取上：—
No：394
共伴：大和第IV様式
高さ：25.2
幅：3.0
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラクチ・トレハ

140



MW-食器-0018
074-00026W

140 木製品（食器具 / 縦杓子未成品）

本木製品は、西地区中央部の第74次調査の土坑から出土した。完形品。首部は半球状で、上面は僅かに削りくぼめている。柄は、首部から垂直に立ち上がり、中央で大きく外反し端部にいたる。柄端部は、横方向に突起を削り出す。全体は淡褐色を呈し、木質を残している。共伴土器は大和第II-1様式である。

第74次調査
遺構：SK-203
層位：第6層
土色：—
取上：W-601
No：814
共伴：大和第II-1様式
高さ：25.5
幅：27.9
樹種：ケヤキ
保存処理：ラクチトル

141



MW-食器-0003
016-0004W

141 木製品（食器具 / 縦杓子未成品）

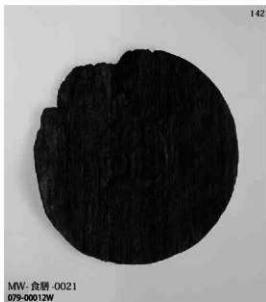
本木製品は、西地区中央部の第16次調査の土坑から、平鍬身未成品（木製品030）とともに出土した。完形品。首部は円筒状で、底部は尖底を呈す。首部から垂直に柄部が伸びる形態である。共伴土器は大和第1-2b様式である。

第16次調査
遺構：SX-102
層位：—
土色：黒粘Ⅲ
取上：W-21
No：224
共伴：大和第1-2様式
高さ：29.5
幅：11.0
樹種：—
保存処理：PEG

142 木製品（食事具 / 蓋）

本木製品は、西地区北部の第79次調査の環濠から出土した。端部の一部を欠損する。土中乾燥のため、残存状況は悪い。円盤状を呈す被せ蓋で、内面の周縁は内部を一段削り込む。外面中央には径約8cmの円形を削り出し、その内側に3つの円形を削り込む。共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。

第79次調査
遺構：SD-101B
層位：第9層
土色：—
取上：W-901
№：472
共伴：大和第Ⅲ-3様式
長軸：24.0
短軸：23.0
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラウチ・トレハ

MW-食器-0021
079-00012W

142

143 木製品（食事具 / 合子蓋）

本木製品は、南地区の第61次調査の土坑から、後述木製品144とともに出土し、組み合うものである。完形品。長方形にちかい楕円形を呈すが、片側の長辺に使用時のものとみられる挟りが残存する中央部がややふくらむ覆い蓋である。合子本体との緊縛用に長方形の小さな耳を短辺両側に作り出している。各耳には、紐孔が各3つあけられている。全体は使用により表面が摩耗している。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第61次調査
遺構：SK-153
層位：第2層
土色：—
取上：W-202
№：1367
共伴：大和第Ⅱ-2様式
長さ：16.6
幅：12.3
樹種：ヤマグワ
保存処理：真空凍結

MW-食器-0024
061-00031W

143

144 木製品（食事具 / 合子身）

本木製品は、南地区の第61次調査の土坑から前述木製品143とともに出土し、組み合うものである。胴下半の一部を欠損する。平面は楕円形を呈すが、土圧により変形している。口縁部から底部に向かってややすばまる形態である。底部には、短い円柱の脚部4つを削り出す。胴部上端の短辺側には、蓋と組み合うように長方形の小さな突起のある耳が作られ、各耳には、紐孔が各1つあけられている。内面には灰白色の付着物が残存する。使用により表面は摩耗している。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第61次調査
遺構：SK-153
層位：第2層
土色：—
取上：W-201
№：1367
共伴：大和第Ⅱ-2様式
高さ：12.2
長さ：16.7
樹種：ヤマグワ
保存処理：真空凍結

MW-食器-0023
061-00030W

144

145



MW-食器-0025
033-00013W

145 木製品（食具／合子身）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。上端受け部を僅かに欠くが、ほぼ完形品である。上面の口縁部は僅かに楕円形、底部は円形を呈す。口縁部上端は蓋を受けるための突起を削り出す。また、口縁部上端の側面には、蓋との緊縛用の楕円状突起を設け、紐孔2孔をあける。口縁部から底部に向かってややすばまる形態で、底部にはやや太い円柱の脚部4つを削り出している。全体は使用によりやや表面が摩耗している。共伴土器は大和第V様式である。

第3次調査
遺構：SD-102N
層位：—
土色：—
取上：—
No：10645
共伴：大和第V様式
高さ：14.6
長さ：20.1
樹種：未同定
保存処理：PEG

146



MW-食器-0007
033-00003W

146 木製品（食具／合子身）

本木製品は、南地区の第33次調査の土坑から出土した。脚部と片方の耳を欠損する。円筒状を呈す小型の合子である。印籠蓋を受けるため、口縁部上面は内側を突出させる。底部には、4本の円柱脚を削り出していたが、欠損・摩滅している。胴部上端の側面には、長方形の小さな突起の耳が作られている。耳には、紐孔1つあけられている。共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。

第33次調査
遺構：SK-124
層位：第4-b層
土色：暗茶褐色
取上：W-401
No：680
共伴：大和第Ⅲ-3様式
残存高：7.5
残存長：11.5
樹種：—
保存処理：PEG

147



MW-食器-0008
033-00004W

147 木製品（食具／方形容器）

本木製品は、南地区の第33次調査の区画溝から出土した。口縁部の一部を欠損する。上方へ広がる小型の方形容器である。脚部は胴部と一体で、双脚状に削り出し、その中央を挟り4脚としている。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第33次調査
遺構：SD-202B
層位：第5層
土色：灰黒粘
取上：—
No：1063
共伴：大和第Ⅱ-2様式
長さ：9.1
幅：7.9
樹種：—
保存処理：PEG

148 木製品（食器具 / 鳥形容器）

本木製品は、南東端の第40次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠損する。平面は紡錘形で、鳥胴部に似せた形に削り出す。両長辺側の口縁部は内湾し、両端はやや厚みを加え、面をもつ。底部は円形に削り出し、端部は突出する。共伴土器は大和第Ⅱ-1様式である。

第40次調査
遺構：SD-102B
層位：第8層
土色：—
取上：W-807
№：508
共伴：大和第Ⅱ-1様式
長さ：15.7
幅：7.6
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラクチトール

MW-食器-0010
040-00007W

149 木製品（食器具 / 筒形容器）

本木製品は、南地区の第50次調査の区画溝から出土した。筒形容器の胴部残片である。やや上方へ広がる筒状を呈する。外面には8条を一単位とする流水文が刻まれているが、横型か縦型かは判断できない。向かい合う弧線には削り付けの縦線が残っている。内面は平滑に仕上げている。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第50次調査
遺構：SD-108B
層位：第5(下)層
土色：灰黒色砂質土
取上：—
№：352
共伴：大和第Ⅱ-2様式
残存長：12.6
残存幅：12.8
樹種：—
保存処理：ラクチトール

MW-食器-0014
050-00007W

150 木製品（食器具 / 蓋未成品）

本木製品は、西地区中央部の第74次調査の河跡?から出土した。完形品。楕円形の両端が突出する板状の未成品である。この突出部は、連続した蓋未成品の切断痕跡であろう。外面中央がふくらみ、それに対応する内面も浅く削り込まれている。他の部分は平坦である。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第74次調査
遺構：SR-201
層位：第3層
土色：—
取上：W-301
№：741
共伴：大和第Ⅱ-2様式
長さ：23.3
幅：16.0
樹種：ケヤキ
保存処理：アルコール

MW-食器-0051
074-00044W

151



MW: 食器-0012
058-00015W

151 木製品（食具 / 無頸壺未成品）

本木製品は、西地区中央部の第58次調査の区画溝から出土した。完形品。球形の胴部にわずかに突出する小さな円形の底部がつく。口縁部側面には、紐孔用の小さな突起を削り出している。胴部内面は列り貫いているが、まだ器壁は厚い。共伴土器は大和第1-2様式である。

第58次調査
遺構：SD-201
層位：第3層
土色：—
取上：W-301
No.：463
共伴：大和第1-2様式
高さ：12.9
長さ：16.0
樹種：ケヤキ
保存処理：ラクチトール

152



MW: 食器-0029
034-00002W

152 木製品（食具 / 鉢未成品）

本木製品は、北地区の第34次調査の土坑から出土した。完形品。底部から口縁部に直線的に広がる縦長の鉢で、口縁部側面に小さな突起1つを削り出す。胴部内面は列り貫いているが、まだ器壁は厚い。共伴土器は大和第Ⅲ-2様式である。

第34次調査
遺構：SK-103
層位：第2層
土色：—
取上：W-204
No.：111
共伴：大和第Ⅲ-2様式
高さ：9.2
幅：10.7
樹種：ハルニレ
保存処理：PEG

153



MW: 食器-0030
084-00001W

153 木製品（食具 / 高杯）

本木製品は、西地区北部の第84次調査の土坑から出土した。杯部および脚裾部を欠損する。中実の脚柱部に裾部は強く屈曲して広がる。屈曲部は2条の凸帯を巡らせる。外面は黒漆塗りで、裾部には赤色顔料で木葉文を彩色する。共伴土器は大和第1様式である。

第84次調査
遺構：SK-201
層位：—
土色：青灰色シルト
取上：W-01
No.：477
共伴：大和第1様式
残存高：12.8
残存長：24.3
樹種：クスノキ
保存処理：ラクチ・トレハ

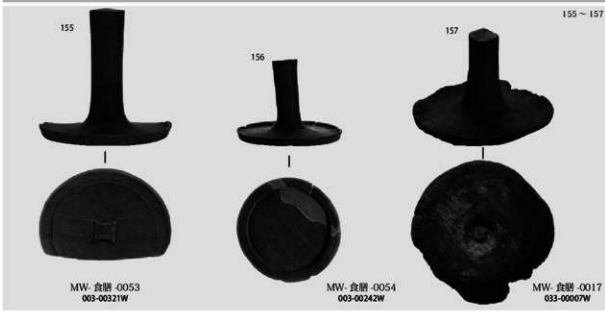
154 木製品（食器具／高杯）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。水平縁口縁の高杯で、杯部の一部を欠損する。中実の脚柱部は欠損しており、その折損面に漆が付着しているため、接着剤として利用していたものと考えられる。杯部内面は一部炭化する。口縁端部は垂下し、上面の内面側は僅かに凸帯を巡らせる。杯部内面の上部は、垂直に立ち上がる。共存土器は大和Ⅳ様式である。

第3次調査	
遺構	SD-106
層位	—
土色	黒粘Ⅱ
取上	—
No.	—
共存	大和Ⅳ様式
最大径	25.7
残存高	8.9
樹種	—
保存処理	PEG



155～157 木製品（食器具／高杯）



調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共存時期／時代	高さ	幅	樹種	保存処理
155 第3次	SD-106	—	黒粘Ⅱ	—	—	大和Ⅲ様式	(17.0)	17.8	ヤマグワ	PEG
156 第3次	SD-106	—	黒粘Ⅱ	—	—	大和Ⅲ様式	(10.8)	14.2	ヤマグワ	PEG
157 第33次	SK-175	第6層	モミ粘	W-601	956	大和ⅢⅠ様式	(13.1)	(19.3)	—	PEG

木製品155・156は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。155・156ともに杯部と脚柱部の一部を欠損する。脚柱部は中実で、裾部は平坦である。裾部は強く屈曲して広がり、端部は上方へ突出する。裾部底面は、外周部を幅広の凸帯とし、その内部を一段削り込む。155の底面の中央には、轆轤の芯部の凹みがあり、内湾する四角形状の装飾的な削り込みを入れる。156の底面の中央には、轆轤の芯部の凹みがある。155・156ともに共存土器は大和Ⅲ様式である。

木製品157は、南地区の第33次調査の土坑から出土した。脚部のみの高杯で、脚柱部の一部を焼損する。脚部は中実の円柱状で、裾部は強く屈曲して広がる。裾端部は上方へ僅かに突出する。裾部底面は平坦であるが、中心部は芯部を突起状に残し、円形に削り込んでいる。また、裾部底面は炭化しているが、特に端部の炭化は著しい。共存土器は大和ⅢⅠ様式である。

158



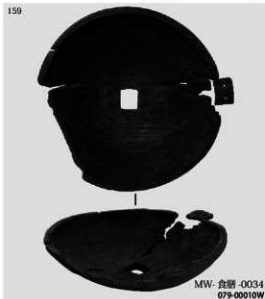
MW-食器-0001
013-00027W

158 木製品（食事具 / 高杯身）

本木製品は、北西端の第13次調査の環濠から、後述の自在鉤（木製品182）とともに出土した。杯部の一部を欠損する。杯部は椀状を呈す。蓋付の杯部で印籠蓋を受けるため、口縁部上面は内側を突出させる。また、口縁部上端の側面には、一對の把手状の耳が付くが、片方は欠損している。耳の上面には、蓋との緊縛用の紐孔を2孔穿つ。脚部は中実の円柱状で、裾部は強く屈曲して広がる。裾端部は上方へ突出する。共伴土器は大和第三・3・4様式である。

第13次調査
遺構：SD-106C
層位：第7層
土色：砂質土Ⅱ
取上：W-721
No：382
共伴：大和第三・3・4様式
高さ：21.2
残存幅：24.7
樹種：ケンボナシ属
保存処理：PEG

159



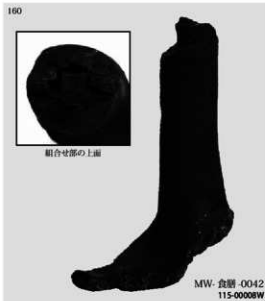
MW-食器-0034
079-00010W

159 木製品（食事具 / 組合せ式高杯杯部）

本木製品は、北西端の第79次調査の環濠から出土した。組合せ式高杯の杯部で、杯部口縁部の一部を欠損する。杯部は浅い椀状を呈す。蓋付の杯部で、口縁部上端は蓋を受けるための突起を削り出す。また、口縁部上端の側面には、蓋との緊縛用の方形突起を設け、紐孔2孔をあける。杯部底面には、脚部との結合のための方孔をあける。共伴土器は大和第四・1様式である。

第79次調査
遺構：SD-101B
層位：第6層
土色：暗灰粘（植物混）
取上：W-601
No：663
共伴：大和第四・1様式
高さ：7.6
残存長：32.1
樹種：ケヤキ
保存処理：ラクチ・トレハ

160



MW-食器-0042
115-00008W

160 木製品（食事具 / 組合せ式高杯脚部）

本木製品は、北西端の第115次調査の環濠から出土した。杯部と脚部から成る組合せ式高杯の脚柱部で、脚裾部の一部と上端を欠損する。裾部は、脚柱部から大きく広がり、裾端部は上方へ突出する。脚部内面は中央が一段別りくぼめられている。脚柱部上面には、杯部の柄が差し込めるように長方形の孔があげられており、木釘が打ち込まれた柄が方孔内に残存していた。脚裾部から柱状部にかけての一部が炭化している。共伴土器は大和第四・1様式である。

第115次調査
遺構：SD-101B
層位：第13層
土色：—
取上：W-1357
No：209
共伴：大和第四・1様式
残存高：17.3
残存長：13.6
樹種：本林・鹿込部・ヤマブキ、木釘・広葉樹（散孔材）
保存処理：真空凍結

161 木製品（食器具 / 組合せ式高杯脚部）

本木製品は、南地区の第61次調査の区画溝から出土した。杯部・脚柱部・脚裾部から成る組合せ式高杯の脚裾部で、脚裾部の一部と上端を欠損する。裾部は平坦な円盤状で、脚柱部へは短く立ち上がる。裾部上端の中央には貫通する方孔があけられ、脚柱部の柄が差し込めるようにしている。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

第61次調査
遺構：SD-151B
層位：第7層
土色：暗灰褐粘
取上：W-701
№：1266
共伴：大和第Ⅱ-3様式
残存高：5.7
長さ：17.1
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラクチ・トレハ



MW-食器-0050
061-00023W

162 木製品（食器具 / 高杯未成品）

本木製品は、中央区の第53次調査の土坑から出土した。一木式の大形の高杯未成品である。脚裾部と杯部上面は不整円形でまだ列り込みはない。側面から見ると逆「工」字形で、逆台形の側面中央の周囲を列り込み、短い脚柱部を作り出している。杯部上面の一端には、同様な未成品からの切り離しによる切断痕が残っている。共伴土器は大和第Ⅱ-1様式である。

第53次調査
遺構：SK-201
層位：第2層
土色：—
取上：W-208
№：412
共伴：大和第Ⅱ-1様式
高さ：18.2
長軸：48.9
樹種：—
保存処理：PEG



MW-食器-0033
053-0009W

163 木製品（食器具 / 高杯未成品）

本木製品は、西地区中央部の第38次調査の木器貯蔵穴から平鎌身未成品(木製品023)とともに出土した一木式の高杯未成品で、ほぼ完形品である。脚裾部と杯部上面は円形、側面から見ると鼓形を呈す。杯部上面や裾部に列り込みはまだ無い。共伴土器は大和第Ⅰ-1様式である。

第38次調査
遺構：SK-208
層位：第2層
土色：—
取上：W-205
№：177
共伴：大和第Ⅰ-1様式
高さ：8.7
長軸：13.9
樹種：ケヤキ?
保存処理：ラクチ・トレハ



MW-食器-0022
038-00018W

164



MW-食器-0006
033-0006W

164 木製品（食具 / 高杯未成品）

本木製品は、南地区の第33次調査の木器貯蔵穴から出土した。一木式の高杯未成品である。脚部と杯部上面は不整形円形で割り込みはない。側面は逆「工」字形で、逆台形の側面中央の周囲を割り込み、杯部と脚部を作り出す。相対する側面には切り離しの切断面が残ることから、1.断面が逆台形の長い一木、2.両側面を割り込み、逆「工」字形の長い一木にする、3.一木を杯部の大きさ毎に分断する、という工程が想定できる。杯部は大きく深みもあり、椀形に加工するのであろう。共伴土器は大和第三-3様式である。

第33次調査
遺構：SK-124
層位：第6層
土色：黒粘
取上：W-602
No：770
共伴：大和第三-3様式
高さ：16.5
長軸：18.8
樹種：ヤマゲワ
保存処理：PEG

165



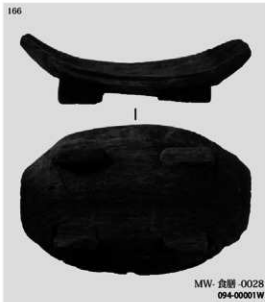
MW-食器-0013
024-0002W

165 木製品（食具 / 盤）

本木製品は、北地区の第24次調査の土坑から出土した。平面が長方形の大型の盤で、一長側辺が欠損している。平坦な底面から周縁部へ緩やかに立ち上がる形態で、短側辺の上面は幅広い面をもつ。脚台部は、長辺側に平行する双脚状で、その中央を挟り込み、4脚としている。使用時に縦割れしたため、小孔を穿ち樹皮で緊縛した跡がみられるが、今は欠損している。共伴土器は布留1式である。

第24次調査
遺構：SK-103
層位：第5層
土色：黒粘
取上：—
No：195
共伴：布留1式
長さ：73.1
残存幅：30.2
樹種：—
保存処理：ラクチツール

166



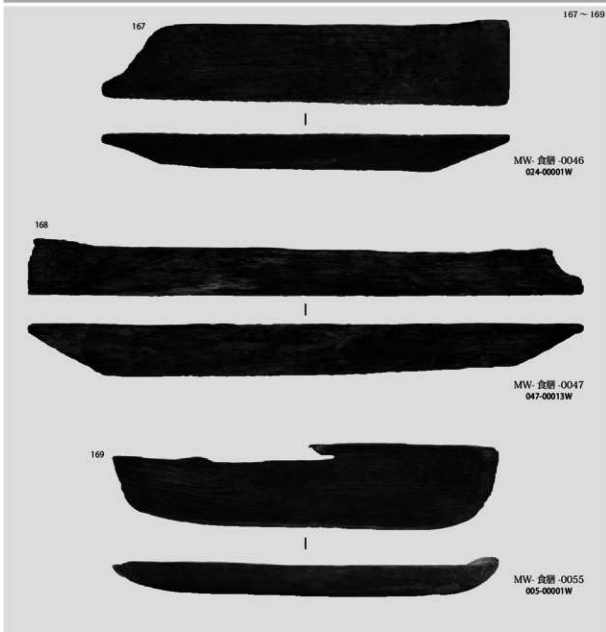
MW-食器-0028
094-0001W

166 木製品（食具 / 盤）

本木製品は、西端の第94次調査の環濠から出土した。完形品。平面が楕円形で、底部から両短辺に向かって内湾ぎみに立ち上がる小型の盤である。長側辺の立ち上がりは少なく、短側辺側が高く厚みもある形態となる。脚台部は、長辺側に平行する4脚である。共伴土器は大和第四-V様式である。

第94次調査
遺構：SD-101C
層位：第12層
土色：—
取上：W-1201
No：56
共伴：大和第四-V様式
長さ：37.2
幅：23.6
樹種：サクラ属
保存処理：ラクチ・トレハ

167～169 木製品（食器具／槽）



	調査次数	遺構	層位	土色	取土番号	No	共存時期/時代	長さ	幅	厚み	保存処理
167	第24次	SD-107	第3層	黒粘	W-311	170	大和第Ⅵ-3様式	(88.1)	(18.8)	モミ?	彫的埋
168	第47次	SD-2103	第3層	—	W-301	224	大和Ⅵ-4様式・布留1式	119.0	(12.4)	コウヤマ?	PEG
169	第5次	SK-102	下層	—	—	10602	布留0式	(83.3)	(20.8)	—	PEG?

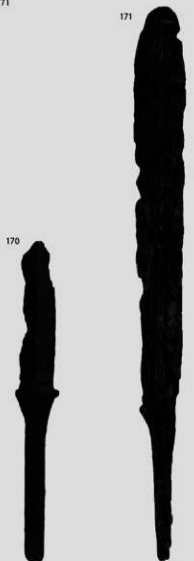
木製品167～169は、槽である。

木製品167は、北東端の第24次調査の環濠から出土した。一側辺のみ残存する。平面は長方形を呈する。平底で、底部から斜め上方へ直線的に広がる。短辺側の上面は幅広の面をもち、厚みも増している。長辺側の口縁部には2.7～3.0cm間隔で刻目を入れるが、その用途は不明。共存土器は大和第Ⅵ-3様式である。

木製品168は、南東端の第47次調査の環濠から出土した。一側辺のみ残存する。平面は長方形を呈する。平底で、底部から斜め上方へ直線的に広がる。短辺側の上面は幅広の面をもち、厚みも増している。脚台は付かない。共存土器は大和第Ⅵ-4様式・布留1式である。

木製品169は、北地区の第5次調査の井戸から、補遺土師器146・補遺特殊140・141(『目録Ⅳ』掲載予定)とともに出土した。一側辺のみ残存する。平面はほぼ長方形を呈するが、両短側辺は丸くなる。平底で、底部から斜め上方へ緩やかに広がる。短辺側の上面は幅広の面をもち、厚みも増している。長辺側の上部は底部から徐々に薄くなる。共存土器は布留0式である。

170・171



MW-祭具-0001
023-00001W

MW-祭具-0004
046-00001W

170 木製品(祭具/矛形木製品)

本木製品は、北地区の第23次調査の土坑から出土した。穂部と握り部(袋部)下端を欠損する。穂部は直線的で、中央に鑱を作ることから横断面は菱形となる。握り部(袋部)も直線的で、断面は楕円形を呈す。握り部(袋部)から穂部への界は緩やかに広がり、くびれて段を成す。共伴土器は大和第1-2様式である。

第23次調査
遺構：SK-153
層位：第3層
土色：灰粘
取上：W-308
No：550
共伴：大和第1-2様式
残存長：47.5
幅：6.5
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG

171 木製品(祭具/矛形木製品)

本木製品は、西地区中央部の第46次調査の暗灰色砂質土層(土坑?・溝?)から出土した。刃部と握り部下端を欠損する。全体に土中での腐朽が進んだ状態である。鋒はややふくらむ形である。横断面は全体に扁平であるが、中央の鑱部分は突起させて表現している。握り部(袋部)は基部に向かって細くなり、断面は扁平な楕円形を呈す。握り部(袋部)から穂部への界は緩やかに広がり、くびれて段を成す。共伴土器は大和第II-1様式である。

第46次調査
遺構：—
層位：第VII(上)層
土色：暗灰色砂質土
取上：—
No：36
共伴：大和第II-1様式
残存長：82.3
残存幅：7.8
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG

172



MW-祭具-0003
033-00005W

172 木製品(祭具/戈形木製品)

本木製品は、南地区の第33次調査の井戸中層(糊層直上)から出土した。胡の一部を欠損する。鋒に向かってややふくらむ形である。鋒はやや摩耗する。横断面は扁平である。胡の部分には小円孔を2つ穿ち、「穿」を表現する。また、「内」も表現することから、青銅器を写實的に模したものである。共伴土器は大和第III-3様式である。

第33次調査
遺構：SK-111
層位：第4-b層
土色：モミ層
取上：W-401
No：918
共伴：大和第III-3様式
残存長：21.5
残存幅：4.9
樹種：コウヤマキ
保存処理：PEG

173 木製品 (祭祀具 / 戟形木製品)

本木製品は、西地区中央部の第74次調査の井戸から出土した。柄と鋒の一部を欠損する。柄と鋒が一体となるタイプで、その角度は鈍角である。鋒の断面は扁平で薄い。柄の断面は楕円形で、下端に紐かけの突起を作り出す。共伴土器は大和第Ⅲ-2様式である。

第74次調査
遺構：SK-113
層位：第6層
土色：—
取上：W-601
№：315
共伴：大和第Ⅲ-2様式
復元長：20.3
残存幅：33.4
樹種：広葉樹
保存処理：ラクチトール

MW- 祭具-0005
074-00027W

174 木製品 (祭祀具 / 陽物形)

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。左側辺部を縦方向に欠損する。茎部はやや扁平な丸棒状で、頭部は三角形に削り出す。基部はやや尖りぎみになる。共伴土器は大和第Ⅳ様式である。

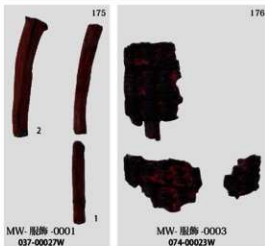
第3次調査
遺構：SD-106
層位：—
土色：黒粘Ⅰ
取上：—
№：10644
共伴：大和第Ⅳ様式
長さ：14.8
残存幅：4.5
樹種：アカガシ亜属
保存処理：PEG

MW- 祭具-0006
003-00353W

175・176 木製品 (服飾具 / 豎櫛)

木製品175は、西地区北部の第37次調査の土坑から出土した。豎櫛の先端部分の残欠である。幅0.5cmほどの角棒状のものに赤漆(朱)を塗布したものである。共伴土器は大和第Ⅰ-2様式である。

木製品176は、西地区中央部の第74次調査の井戸から出土した。赤漆塗り豎櫛の断片である。直径0.2cmほどの竹ごご状丸棒を歯とする。歯は、9本分が残存しているが、1本は脱落している。丸棒を糸で螺旋巻きにし、それらを0.7cm間隔で結束しており、その上を赤漆(朱)で固めている。共伴土器は大和第Ⅵ-3様式である。

MW- 服飾-0001
037-00027WMW- 服飾-0003
074-00023W

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期/時代	高さ	幅	樹種	保存処理
175-1	第37次	SK-2204	第3層	植物層	—	804	大和第Ⅰ-2様式	4.0 (写真上)	0.6 (写真上)	コナラ属 クヌギ類	ラクトール
176	第74次	SK-119	第4(下)層	黒灰色粘質土	その1	687	大和第Ⅵ-3様式	(2.1)	(2.4)	—	PEG

177



MW-服飾-0002
037-0007W

177 木製品（服飾具 / 簪）

本木製品は、西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。三つ又のフォーク状の簪で三つ又端部の一部を欠損する。軸部先端、三つ又端部のいずれも尖っている。丁寧な作りであるが、白木のままである。共伴土器は大和第VI-1様式である。

第37次調査
遺構：SK-2122
層位：第20層
土色：灰黒粘（植物層）
取上：W-2001
No：990
共伴：大和第VI-1様式
残存長：16.8
幅：2.0
樹種：広葉樹
保存処理：ラクチトール

178



MW-服飾-0006
037-00130W

178 木製品（服飾具 / 垂飾品）

本製品は、西地区北部の第37次調査の区画溝から出土した。平面形は縦長の台形で、横断面形は裾が広がる凸形(角のある半截竹筍状)を呈す。上端に横方向の紐孔2を穿つ。全体に厚く漆を塗布する。黒漆の上に赤漆(朱)を重ねる。漆は一部剥落し、反り上がる。共伴土器は大和第1-2-b様式である。

第37次調査
遺構：SD-2202B
層位：第8層
土色：黒灰粘
取上：一
No：1003
共伴：大和第1-2様式
長さ：3.6
幅：1.4
樹種：同定不可
保存処理：ラクチトール

179



MW-服飾-0004
023-00028W

179 木製品（服飾具 / 蓋未成品）

本木製品は、北地区の第23次調査の井戸から、後述の木製品180とともに出土した。完形品。幹(軸木)から4方向に枝(腕木)が張り出した材を利用して作っている。一部に樹皮が残存する。腕木先端は斜めに切断している。軸木上端は、くびれて上端を太くする。軸木には孔はない。共伴土器は庄内式である。

第23次調査
遺構：SK-102
層位：第8層
土色：黒灰粘
取上：W-801
No：547
共伴：庄内式
高さ：15.1
長さ：35.1
樹種：広葉樹
保存処理：ラクチ・トレハ

180 木製品（服飾具 / 蓋未成品）

本木製品は、北地区の第23次調査の井戸から、前述の木製品179とともに出土した。幹(軸木)から4方向に枝(腕木)が張り出した材を利用して作っている。一部に樹皮が残存する。腕木先端は斜めに切断している。軸木のくびれはなく、また孔もない。共伴土器は庄内式である。

第23次調査
遺構：SK-102
層位：第8層
土色：黒灰粘
取上：W-802
No.：547
共伴：庄内式
高さ：17.6
長さ：38.1
樹種：不明
保存処理：ラウチ・トレハ

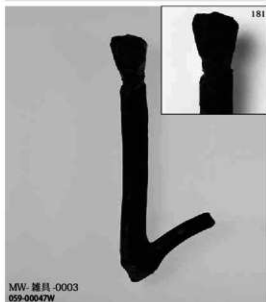


MW-服飾-0005
023-00029W

181 木製品（雑具 / 自在鉤）

本木製品は、北地区の第59次調査の土坑から出土した。軸部の樹皮部分を僅かに欠くが、ほぼ完形である。枝分かれ部分を利用した素木で、「レ」字状を呈す。軸部上端は切断面が残る。軸上部に溝を巡らせ、吊り下げのための紐を巻き付けている。紐は炭化し、その一部が残る。鉤部はやや外反し、先端部は切断面のままである。外面に樹皮が残る。共伴土器は大和第Ⅱ-3式である。

第59次調査
遺構：SK-3135
層位：第4(下)層
土色：灰褐粘
取上：一
No.：1118
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長さ：23.8
幅：9.2
樹種：サカキ
保存処理：脂肪酸



MW-雑具-0003
059-00047W

182 木製品（雑具 / 自在鉤）

本木製品は、北西端の第13次調査の環濠から、前述の蓋付高杯(木製品158)とともに出土した。完形品。板状で、逆「し」字形を呈する。軸部端には紐孔がかけられる。孔は内面側が大きくなり、磨滅している。鉤部先端は、外側面側を一段削り込み、細く作る。表面の軸部には、複合鋸歯文が線刻され、その両側辺には、外側辺部を全局する刻目をいれる。共伴土器は大和第Ⅲ-3・4様式である。

第13次調査
遺構：SD-106C
層位：第7層
土色：砂質土Ⅱ
取上：W-701
No.：382
共伴：大和第Ⅲ-3・4様式
長さ：41.2
幅：25.3
樹種：カヤ
保存処理：PEG



MW-雑具-0001
013-00042W

183



MW- 雑具-0002
013-00032W

183 木製品 (雑具 / 火鑽臼)

本木製品は、北西端の第13次調査の環濠から、前述の鞘入り石剣(打製石器211・木製品123)・緯打具(木製品109)等とともに出土した。縁辺を小欠する。ベースとなる板の上に凸形を削り出している。凸形の上面に、回転摩擦によって生じた火鑽穴が等間隔に4つ残存し、内3つには焼痕がみられる。また、火鑽穴に沿うようにその両側面には浅く溝が作られ、火の粉がこぼれ落ちる構造にしている。共伴土器は大和第IV-2・V-1様式である。

第13次調査
遺構: SD-102
層位: 一
土色: 粗砂下の植物層
取上: 一
No.: 125
共伴: 大和第IV-2・V-1様式
長さ: 7.2
幅: 3.7
樹種: クワ属
保存処理: PEG

184



MW- 雑具-0012
042-00011W

184 木製品 (雑具 / 作業台)

本木製品は、北西端の第42次調査の環濠から出土した。完形品。不定形の木塊の平面を利用し、作業台としている。上面に多数の刃線痕が残存する。共伴土器は大和第IV様式である。

第42次調査
遺構: SD-101
層位: 第3層
土色: 灰黒色砂質土
取上: 一
No.: 50
共伴: 大和第IV様式
上面長軸: 29.9
高さ: 14.0
樹種: ケヤキ
保存処理: ラククトール

185



MW- 雑具-0013
031-00017W

185 木製品 (雑具 / 作業台)

本木製品は、北西端の第31次調査の環濠から出土した。作業台(木製品184)が出土した一連の遺構で、隣接する。周縁の一部を欠損する。不定形の板材を利用した作業台である。底面は凹凸があり、安定しない。上面には多数の刃線痕が残存する。共伴土器は小片のみで、大和第Ⅲ-2・3様式であるが、木製品184と一連とみなした場合は大和第IV様式の可能性もある。

第31次調査
遺構: SD-2101
層位: 第2層
土色: 灰黒色砂質土
取上: 一
No.: 13
共伴: 大和第Ⅲ-2・3様式?
長さ: 58.2
残存幅: 37.7
樹種: 一
保存処理: ラクチ・トレハ

186 木製品 (雑具 / 棚状木製品)

186



A面



B面



A面

MW-雑具-0006
061-0015W

本木製品は、南地区の第61次調査の区画溝から出土した。すこの状の棚状木製品で、2枚重なっている。半裁し、両端を削り出した有頭棒を枠としている。横軸の上に15～20cm間隔の4本の縦軸の半裁棒と細棒を並べ、横方向に矢竹状の細棒を敷く。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

第61次調査
遺構：SD-151BN
層位：第8層
土色：灰黒粘
取上：W-807
No：1532
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長さ：94.4 (上個体)
幅：40.3 (上個体)
樹種：幹-ムラサキシキブ属？ 植物-タケ壺科？
保存処理：ラクチトル

187



MW-雑具-0004
048-0002W

187 木製品(雑具/叩板)

本木製品は、北東端の第48次調査の環濠から出土した。握部下端と頭部左側辺の一部を欠く。頭部は、長方形で薄い板状である。片面は縦方向の板目に合わせて彫り込み、叩面とする。握部の断面は楕円形である。共伴土器は大和第VI-2様式である。

第48次調査
遺構：SD-C-107
層位：第3層
土色：—
取上：W-301
No：375
共伴：大和第VI-2様式
長さ：30.0
幅：5.2
樹種：ヤマゲワ
保存処理：ラクチツール

188



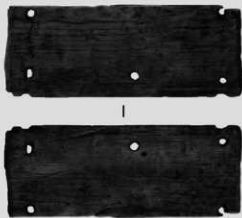
MW-雑具-0011
003-00081W

188 木製品(雑具/叩板)

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から、木製品010・037・038・041・052～054・057・076とともに出土した。握り部から頭部へ、徐々に広がる板状の叩板である。頭部端・周縁と握部下端の一部を欠損する。全体に縦方向に板目が浮き出ているが、特に頭部の叩面は、さらに深く彫り込んでいるようである。共伴土器は大和第V様式である。

第3次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：黒粘II
取上：—
No：10655
共伴：大和第V様式
長さ：25.4
残存幅：6.9
樹種：モミ
保存処理：PEG

189



MW-雑具-0007
061-00074W

189 木製品(雑具/部材)

本木製品は、南地区の第61次調査の大溝から出土した。一長側辺を欠損する。箱状製品の部材であろう。内面側が外面側よりやや磨減しており、切断面も斜めで磨減する。四隅と残存する一長辺の中央に、円孔を穿つ。また、その長辺の縁辺端(円孔の下部分)にも半円弧の抉りを入れる。共伴土器は大和第II-3様式である。

第61次調査
遺構：SD-151BS
層位：第9層
土色：褐灰粘(植物混)
取上：—
No：1502
共伴：大和第II-3様式
長さ：15.4
残存幅：6.4
樹種：ヒノキ
保存処理：PEG

190 木製品 (雑具 / 部材)

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。周縁の一部を欠損する。長方形の薄板で、箱部材の一部の可能性がある。表面はやや丸みがあり削り痕が少なく、裏面(写真側)は平坦で削り痕を明瞭に残す。両側辺から4cmほどが薄い。上辺は中央が僅かに高くなる。下辺は中央やや左に凹みをもつ。両側辺に径0.3cmほどの目釘孔を横2列に上下2つずつあける。また、下辺近くの右側に不整円孔(0.9×1.5cm)1つを穿つ。共伴土器は大和第V様式である。

第3次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：黒粘Ⅱ
取上：—
№：10627
共伴：大和第V様式
長さ：20.8
幅：24.5
樹種：未測定
保存処理：PEG

MW-雑具-0014
003-00120W

190

191 木製品 (雑具 / 部材)

本木製品は、南地区の第69次調査の環濠から出土した。何らかの部材の一部であろう。一端を欠損する。両端に縦長の長方形の方孔を穿つが、大きさは揃っていない。小さい方の方孔と端部の間には、縦方向の罫描き線がみられる。また、中央よりやや偏った上端に横長の方孔をあける。共伴土器は大和第V-1様式である。

第69次調査
遺構：SD-1109
層位：第6層
土色：—
取上：W-605
№：848
共伴：大和第V-1様式
長さ：46.4
幅：5.7
樹種：スギ
保存処理：ラクチトール

MW-雑具-0008
069-00053W

191

192 木製品 (雑具 / 部材)

本木製品は、北西端の第42次調査の環濠から出土した。完形品。何らかの部材の一部であろう。板材で、平面はなだらかな山形で下辺の両端が突出する。中央に1.3cmほどの円孔を穿ち、片面側がやや広い。他面には、山形に沿うように罫描き線がみられる。共伴土器は大和第V-1様式である。

第42次調査
遺構：SD-101
層位：第1(下)層
土色：暗灰褐色粘質土
取上：—
№：40
共伴：大和第V-1様式
長さ：4.9
幅：11.3
樹種：—
保存処理：PEG

MW-雑具-0010
042-00001W

192

193



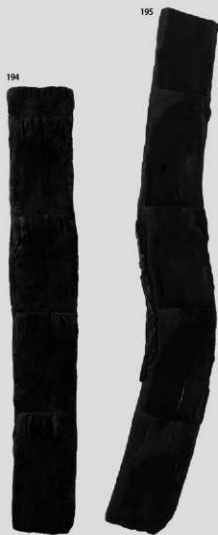
MW-雑具-0009
098-00028W

193 木製品 (雑具 / 部材)

本木製品は、中央区の第98次調査の土坑から出土した。杵状の木製品で、先端を欠損する。断面が楕円形の頭部で、軸部分は方形に削り出す。軸先端には円形孔があけられていたが、欠損している。共伴土器は大和第II-2様式である。

第98次調査
遺構：SK-203
層位：第3層
土色：—
取上：W-301
No：536
共伴：大和第II-2様式
残存長：19.1
幅：4.6
樹種：サカキ
保存処理：アルコール

194・195



MW-建築-0004
054-00002W

MW-建築-0016
055-00001W

194 木製品 (建築部材 / 梯子)

本木製品は、東端の第54次調査の河跡から出土した。半裁の板材の曲面側を斜めに深く削り込み、上面は平坦にし、4階段とする。下端は斜めに切断する。風化が全体にみられ、磨耗している。共伴土器は大和第VI-3様式である。

第54次調査
遺構：SR-102A
層位：第3層
土色：—
取上：W-301
No：11
共伴：大和第VI-3様式
長さ：117.3
幅：17.4
樹種：コナラ属コナラ節
保存処理：ラクチツール

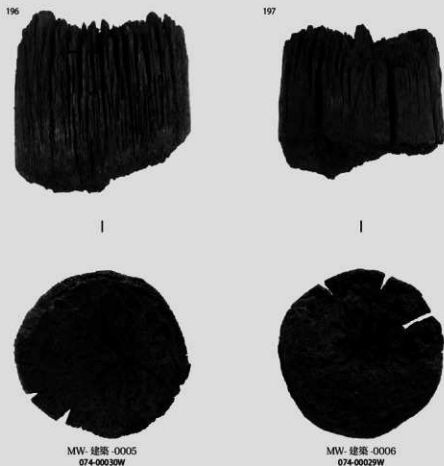
195 木製品 (建築部材 / 梯子未成品)

本木製品は、北西端の第55次調査の環濠から出土した。4段の梯子である。一側辺に樹皮が残存するが、一部は脱落している。下端は尖らせる。共伴土器は大和第V-1様式である。

第55次調査
遺構：SD-102
層位：第5層
土色：—
取上：W-505
No：52
共伴：大和第V-1様式
長さ：139.5
幅：25.0
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラクチ・トレハ

196・197 木製品 (建築部材/柱)

196・197



調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期/時代	高さ	幅	細径	保存処理
196 第74次	Pin-104W	第1層	-	柱-101	919	大和期V様式	(56.0)	67.0	ケヤキ	57F-3
197 第74次	Pin-104E	第1層	-	柱-101	918	大和期B之様式	(57.6)	63.0	ケヤキ	57F-6

木製品196・197の柱は、西地区中央部の第74次調査で検出した大型建物跡の柱穴に残存していたケヤキ柱である。大型建物は調査区外に延びており、柱穴の全てを検出したわけではなく、棟持柱1基を含む16基の柱穴を検出し、その内4基に柱が残存していた。196の柱は東側柱列の北から4番目、197は西側柱列の北から4番目のものである。この2本の柱は立った状態で出土した。いずれも直径60cmほどの柱で、全体に腐朽が進んでおり、加工痕は残っていない。底面は平坦でなく、やや斜めに切断されている。上面や側面にはクラックが全体に入っており、地下水の関係で一度、乾燥した可能性がある。後述する柱(木製品198)にみられるような目途穴はない。C14年代測定法によれば、下ってもB.C.5Cまでの結果が得られている。

198 木製品 (建築部材 / 柱)

198



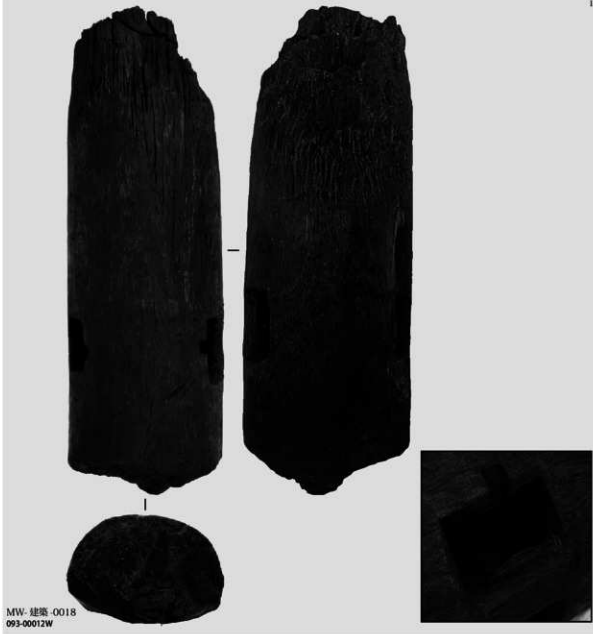
MW-建築-0015
074-0002BW

本木製品は、西地区中央部の第74次調査で検出した大型建物跡の柱穴に残存していたケヤキ柱である。前述の柱(木製品196・197)と一連のケヤキ柱で、東側柱列の北から1番目の隅柱である。この柱は転用するために抜き取ろうとして放置されたか、そのままでは邪魔なので横に倒した状態にしたものである。したがって、地上側になっていた柱の側面は腐朽が進み原形がなく、全体としては木製品196・197のようにクラックが入っている。その反対側の下面の一部分は残存状況が良く、加工痕も一部残る。柱下部の側面には長方形孔の貫通する目途穴1つがあげられているが、対となる目途穴は一段彫り込んで止めている。直径約52cm、残存高約143cmである。

第74次調査	
遺構:	Plr-101E
層位:	第1層
土色:	—
取上:	柱-101
No.:	981
共伴:	大和第II-2様式
残存高:	143.4
幅:	52.0
樹種:	ケヤキ
保存処理:	ラクチトール

199 木製品（建築部材 / 柱）

199



MW-建築-0018
093-00012W

本木製品は、西地区北部の第93次調査で検出した大型建物跡のケヤキ柱である。西側の北から1番目の隅柱で、柱穴の横に抜き取り用の穴を彫り、斜めに倒された状態で出土したものである。転用できずに放置されたものであろう。柱は直径83cm、残存高約250cmの巨大なものである。柱上半は、地上付近にあたり腐朽シクラックが多数入っているが、下半は加工痕を明瞭に留めている。柱下部には対になる長方形の貫通する目途穴が2つあけられている。また、この2つの目途穴間の片側面は、柱底面に向かって斜めに削り込み「椽」状にしている。目途穴には運搬に使われたと考えられる蔓14本の束が残存していた。底面は伐採痕跡が明瞭で、周囲からの削り込みのため、中央が残存気味に尖って残っている。

第93次調査	
遺構：	Pit-1201WB
層位：	第14層
土色：	—
取上：	W-101
No.：	1274
共伴：	大和第Ⅲ-2様式
残存高：	250.0
幅：	83.2
樹種：	ケヤキ
保存処理：	ラクチ・トレハ

200

MW-建築-0012
065-00010W

200 木製品 (建築部材 / 柱)

本木製品は、南地区の第65次調査の柱穴から出土した。長軸17.8×短軸15.0cmの断面が楕円形を呈する柱である。上端は腐朽している。下面は切断痕のままである。下部に枝があったが、平坦に削りこんでいる。樹皮は剥いている。共伴土器は大和第1様式である。

第65次調査	
遺構	Pit-201
層位	—
土色	—
取上	—
No	: 1068
共伴	: 大和第1様式
残存高	: 70.5
径長軸	: 17.8
樹種	: チドリノキ
保存処理	: ラクチツール

201

MW-建築-0001
016-00022W

201 木製品 (建築部材 / 建築材)

本木製品は、西地区中央部の第16次調査の土坑から出土した。側辺の一部を欠損する。長方形板の中央に約13cmの円形孔を明け、両短辺側には方形孔をあける。共伴土器は大和第1-2様式である。

第16次調査	
遺構	SX-102
層位	—
土色	黒粘III
取上	W-01
No	: 224
共伴	: 大和第1-2様式
長さ	: 57.5
幅	: 18.8
樹種	—
保存処理	: PEG

202 木製品（建築部材 / 建築材）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。右上端部と左下端部の一部を欠損する。細長い長方形板の上半に方孔・円孔をあけたものである。右上隅に小方孔1、中央やや右上に小方孔2とその間に大きめの方孔、左上端に小円孔2をあける。上端の小方孔の上ややや凹んでおり、使用による摩滅痕と考えられる。共伴土器は大和第V様式である。

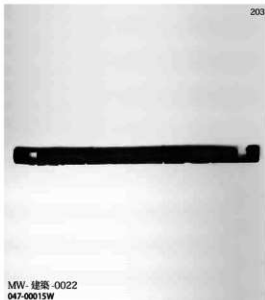
第3次調査
遺構：SD-102N
層位：—
土色：—
取上：W-03
No：10656
共伴：大和第V様式
長さ：10.8
幅：91.7



203 木製品（建築部材 / 部材）

本木製品は南東端の第47次調査の環濠から出土した。両端に方孔をもつ建築部材である。片端の一部を欠損する。横断面は三角形を呈し、底面は幅広になる。共伴土器は大和第V-1様式である。

第47次調査
遺構：SD-2101
層位：第8層
土色：—
取上：W-870
No：389
共伴：大和第V-1様式
長さ：126.2
幅：10.9
樹種：ツブラジイ
保存処理：PEG



204 木製品（建築部材 / 不明建築材）

本木製品は、北西端の第90次調査の環濠から出土した。上向きに立ち上がる鉤の手状の板材である。完形品。基部を凸帯状に一段削り出し、末端は柄を作る。共伴土器は大和第V-1様式である。

第90次調査
遺構：SD-101C
層位：第16層
土色：—
取上：W-1601
No：85
共伴：大和第V-1様式
長さ：6.7
幅：16.2
樹種：コウヤマキ
保存処理：ラクチ・トレハ



205



MW- 其他 -001
037-00043W

205 木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、北地区の第37次調査の河跡から出土した。赤漆塗り木製品の側辺片である。外側面は半円形を呈し、赤漆(朱)の上に部分的に黒漆を塗る。外側面の先端は外湾ぎみに立ち上がる。内面側が中実か中空かは不明である。共伴土器は大和第1-2様式である。

第37次調査
遺構：SX-4201
層位：第3層
土色：黒褐粘
取上：—
No：917
共伴：大和第1-2様式
長さ：2.0
残存幅：6.1
樹種：—
保存処理：ラクチツール

206



MW- 其他 -0013
003-00069W

206 木製品（その他木製品 / 用途不明品）

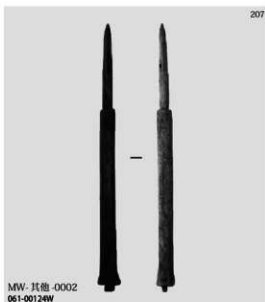
本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から、木製品010・037・038・041・052～054・060・076とともに出土した。完形品。長柄鐮状の木製品で、身部の側辺を一部欠損する。軸部は丸棒状で直線的である。身部の先端はナデ肩で、下方へ徐々に細くなり、また下部で広がる。身部先端で一段削り込み、中央が薄くなり、下部で厚くなる。反対面は平坦である。共伴土器は大和第V様式である。

第3次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：黒粘Ⅱ
取上：—
No：10654
共伴：大和第V様式
長さ：107.3
幅：10.2
樹種：アカガシ亜属
保存処理：PEG

207 木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、南地区の第61次調査の区画溝から出土した。工具の柄であるうか。基部を小欠するが、ほぼ完形である。柄部は断面が円形であり、基部が突出する。基部端は平坦で、その中央に紐かけの突起を削り出す。柄の先端部分は一段削り込み、先端に向かって細く尖らせる。先端の柄部寄りには断面円形、それより先端は断面方形となる。先端の中ほどに木釘が残存する。共伴土器は大和第Ⅲ-1様式である。

第61次調査
遺構：SD-152
層位：第2層
土色：—
取上：W-201
№：1556
共伴：大和第Ⅲ-1様式
長さ：23.0
長軸：1.8
樹種：カヤ
保存処理：PEG

MW-其他-0002
061-00124W

208 木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。側面を僅かに欠くが、ほぼ完形である。丸棒で上端から下端に向かって徐々に細くなり、先端が尖る刺突具状を呈する。上端は丸くなり、炭化する。全体に面は滑らかに仕上げている。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

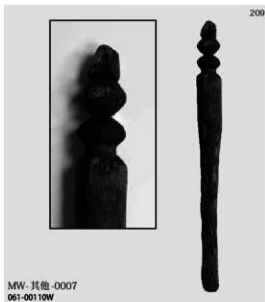
第3次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：黒粘Ⅱ
取上：—
№：10573
共伴：大和第Ⅴ様式
長さ：46.9
径：2.6
樹種：—
保存処理：PEG

MW-其他-0014
003-00118W

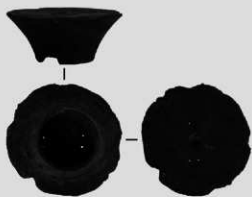
209 木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、南地区の第61次調査の土坑から出土した。儀仗様の木製品である。先端を一部欠損する。丸棒を加工して製作している。頭部に扁球形の珠2つを削り出し、その上を円錐状に加工する。中央から下半は細くなるように削っており、粗く加工痕が残存する。共伴土器は大和第Ⅰ様式頃か。

第61次調査
遺構：SK-155
層位：第2層
土色：—
取上：W-201
№：1497
共伴：大和第Ⅰ様式？
残存長：59.3
残存幅：5.4
樹種：サカキ
保存処理：ラクチ・トレハ

MW-其他-0007
061-00110W

210



MW- 其他-0003
090-00010W

210 木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、北西端の第90次調査の環濠から出土した。側縁を小欠するが、ほぼ完形である。やや内湾する円錐台状を呈する。内部は垂直に削り込み、丸棒が挿入できるようにしている。天井部は平坦に作る。中心に、径1.3cmの軸を削り出して、いたようだが欠損している。また、軸を中心に2方向に2列の小孔を貫通させる。小孔は、中心部に向かって斜めにあげられている。側外面の湾曲は精緻で、轆轤成形と考えられる。共伴土器は大和第V-1様式である。

第90次調査
遺構：SD-101C
層位：第16(下)層
土色：—
取上：W-1651
No：92
共伴：大和第V-1様式
径長軸：12.0
高さ：5.0
樹種：広葉樹
保存処理：ラクチ・トレハ

211



MW- 其他-0004
065-00023W

211 木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、南地区の第65次調査の井戸から出土した。上端側縁を小欠するが、ほぼ完形である。下部がすぼまる低い円筒状を呈する木製品で、天井部の周縁は幅0.7cmほど突出している。下面は丁寧に削り込む。下辺の両側には長方形の抉りを入れ、直交する内面天井部には不整形の孔2つをあける。下辺はほぼ円形であるが、前述の不整形孔の大きい方の側にあたる下辺は、やや外側に突出する。色調は淡褐色を呈する。共伴土器は大和第V-1様式である。

第65次調査
遺構：SK-115
層位：第5層
土色：—
取上：W-501
No：464
共伴：大和第V-1様式
径長軸：5.1
高さ：2.6
樹種：ニワトコ
保存処理：ラクチ・トレハ

212



MW- 其他-0005
078-00066W

212 木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、東端の第78次調査の環濠から出土した。上端側縁の一部を欠損する。平面は細長い楕円形で、周縁が垂直に立ち上がり筒状を呈する。側面に0.3cmほどの小孔が1cm間隔で横方向に2段以上あけられる。共伴土器は大和第V様式である。

第78次調査
遺構：SD-108
層位：第3層
土色：—
取上：W-301
No：119
共伴：大和第V様式
長さ：17.2
幅：6.2
樹種：ヒノキ科
保存処理：ラクチ・トレハ

213 木製品（その他木製品 / 用途不明品）

213

本木製品は、北地区の第59次調査の井戸から出土した。何らかの組合せの部材であろう。側縁を小欠する。細長い紡錘形の身部に方形の頭部がつく。片面の身部は膨らみ、頭部中央が突出している。他面の身部内部は削り込み、頭部は平坦に作る。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

第59次調査
遺構：SK-3135
層位：第5層
土色：灰褐粘
取上：—
№：1129
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長さ：18.7
残存幅：3.5
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラクチ・トレハ



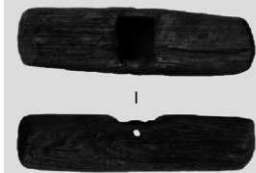
MW-其他-0010
059-00059W

214 木製品（その他木製品 / 用途不明品）

214

本木製品は、西地区北部の第93次調査の柱穴から出土した。完形品。鐮の把手状の木製品であるが、用途は不明である。丸棒の中央に方孔をあけ、その側面に固定のための小孔をあける。両側面はやや丸い。共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。

第93次調査
遺構：Pi-1201W
層位：第5層
土色：黒粘(シルト・砂混)
取上：—
№：996
共伴：大和第Ⅲ-3様式
長さ：10.2
幅：2.8
樹種：ヒノキ
保存処理：ラクチ・トレハ



MW-其他-0008
093-00030W

215 木製品（その他木製品 / 用途不明品）

215

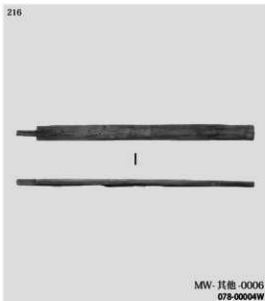
本木製品は、南地区の第33次調査の土坑から出土した。側辺の一部を欠損する。縦長の長方形の板材であったが、左上半を斜めに切断したものである。外面はやや膨らみ、内面は平坦。内面下半は一段削り込み、別物が嵌まるようにしている。上端・下半を中心に横方向の孔列がある。最上端は小孔2(推定3)、2段目は孔2(推定3)、3段目は中央に孔1を穿つ。下半の孔は削り込み部にあけられている。最下段は中央よりに小孔2、上へ2段目は両端に小孔2、3段目は孔2、4段目はややランダムに孔7を穿つ。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

第33次調査
遺構：SK-123
層位：第2層
土色：灰黒粘
取上：W-201
№：603
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長さ：35.8
幅：17.3
樹種：ヒノキ属
保存処理：ラクチ・トレハ



MW-其他-0009
033-00040W

216



MW-其他-0006
078-0004W

216 木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、東端の第78次調査の溝から出土した。片面の一部と片方の柄部分を欠損する。両端に把手状の柄を削り出す細長い板状製品である。柄は、長さ約4cmで断面方形を呈する。身部は細長い紡錘形を呈すが、一側辺はやや面をもち、他面は丸い。共伴土器は古墳時代後期である。

第78次調査	
遺構	SD-102
層位	第6層
土色	灰褐粘（植物混）
取上	W-601
No.	183
共伴	古墳時代後期
残存長	46.3
幅	2.9
樹種	ヒノキ
保存処理	ラクチ・トレハ

217



MW-其他-0011
019-0009W

217 木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、北西端の第19次調査の環濠から出土した。天秤棒状の木製品で、片側の一部を欠損する。横断面が隅丸方形を呈する棒を湾曲させ、湾曲面の内側中央に幅広の挟りを入れる。また、湾曲面外側の両端は、挟りを入れて端部を突出させる。細長い紡錘形の身部に方形の頭部がつく形状で、片面の身部は膨らみ頭部中央が突出する。他面の身部内部は削り込み、頭部は平坦である。内外面は不明である。共伴土器は大和第三・2・3様式である。

第19次調査	
遺構	SD-204
層位	第9層
土色	黒粘（植物混）
取上	W-951
No.	1085
共伴	大和第三・2・3様式
長さ	10.7
幅	42.4
樹種	—
保存処理	PEG

218



MW-其他-0012
033-0003W

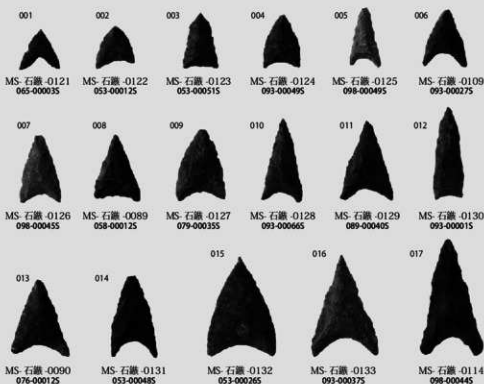
218 木製品（その他木製品 / 用途不明未成品）

本木製品は、南地区の第33次調査の木器貯蔵穴から、平鋸身未成品（木製品022）・一木鋤未成品（木製品059・060）とともに出土した。円筒状の未成品である。完形品。上面に輪状の削り込みがある。底面は平坦に整形する。共伴土器は大和第一・2様式である。

第33次調査	
遺構	SK-208
層位	第5層
土色	灰褐粘
取上	W-506
No.	1072
共伴	大和第一・2様式
高さ	4.4
長さ	10.2
樹種	同定不可
保存処理	脂肪酸

001～017 打製石器(凹基式石鏃)

001～017



調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	重さ	
001	第65次	SK-105	第2b層	黒褐色粘質土(砂混)	—	391	大和第V-1様式	1.6	1.6	0.5
002	第53次	SR-101A	第4(上)層	灰黑色粘質土	—	232	大和第1・2・重1様式	1.6	1.6	0.7
003	第53次	SR-101B	第4層	黒粘(炭灰)	—	211	大和第II・III様式	2.2	1.4	1.0
004	第93次	—	—	灰色粘質土	—	755	大和第1様式	(2.1)	1.5	(0.9)
005	第98次	—	—	暗褐色砂質土	その2	55	弥生時代	(2.4)	(1.3)	(0.9)
006	第93次	Ph-1204C	第5層	黒粘	—	1176	大和第II様式	(2.3)	1.9	(1.2)
007	第98次	—	—	黒色砂質土	—	465	弥生時代	(2.7)	1.7	(2.1)
008	第58次	SD-51	第8(下)層	灰黒粘	—	172	弥生時代	2.7	1.9	2.6
009	第79次	表探	—	—	—	856	弥生時代	(2.8)	2.0	(2.2)
010	第93次	—	—	腐土	—	817	弥生時代	3.3	1.7	2.2
011	第89次	—	—	黒褐色粘質土	—	83	大和第1様式	3.2	2.1	2.3
012	第93次	SK-2102	第1層	黒褐色粘質土	—	191	大和第V4様式	3.7	1.3	2.1
013	第76次	SD-1114	第1b層	黒褐色粘質土(砂混)	—	171	布留1式	3.1	2.3	2.8
014	第53次	SR-101B	第6層	植物層	—	224	大和第II-1様式	(3.3)	1.9	(2.1)
015	第53次	SR-101A	第4(上)層	灰黒色粘砂	—	306	大和第III・2様式	4.0	2.8	4.1
016	第93次	—	—	黒褐色粘質土	—	38	弥生時代中期	4.1	2.7	2.8
017	第98次	—	—	暗褐色砂質土II	—	525	大和第II-3様式	4.7	2.5	3.8

打製石器001～034は、サヌカイト製の凹基式の石鏃である。長さ1.6～4.8cm、重さ0.5～4.9gのものがある。これらは、大きく3種に分類できる。長さ2.5cmまでで重さ1g前後、長さ3cm前後で重さ3gまで、長さ4cm以上で重さ3g以上である。003・018・029は五角形を呈する。

018～034 打製石器（凹基式石鏃）

018～034

018

MS-石鏃-0030
033-00025

019

MS-石鏃-0070
074-00075

020

MS-石鏃-0043
047-00055

021

MS-石鏃-0098
053-00015

022

MS-石鏃-0097
022-00035

023

MS-石鏃-0031
033-00045

024

MS-石鏃-0001
000-00025

025

MS-石鏃-0007
014-00045

026

MS-石鏃-0006
014-00025

027

MS-石鏃-0047
053-00015

028

MS-石鏃-0035
037-00065

029

MS-石鏃-0050
058-00045

030

MS-石鏃-0026
026-00065

031

MS-石鏃-0063
069-00015

032

MS-石鏃-0101
091-00015

033

MS-石鏃-0100
091-00015

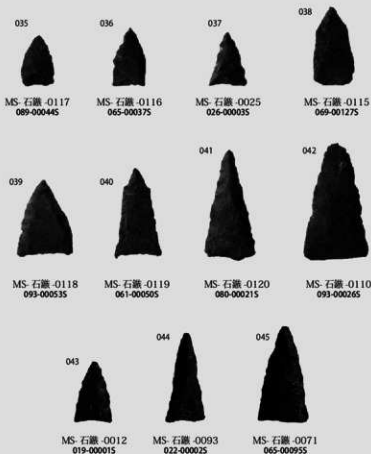
034

MS-石鏃-0104
093-00025

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	製作時期/時代	長さ	幅	重量
018	第33次	SK-169	第1層	暗灰粘	—	808	大和期Ⅱ-2様式	2.1	1.8	1.0
019	第74次	SK-113	第10層	灰黑色粘砂	その1	325	大和期Ⅱ-2様式	2.0	1.3	0.7
020	第47次	SD-2105	第4層	灰黑色粘砂	その1	460	大和期Ⅳ様式	2.0	1.3	0.6
021	第53次	SR-101A	第4層	灰黒粘	—	239	大和期Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ様式	2.3	1.6	1.0
022	第22次	SK-106	第2層	黒褐色砂質土	—	172	大和期Ⅰ・Ⅱ様式	2.5	(1.4)	(1.2)
023	第33次	SD-108	第5層	黒粘	—	323	大和期Ⅱ-1様式	(2.5)	1.6	(1.1)
024	第0次	表採	—	—	—	102	弥生時代	(2.9)	1.8	(1.5)
025	第14次	前期包含層	—	—	—	171	大和期Ⅰ様式	2.9	2.0	1.2
026	第14次	包含層Ⅱ	—	—	—	149	弥生時代中期	(2.7)	(1.6)	(1.4)
027	第53次	SR-101A	第4層	灰黒粘	—	276	大和期Ⅱ様式	(2.9)	2.4	(1.8)
028	第37次	SD-2201	第3層	礫物層	—	685	大和期Ⅱ-1様式	2.9	1.9	2.1
029	第58次	SD-51	第4層	灰褐色砂質土	—	152	弥生時代	(3.2)	1.8	(2.3)
030	第26次	—	第1層	黒褐色土	—	259	弥生時代	3.3	1.7	2.8
031	第69次	SK-1137	第6(下)層	灰粘(礫物混)	その22	2123	大和期Ⅲ-3様式	3.3	1.8	1.5
032	第91次	—	—	黒褐色砂質土	—	657	弥生時代中期	(3.6)	2.6	(3.6)
033	第91次	SD-104	第1層	青灰色粘質土	—	682	弥生時代	4.4	2.2	3.0
034	第93次	SD-2103	第2層	黒色粘質土	—	115	大和期Ⅳ-1様式	4.8	2.4	4.9

035 ~ 045 打製石器 (平基式石鏃)

035 ~ 045

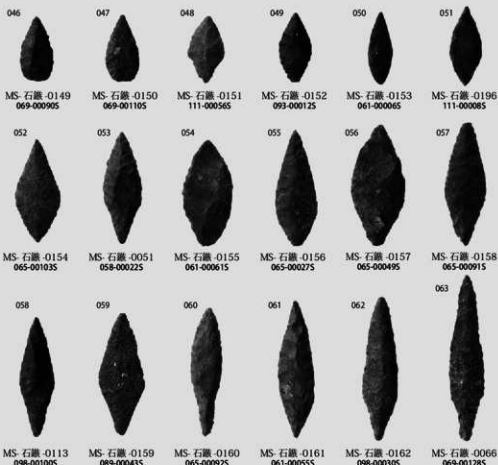


調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
035	第89次	-	黒褐色粘質土	-	75	弥生時代中期	(2.0)	(1.3)	(0.8)
036	第65次	SB-101 第1-6(下)層	黒褐色砂質土	-	530	弥生時代中期	2.3	1.3	0.8
037	第26次	SK-2113 第1層	黒色土	-	334	大和第II之種式	2.1	1.5	1.4
038	第69次	-	暗褐色土	-	1647	弥生時代	3.1	1.7	2.0
039	第93次	-	黄褐色粘質土	-	357	弥生時代	3.0	3.0	2.9
040	第61次	-	黒色粘質土(炭灰混)	-	555	大和第V-4種式	3.5	1.9	1.9
041	第80次	SD-105 第2(下)層	暗褐色粘質土(砂混)	-	261	大和第IV種式	4.3	1.9	5.7
042	第93次	Ph-1203E 第3層	褐色粘質土	-	605	大和第III種式	4.6	2.6	7.0
043	第19次	SK-111 第1層	黒灰色土	-	263	弥生時代中期	(2.4)	1.5	(1.1)
044	第22次	SK-101 第1(下)層	黒色粘質土	-	187	大和第IV-1種式	3.6	1.6	2.4
045	第65次	-	黒褐色土II	-	678	弥生時代中・後期	3.8	2.0	3.1

打製石器035～045は、サヌカイト製の平基式の石鏃である。基部中央は僅かに凹む。長さ2.0～4.6cm、重さ0.8～7gのものがある。これら平基式の石鏃もおおよそ前述の凹基式石鏃と同様に分類できる。

046～063 打製石器（凸基式石鏃）

046～063

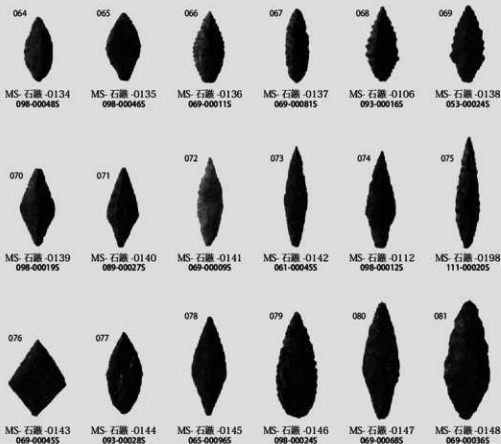


	調査次数	遺構	層位	土色	出土番号	No	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
046	第69次	—	—	黒褐色土	—	15	大和期Ⅳ・Ⅴ様式	2.6	1.3	1.5
047	第69次	—	—	黒褐色土	—	101	大和期Ⅴ・Ⅲ・Ⅳ様式	2.7	1.4	1.4
048	第111次	—	—	暗褐色砂質土	—	181	弥生時代	2.7	1.5	1.7
049	第93次	SK-2115	第7層	黒粘（シルトブロック）	その4	534	大和期Ⅴ様式	2.8	1.3	1.1
050	第61次	SD-1018	第5(下)層	灰黒粘	その5	643	大和期Ⅴ様式	2.9	1.0	1.0
051	第111次	SD-02	第3層	灰色砂質土	—	65	弥生時代	3.2	1.3	1.1
052	第65次	—	—	黒褐色土Ⅱ	—	921	大和期Ⅳ・Ⅴ様式	4.1	1.8	2.8
053	第58次	SD-51	第4層	灰褐色砂質土	—	136	弥生時代	4.5	1.6	2.8
054	第61次	—	—	暗褐色砂質土	—	933	弥生時代	4.2	2.0	3.1
055	第65次	SD-103	第2層	黒褐色粘砂	—	216	大和期Ⅲ様式	(4.6)	1.7	(3.2)
056	第65次	Ph-183	—	黒色粘質土	—	601	大和期Ⅳ様式	4.8	2.2	8.5
057	第65次	—	—	黒褐色土	—	18	弥生時代後期	(4.9)	1.6	(3.6)
058	第98次	SD-102	第2層	暗褐色砂質土	—	294	大和期Ⅱ・Ⅲ様式	4.8	1.4	2.4
059	第80次	—	—	黒褐色粘質土	—	63	弥生時代前・中期	4.9	1.9	3.0
060	第65次	—	—	黒褐色土	—	35	大和期Ⅴ・Ⅲ様式	5.1	1.2	3.6
061	第61次	—	—	黒褐色土	—	77	大和期Ⅴ・Ⅳ様式	5.4	1.5	3.8
062	第98次	—	—	黒色砂質土	—	89	弥生時代中・後期	(5.7)	1.4	(5.2)
063	第69次	—	—	麻土	—	2183	弥生時代	6.6	1.4	3.2

打製石器046～116は、サヌカイト製の凸基式の石鏃である。基部は円基・尖基のものもここに含める。柳葉形・縦長の菱形を呈す。前者の肩部はやや厚めで、後者は扁平なものが多い。小形品の側縁部は微細な剥離によって刃部を作っている。長さ2.5～7.9cm、重さ0.8～15.7gのものがある。これら石鏃は、大きく3種に分類できる。長さ3cm前後で重さ約2gまで、長さ約3～5cmで重さ3g前後、長さ5cm以上で重さ3g以上になり、凹基式や平基式より一回り大きな石鏃となる。

064 ~ 081 打製石器 (凸基式石鏃)

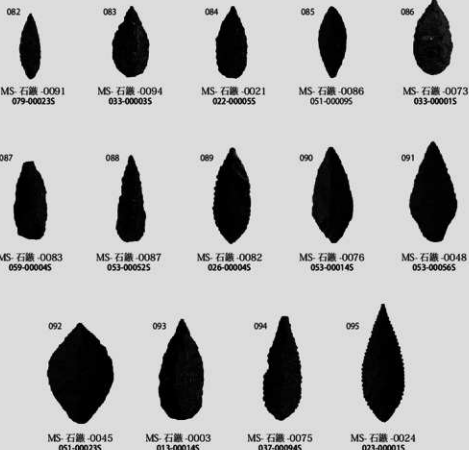
064 ~ 081



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
064	第98次	—	—	暗褐色砂質土	その2	55	弥生時代	2.5	1.1	1.3
065	第98次	—	—	黒色砂質土	—	495	弥生時代中期	(2.7)	1.4	(1.1)
066	第69次	SK-1130	第5層	黒色粘砂(微砂ブロック)	—	1710	大和第Ⅲ-3様式	(2.8)	1.3	(1.4)
067	第69次	—	—	黒褐色粘質土	—	2130	大和第Ⅳ-2・Ⅴ-2様式	3.0	1.0	1.3
068	第93次	SK-2120	第11(下)層	黒褐色粘(植物混)	—	797	大和第Ⅲ-1様式	(3.0)	1.3	(1.2)
069	第53次	SR-101A	第4(上)層	灰黒色粘砂	—	219	大和第Ⅳ-V-1様式	(3.1)	1.4	(1.6)
070	第98次	SD-53	第1層	灰色粘質土	—	6	弥生時代	(3.0)	1.4	(1.7)
071	第89次	SD-1116	第1層	黒褐色粘質土	—	132	大和第Ⅴ-1様式	(3.1)	1.3	(1.3)
072	第69次	SK-1125	第4層	黒灰色粘質土	—	1617	布部0式	(3.5)	1.1	(1.2)
073	第61次	Ph-1199	—	黒色砂質土	—	1268	弥生時代中期	(4.0)	1.0	(1.1)
074	第98次	SD-102	第2層	暗褐色粘質土	—	210	大和第Ⅱ-2様式	(3.8)	1.2	(1.7)
075	第111次	SD-02	第1層	茶灰色粘質土	—	45	弥生時代	4.3	1.0	1.5
076	第69次	SD-1104	第3層	暗灰黄色粘砂	—	1344	大和第Ⅴ-1様式	3.0	2.2	2.2
077	第93次	Ph-1206C	第3層	暗褐色粘質土	—	427	大和第Ⅱ様式	3.2	1.4	1.5
078	第65次	—	—	黒褐色土Ⅱ	—	1038	大和第Ⅱ様式	3.9	1.4	1.9
079	第98次	SD-61	第1層	灰色粘質土	—	61	弥生時代	(4.2)	1.7	(3.5)
080	第69次	SD-1111	第2層	黒粘(泥灰)	—	1438	大和第Ⅳ-VI様式	(4.6)	1.4	(3.0)
081	第69次	SD-1102	第2層	黒褐色粘質土	—	903	大和第Ⅴ-3様式	4.7	1.9	3.5

082 ~ 095 打製石器 (凸基式石鏃)

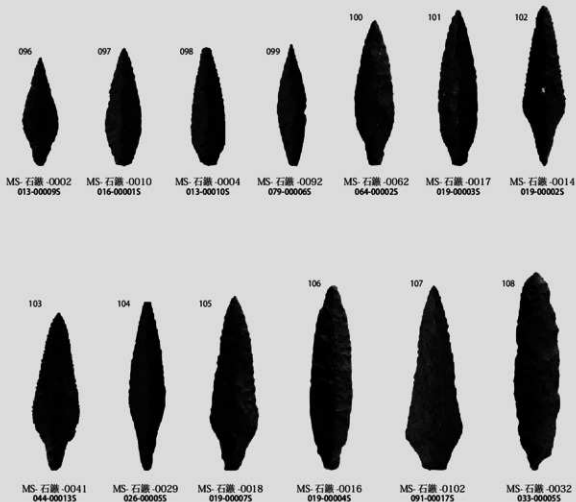
082 ~ 095



調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No	共存時期/時代	長さ	幅	高さ
082	第79次	—	黒色粘質土	—	560	大和Ⅱ様式	02.0	0.9	0.8
083	第33次	SK-202 第2層	黒粘	—	813	大和Ⅱ-2様式	2.8	1.5	1.7
084	第22次	廃土D	—	—	367	弥生時代	2.9	1.2	1.1
085	第51次	SK-104 第3層	黒粘	その1	70	大和Ⅱ-1様式	2.8	1.1	1.2
086	第33次	SK-161 第1層	灰灰層	—	807	大和Ⅱ-3-Ⅱ-1様式	3.1	1.6	1.7
087	第59次	SK-1113 第1層	黒褐色粘質土	—	376	弥生時代中期	(3.1)	1.3	(2.1)
088	第53次	SR-101B 第4層	黒粘(灰灰)	—	221	大和Ⅱ-Ⅱ-1・2様式	3.5	1.2	1.3
089	第26次	SD-1201 第1層	暗灰粘	—	373	大和Ⅱ-1様式	3.9	1.5	2.6
090	第53次	SR-101A 第4(上)層	灰褐色粘砂	—	292	大和Ⅱ-1・3-Ⅱ-1様式	3.8	1.5	2.2
091	第53次	SR-101B 第3層	黒色粘砂	—	116	大和ⅡⅢ-1・2様式	(4.0)	1.8	(3.2)
092	第51次	SD-103 第3層	黒粘	—	57	大和ⅡⅢ-2様式	(3.9)	2.5	(4.3)
093	第13次	SD-1060 第11層	黒粘IV	—	413	大和Ⅱ-3様式	4.0	1.8	3.2
094	第37次	SK-3101 第2・b層	灰褐色粘質土	—	261	大和ⅡⅢ様式	(4.1)	1.5	(2.4)
095	第23次	SK-123 第5層	礫物層	—	373	大和ⅡⅢ-2様式	4.7	1.6	2.2

096 ~ 108 打製石器 (凸基式石鏃)

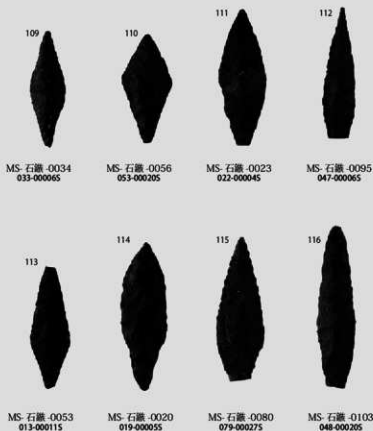
096 ~ 108



調査次数	遺構	層位	土色	取土番号	No.	共存時期/時代	長さ	幅	高さ
096 第13次	SD-106C	第7層	砂質土Ⅱ	5-709	382	大和ⅢⅢ-3・4種式	4.3	1.4	2.5
097 第16次	SD-101	—	黒色土	—	2	大和ⅢⅢ-3・4種式	(4.7)	1.3	(3.6)
098 第13次	SD-106C	第7層	砂質土Ⅱ	5-711	382	大和ⅢⅢ-3・4種式	(4.6)	1.3	(3.0)
099 第79次	SD-103	第4(下)層	褐色粘砂(粗砂)	その2	329	大和ⅢⅢ-2種式	(4.8)	(1.1)	(1.8)
100 第64次	—	—	黄褐色粘質土	—	5	弥生時代	5.8	1.6	5.9
101 第19次	SD-204	第2層	褐色粘質土	5-201	601	大和ⅢⅢ種式	(5.9)	1.5	(7.2)
102 第19次	SD-204	第5層	灰褐色粘砂	—	745	大和ⅢⅢ種式	6.4	1.7	5.3
103 第44次	SD-103	第2(上)層	黒褐色粘質土	—	139	大和ⅢⅢ-2種式	6.3	1.9	4.9
104 第26次	Ph-1167	—	—	—	354	弥生時代中期	(6.5)	1.4	(3.9)
105 第19次	—	—	黄褐色土	—	413	大和ⅢⅢ-2・3種式	(7.0)	2.0	(6.4)
106 第19次	SD-204	第5層	灰褐色粘砂	—	745	大和ⅢⅢ種式	(7.4)	1.7	(10.1)
107 第91次	—	—	黒褐色粘質土	—	661	弥生時代中期	(7.3)	2.2	(7.7)
108 第33次	SD-109	第3b層	褐色土	—	449	大和ⅢⅢ-Ⅲ種式	(7.9)	1.9	(15.7)

109 ~ 116 打製石器 (凸基式石鏃)

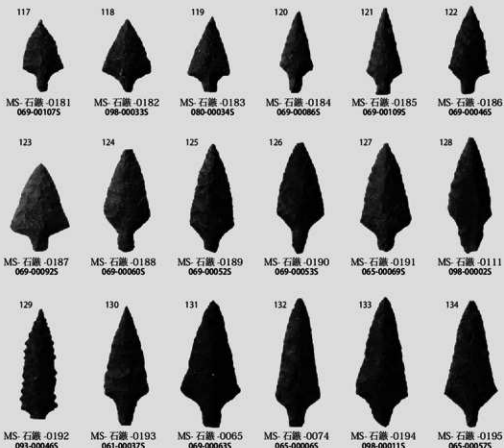
109 ~ 116



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No	共存時期/時代	長さ	幅	重量
109	第33次	SD-115	第1層	灰褐色土	—	408	大和遺IV-1様式	(4.6)	3.2	(3.3)
110	第53次	SR-101A	第4(上)層	灰黑色粘砂	—	293	大和遺I-1・II-1・2様式	(4.3)	2.0	(3.5)
111	第22次	SD-54	第3層	灰粘	—	72	弥生時代	(5.4)	1.9	(3.8)
112	第47次	SD-2107	第2層	茶灰色砂質土	—	416	大和遺IV様式	(5.2)	1.3	(3.0)
113	第13次	SD-106C	第6層	砂質土	—	368	大和遺IV-1様式	(4.9)	2.9	(2.7)
114	第19次	SD-204	第5層	灰黑色粘砂	—	803	大和遺IV様式	5.9	1.6	7.5
115	第79次	—	—	黒褐色粘質土	—	797	弥生時代中期	(5.7)	1.9	(5.0)
116	第48次	—	—	黒灰色粘質土(黄鉄)	—	263	大和遺II-3・III-1様式	6.4	1.9	8.8

117～134 打製石器 (有茎式石鏃)

117～134

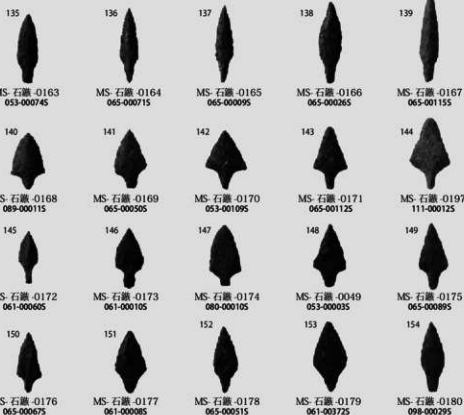


調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共存時期/時代	長さ	幅	重さ	
117	第69次	—	黒褐色土	—	92	大和Ⅱ-3・4様式・Ⅲ内式	2.9	1.7	1.4	
118	第98次	—	暗褐色粘質土	—	51	弥生時代	2.2	2.0	2.3	
119	第80次	SD-106	第2(下)層	—	262	大和Ⅲ-3様式	(3.1)	1.7	(1.9)	
120	第69次	—	黒褐色土	—	1481	大和Ⅳ様式	3.3	1.3	1.7	
121	第69次	—	黒褐色土	—	101	大和Ⅴ-3・4様式	3.5	1.4	2.0	
122	第69次	SD-1104	第2(下)層	—	880	大和Ⅴ-2様式	3.5	1.7	2.4	
123	第69次	—	黒褐色土	—	17	大和Ⅴ-4様式	3.5	2.4	3.5	
124	第69次	SD-1109	第5層	—	273	大和Ⅴ-3様式	(4.2)	1.9	(3.5)	
125	第69次	SD-1104B	第3b層	—	1189	大和Ⅴ-Ⅳ様式	(4.3)	1.8	(4.7)	
126	第69次	SD-1107	第1層	—	395	大和Ⅴ-Ⅳ様式	(4.4)	1.9	(3.4)	
127	第65次	—	黒褐色土	—	187	弥生時代中・後期	4.3	2.0	5.3	
128	第98次	SK-104	第3層	—	160	大和Ⅴ-2様式	(4.6)	1.8	(4.1)	
129	第93次	—	黒褐色粘質土	—	16	弥生時代	(4.4)	1.4	(2.2)	
130	第61次	SD-151BN	中央Sec.	—	501	1635	大和Ⅱ-2・3様式	(4.8)	1.8	(3.0)
131	第69次	SD-1109	第3(下)層	—	109	大和Ⅴ-4様式	5.1	2.4	5.6	
132	第65次	SK-106	第2層	—	398	大和Ⅴ-Ⅰ様式	(5.1)	1.8	(4.7)	
133	第98次	SD-102	第2層	—	412	大和Ⅴ-2様式	(5.2)	2.1	(4.0)	
134	第65次	—	黒粘(炭灰混)	—	882	大和Ⅴ-3様式	(5.0)	2.1	(4.0)	

打製石器117～184は、サヌカイト製の有茎式の石鏃である。身部の形態が三角形・二等辺三角形・柳葉形に茎部が作り出されているものである。長さ2.5～6.9cm、重さ0.8～17.6gのものがある。長さ3cm前後で重さ約2gまで、長さ約3～5cmで重さ2～5g前後、長さ5cm以上で重さ5g以上の大きく3種小・中・大に分類でき、凸基式より重量的に重くなる傾向がみられる。特に179～184の大形品のように、形態的にも整い精緻な製品がみられるようになる。また、大形品は大和Ⅳ・Ⅴ様式に多く作られたようである。

135～154 打製石器 (有茎式石鏃)

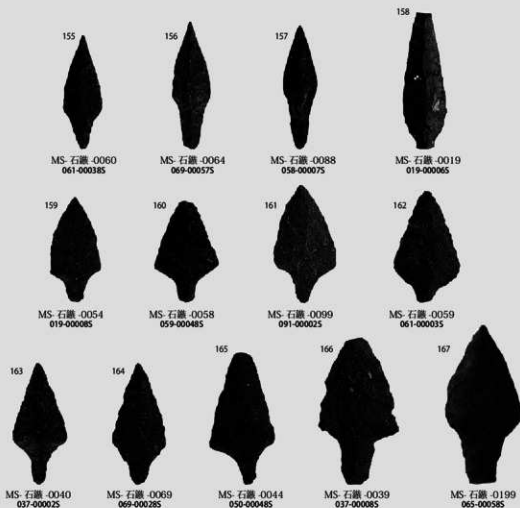
135～154



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
135	第53次	落ち込み1	第1層	黒色粘質土	—	78	大和ⅢV-1様式	4.0	1.2	2.8
136	第65次	—	—	黒褐色土	—	818	大和ⅢV様式	4.3	1.1	2.1
137	第65次	SK-106	第1層	黒褐色土	—	309	大和ⅢV様式	4.5	1.1	2.6
138	第65次	SD-101N	第1層	黒褐色土	—	86	大和ⅢV-3様式	4.2	1.3	2.9
139	第65次	—	—	暗茶褐色土	—	803	弥生時代中・後期	5.0	1.1	2.9
140	第89次	SD-1114	第2層	黒褐色粘質土	—	255	大和ⅢV・Ⅲ-3様式	3.3	2.0	3.9
141	第65次	Ph-1155	—	黒色粘質土	—	687	弥生時代中期	3.4	1.9	3.4
142	第53次	—	—	黄褐色砂質土	その2	15	弥生時代	3.4	2.4	3.3
143	第65次	—	—	黒褐色土Ⅱ	—	873	大和ⅢⅢ・V様式	(3.6)	2.0	(2.3)
144	第111次	SD-02	第2層	灰色粘質土	—	52	弥生時代	(4.1)	2.4	(5.1)
145	第61次	—	—	暗褐色砂質土	—	726	弥生時代	3.1	1.1	1.2
146	第61次	SD-101B	第5層	灰黒粘	その9	574	大和ⅢV様式	3.5	1.7	2.3
147	第80次	SD-101	第2層	黒灰色粘質土	—	92	大和ⅢV-1様式	(3.5)	1.8	(2.7)
148	第53次	SK-106	第2層	黒粘	—	266	大和ⅢⅢ様式	3.6	1.9	2.2
149	第65次	—	—	黒褐色土	—	205	大和ⅢⅢ・V様式	3.9	1.7	2.8
150	第65次	—	—	黒褐色土	—	171	大和ⅢⅢ様式	3.5	1.5	2.1
151	第61次	SD-101B	第5層	灰黒粘	その6	584	大和ⅢV様式	3.6	1.8	3.0
152	第65次	Ph-2170	—	暗灰色粘質土	—	962	弥生時代中期?	3.8	1.4	2.0
153	第61次	—	—	黒褐色土Ⅱ	—	180	大和ⅢⅢ・V様式	(4.1)	2.0	(2.9)
154	第98次	—	—	黒色砂質土	—	89	弥生時代中・後期	(4.1)	1.4	(2.6)

155～167 打製石器（有茎式石鏃）

155～167



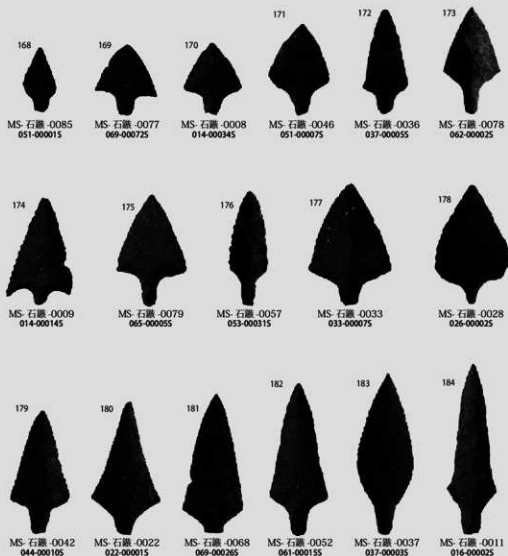
調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	高さ	
155	第61次	SD-151B-85	第8層	灰黒粘	—	1490	大和第II-2種式	4.5	1.5	2.3
156	第69次	SD-1109	第5層	黒色粘質土(砂混)	—	248	大和第VI-3・4種式	5.0	1.5	3.3
157	第58次	SD-106B	第8層	灰黒色粘砂	—	168	大和第II-3種式	4.9	1.4	3.0
158	第19次	—	—	黒色土Ⅱ	—	105	大和第IV・V種式	(5.4)	1.7	(5.1)
159	第19次	—	—	麻土	—	945	弥生時代	4.1	2.0	4.5
160	第59次	SK-3105	第1層	黒色土	—	743	布留式	(4.0)	2.6	(4.9)
161	第91次	SD-101	第3(下)層	褐色粘質土(砂混)	—	81	庄内式	4.6	2.5	9.8
162	第61次	SK-109	第1層	黒色粘質土	—	552	大和第VI-3種式	(4.4)	2.6	(9.0)
163	第37次	SK-2116	第1(下)層	黒色土	—	267	弥生時代中・後期	4.8	2.1	5.3
164	第69次	SD-1101B	第5層	明灰粘	—	937	大和第IV・V種式	4.8	2.1	3.8
165	第50次	—	—	麻土	—	450	弥生時代	(5.2)	2.6	(10.0)
166	第37次	—	—	麻土	—	1129	弥生時代	(5.8)	3.2	(9.8)
167	第65次	—	—	黒褐色粘砂	—	884	弥生時代中前期	(6.3)	3.0	(17.0)

打製石器185・186はサヌカイト製の異形の石鏃である。185は長さ3.4cmの小形品で、平基式である。両側縁中央部に突起をもち五角形を呈する。186は長さ6cmの大形品で、柳葉形の身部中央に抉りを入れる石鏃である。

打製石器187～194はサヌカイト製の中形尖頭器である。従来の石鏃より大形で、長さ6～9cmの長身である。細身のもの、柳葉形を呈するもの、有茎式のものなど定型的でなく、形態的に様々なものがある。

168 ~ 184 打製石器 (有茎式石鏃)

168 ~ 184



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	貝伴時期/時代	長さ	幅	重さ
168	第51次	SK-101	第2(下)層	黒粘	—	28	大和期IV-1様式	(2.5)	1.2	(0.8)
169	第69次	SD-1122	第1層	黒灰色粘質土	—	1244	大和期V-1様式	2.7	2.4	(2.0)
170	第14次	包含層	—	—	—	136	弥生時代	(2.7)	2.1	(2.9)
171	第51次	SK-104	第4層	灰黒色砂質土	その1	83	大和期V-1様式	(3.5)	2.3	(4.3)
172	第37次	SD-2008	第1層	淡灰褐色粘質土	—	88	弥生時代	(4.2)	1.8	(3.2)
173	第62次	SD-101	第1層	黒褐色土	—	43	大和期IV-3様式	4.4	2.3	3.9
174	第14次	包含層	—	—	—	154	弥生時代	(4.2)	2.5	(4.7)
175	第65次	SK-105	第1層	黒褐色土	—	288	大和期V-1様式	4.2	2.6	5.0
176	第53次	SR-101A	第3層	黒褐色粘質土	—	194	大和期V-1様式	4.6	1.6	3.5
177	第33次	落ち込み1	第1層	黒褐色土	—	191	大和期V-1様式	(4.8)	3.1	(6.3)
178	第26次	SK-2103	第1層	黒粘	—	216	大和期IV-3様式	4.7	2.9	5.8
179	第44次	SD-103	第2(下)層	—	S-202	186	大和期IV-1様式	4.9	2.3	4.4
180	第22次	SK-101	第1(下)層	黒色粘質土	—	187	大和期IV-1様式	(5.3)	2.8	(5.3)
181	第69次	SD-1101B	第5-7層	暗灰粘(黄灰色粘質土ブロック)	—	969	大和期V様式	(5.5)	2.4	(6.3)
182	第61次	SD-101B	第5層	灰黒粘	その1	439	大和期V様式	5.7	2.2	6.0
183	第37次	SK-2130	アゼSec.第4層	暗灰粘	—	704	大和期IV-3様式	6.5	2.3	6.2
184	第16次	SD-101	上層	黒色土	—	311	大和期IV-1様式	6.5	1.8	4.3

第II部 考古資料目録

185・186 打製石器（異形石鏃）

185・186

185



MS-石鏃-0072
037-00045

186



MS-石鏃-0027
026-00015

185

第37次調査	
遺構	SK-2139
層位	第4層
土色	植物層
取上	—
No.	1034
共伴	大和第II-3様式
長さ	3.4
幅	1.5
重さ	1.7

186

第26次調査	
遺構	SK-1109
層位	第1層
土色	黒褐色土
取上	—
No.	238
共伴	大和第III-1様式
残存長	6.0
幅	2.6
残存重	8.3

187～194 打製石器（中形尖頭器）

187～194

187



MS-打他-0103
020-001795

188



MS-打他-0196
061-000685

189



MS-打他-0177
093-000725

190



MS-打他-0197
059-001065

191



MS-打他-0209
086-000015

192



MS-打他-0208
037-000015

193



MS-打他-0001
016-000105

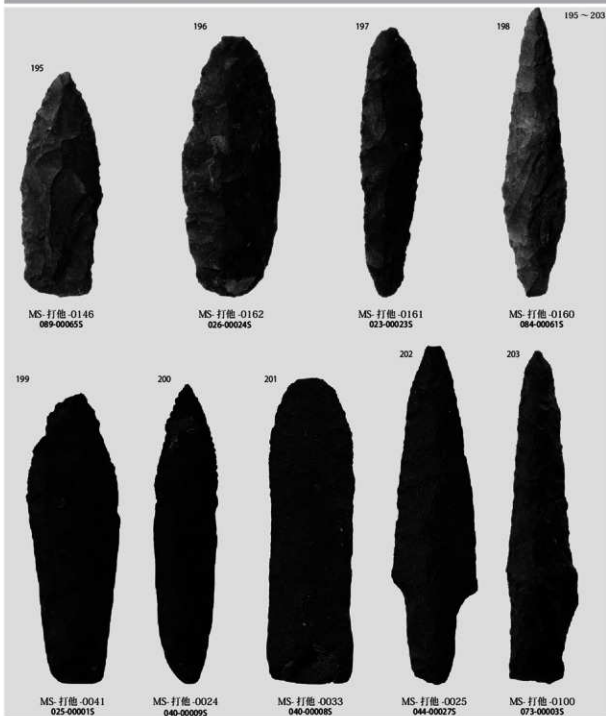
194



MS-打他-0198
048-000405

調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期/時代	長さ	幅	重さ	
187	第20次	SK-105	第1層	黒色土	—	276	弥生時代中期	6.2	1.2	6.1
188	第61次	SD-105C	第4層	黒色粘質土	—	483	大和第IV-4様式	6.6	2.5	12.7
189	第93次	—	—	灰褐色粘質土	—	6	弥生時代	8.0	2.0	13.2
190	第59次	SD-1102	第1層	黒色粘質土	—	326	大和第III-3・4・V様式	7.9	2.6	29.8
191	第86次	SD-1201	第1層	灰粘	—	28	大和第II-3様式	7.0	2.9	11.5
192	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	土-333	264	大和第II-2様式	7.5	3.1	2.00
193	第16次	SD-102	—	灰黒色砂質土	S-02	108	大和第II-3様式 (9/0)	2.9	19.3	
194	第48次	排水溝	—	—	—	123	大和第IV様式	8.8	1.3	36.9

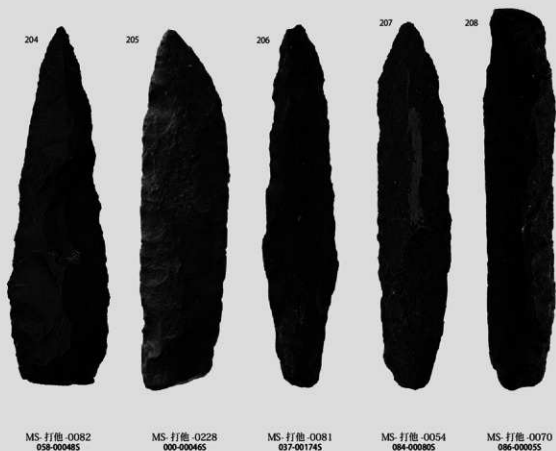
195～203 打製石器 (打製石劍)



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	具伴時期/時代	長さ	幅	重量
195	第89次	SD-1114B	第8層	暗灰粘(ハード)	—	532	大和第四様式	8.9	3.2	36.2
196	第26次	—	第1層	黒褐色土	—	366	弥生時代中期	(10.3)	3.9	(66.2)
197	第23次	落ち込み草	第1層	暗黄灰色土	—	242	大和第一・二様式	(10.6)	2.4	(28.7)
198	第84次	SD-101W	第1層	暗褐色粘質土(砂混)	—	158	弥生時代	(11.5)	2.6	(32.1)
199	第25次	SD-201	第3層	灰褐色砂質土	—	7	大和第一様式	(11.5)	3.7	(60.9)
200	第40次	SD-104	第4(下)層	灰赤粘	—	347	大和第三様式	11.9	2.4	27.0
201	第40次	SD-102B	第8層	—	S-801	426	大和第三・四様式	(12.1)	3.3	(57.8)
202	第44次	SD-103	第6層	—	S-601	290	大和第三・四様式	(12.8)	3.2	(34.9)
203	第73次	SK-106	第1層	黒褐色粘質土(青灰色砂質土混)	—	117	大和第三様式	(13.3)	2.8	(62.2)

204～208 打製石器（打製石剣）

204～208

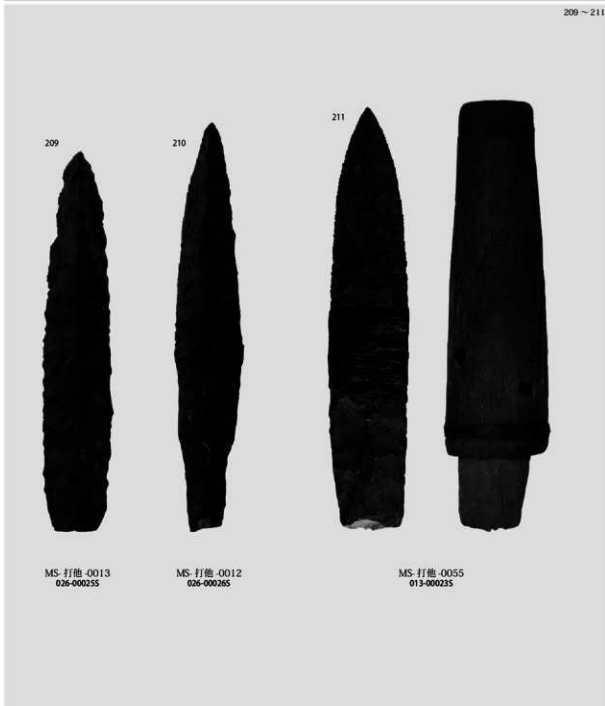


	調査次数	遺構	層位	土色	取土番号	No	共存時期/時代	長さ	幅	高さ
204	第58次	SD-201	第2層	—	S-201	461	大和期1-2様式	13.6	3.8	88.8
205	第0次	表探	—	—	—	118	弥生時代	(14.2)	3.5	(79.8)
206	第37次	—	第1層	黒褐色土	—	49	弥生時代中・後期	(14.3)	3.0	(80.6)
207	第84次	—	—	黒褐色粘質土	—	64	弥生時代	14.0	2.7	63.5
208	第86次	SD-7201	第3層	暗灰粘	—	205	大和期B-1様式	(15.1)	2.9	(106.1)

打製石器 195～215は、サヌカイト製の石剣である。長さ約9～24cmのものがある。平面形態は細長い柳葉形、あるいは基部からほぼ平行する両側縁部に尖形の先端部がつく2種に分類できる。また、205のように先端部の切っ先が偏るものや202の有茎の基部も例外的にみられる。身部の横断面形は、菱形の厚みのあるタイプと薄い凸レンズ状の厚みのないタイプがある。また、基部端には自然面を残すものが多い。200の先端部は鋸歯状の剝離による刃部を作っている。身部中央から基部の側縁部、基部は研磨により仕

209～211 打製石器（打製石剣）

209～211



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
209	第26次	SD-1201	—	胡埴土	—	414	大和第1之様式	15.1	2.7	55.9
210	第26次	SK-3105	第1層	暗黄灰色粘質土	—	181	大和第Ⅲ-V様式	16.2	2.7	56.9
211	第13次	SD-102	—	胡埴土	W-31	114	大和ⅢV-2・V-1様式	16.8	3.1	81.2

上げている。211は西北端の環濠(第13次調査)から、異形高坏(『目録Ⅰ』文様040・『目録Ⅱ』特殊063)や箕など祭祀遺物と一緒に出土した。整った長身の石剣で、基部はやや細くなるが、中央部はほぼ平行する側縁部をもつ。基部側縁部は僅かに研磨する。身部中央よりやや下で、樹皮を約3cmの幅で巻き、握部としている。樹皮より上部の先端部の側縁部は、微細な剥離で鋸歯状に刃部を作り出している。本石剣は、木製の鞘(木製品123)に収められており、基部が3cm程度見える範囲まで収納されていた。

212～215 打製石器（打製石剣）

212～215



調査次数	遺構	層位	土色	出土番号	No.	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
212	第65次	—	黒褐色土Ⅱ	—	276	大和Ⅳ-1様式?	19.6	2.8	(51.4)
213	第26次	SK-2116 第1(下)層	黒褐色粘質土	S-101	522	大和Ⅲ-3様式	19.2	3.6	92.6
214	第115次	SD-101B 第7層	—	S-701	139	大和Ⅴ・Ⅵ様式	24.3	3.5	(110.3)
215	第79次	SD-101B 第10層	—	S-1003	493	大和Ⅲ-3様式	(22.8)	4.3	(218.3)

打製石器212～215は、長身の石剣で形態的にも整っている。213は完形品である。212は基部から先端に向かって徐々に細くなるタイプ、213～215は身部中央から基部がほぼ平行する側縁部をもつタイプである。いずれも基部には自然面を残す。また、基部から身部中位までの側縁部は僅かに研磨しており、212～214のそれより先端寄りの側縁部は、微細な剥離で鋸歯状に刃部を作り出している。214は、全長のわかる石剣として本遺跡で最も長い。

216～218 打製石器（打製石戈）

216～218

216

MS-打他-0149
047-000245

217

MS-打他-0045
077-000245

218

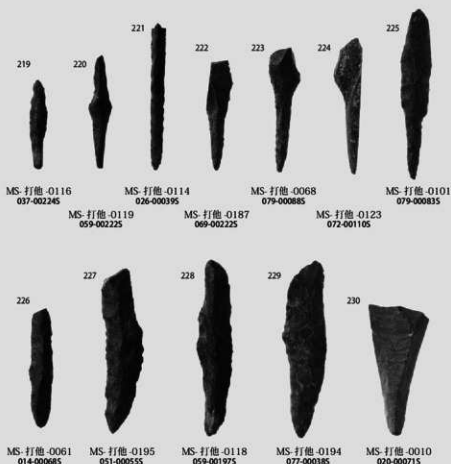
MS-打他-0246
011-000015

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
216	第47次	SD-2105	第7層	灰黒粘	—	484	大和遺跡-1種式	(16.7)	4.9	(187.8)
217	第77次	SX-3101	第5層	—	S-501	120	大和遺跡-3種式	(18.5)	(5.4)	(350.7)
218	第11次	SK-125	—	—	—	—	大和遺跡-1種式	19.5	5.3	221.7

打製石器216～218は、サヌカイト製の石戈である。216は先端部と基端部の一部を欠損する。身部中央には自然面を残す。基部は身部より薄くし、端部には研磨がみられることから、着柄が想定される。217は先端部と基端部、片側縁部を欠損する。身部は厚く、中央から基部は全体に研磨を施す。218は、完形品で形態的には石剣であるが、身部幅が太く基部の片側縁に抉りを入れる。身部中央から先端部は鋸歯縁状の刃部を作る。

219～230 打製石器(石錐)

219～230



調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	高さ
219	第37次	SK-2122 第4(下)層	黒灰粘	その3	459	大和第Ⅴ-1様式	(3.5)	0.7	(1.5)
220	第59次	—	—	—	1158	弥生時代	(4.5)	0.9	(1.9)
221	第26次	SK-2102 Section	黒粘炭灰層	—	524	大和第Ⅱ-3様式	(5.1)	0.6	(1.9)
222	第69次	SK-1101 第1層	黒褐色土	—	314	大和第Ⅴ-4様式	4.3	0.9	2.5
223	第79次	—	黒灰色粘質土	—	699	弥生時代(中前期)	4.9	0.5	2.9
224	第72次	SD-105 第1-b層	黒褐色砂質土	—	123	弥生時代	(5.4)	1.2	(2.9)
225	第79次	—	黒色粘質土(砂混)	—	2	大和第Ⅱ様式	(6.8)	1.3	(5.0)
226	第14次	SK-104	—	—	32	大和第Ⅲ様式	(4.7)	1.0	(3.5)
227	第51次	SD-102 第1(下)層	黒褐色土	—	41	大和第Ⅲ-3様式	(6.5)	1.2	(10.2)
228	第59次	—	黒褐色粘質土	—	193	大和第Ⅲ-2様式	7.0	1.4	10.3
229	第77次	SD-4101 第2層	灰黒色砂質土	—	237	大和第Ⅴ-3様式	7.1	1.8	10.8
230	第20次	—	黒色土	—	67	弥生時代(中前期)	5.2	2.4	10.5

打製石器219～257はサマカイト製、258はチャート製の石錐である。219～230は、錐部と基部(頭部)の界が不明瞭なものである。230を除き、全体が棒状を呈する。219～225は錐部が細長く鋭いに対し、226～230は錐部先端が太めである。225は基部にも回転による摩滅痕がみられる。227は石小刀を転用した可能性がある。230は錐部先端は回転による摩滅痕がみられるが、基部までの一側縁部にも摩滅痕が認められ、錐以外の使用痕跡と考えられる。

231～240 打製石器（石錐）

231～240

MS-打他-0005
019-000725MS-打他-0009
020-000735MS-打他-0015
026-000405MS-打他-0191
065-001745MS-打他-0190
022-000915MS-打他-0117
051-000455MS-打他-0115
037-002255MS-打他-0062
069-002235MS-打他-0022
037-002265MS-打他-0113
020-000725

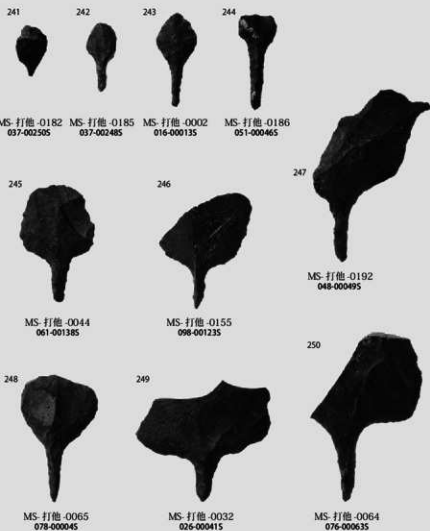
	調査次数	遺構	層位	土色	出土番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	高さ
231	第19次	中世大溝	第1層	灰褐色土	—	1013	弥生時代	4.1	1.8	4.0
232	第20次	SK-104	第3層	黒粘	—	286	大和期V-2種式	(4.8)	2.0	(3.4)
233	第26次	—	—	腐土	—	485	弥生時代	(4.7)	2.9	(7.6)
234	第65次	SD-101W	第1層	黒褐色土	—	111	大和期VI-3種式	5.2	1.8	5.9
235	第22次	SK-103	第3(下)層	黒粘	—	254	大和期III-1種式	(5.1)	2.3	(5.9)
236	第51次	SD-103	第4層	植物層	その1	88	大和期III-1種式	5.5	3.2	11.8
237	第37次	SK-2116	第1(下)層	黒色土	—	269	弥生時代中・後期	(7.0)	2.0	(11.8)
238	第69次	SK-1110	第2層	黒色粘質土	—	2020	大和期III-3種式?	6.4	2.1	12.0
239	第37次	SK-2116	北アゾSec.第5層	—	—	484	大和期III-2種式	7.7	3.2	24.5
240	第20次	—	—	黒色土	—	2	弥生時代中・後期	(8.2)	4.5	(28.4)

231～250は棒状の錐部に不定形な基部をつけるものである。239を除き、錐部は細く短い。251・252は石鏃の転用の可能性のあるもの、253～257は石鏃の転用品で、石鏃先端を錐部として利用している。これらは、いずれも先端だけでなく、錐部中位まで回転痕が認められるものが多く、大きく穿孔するタイプである。

258はチャート製の石錐であるが、唐古・鍵遺跡では唯一のチャート製である。

241～250 打製石器(石錐)

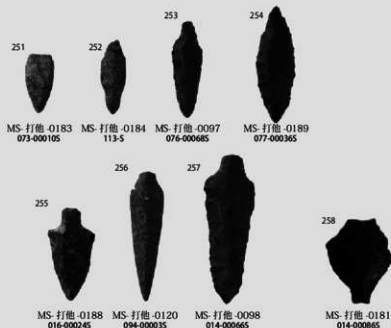
241～250



	調査回数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	高さ
241	第37次	SK-2122	第4(下)層	黒灰粘	その6	429	大和第VI-1様式	(2.1)	1.3	(1.1)
242	第37次	SK-2122	第5層	黒粘	その6	486	大和第VI-1様式	2.8	1.2	1.3
243	第16次	SD-101	-	黒色土(下)	-	326	大和第III-3・4様式	(3.7)	1.6	(1.8)
244	第51次	SD-103	第4層	植物層	その2	91	大和第II-3様式	3.8	1.5	2.0
245	第61次	SD-105B	第4層	黒色粘砂	-	480	大和第III-3様式	4.6	3.0	8.9
246	第98次	-	-	暗褐色粘質土	-	46	弥生時代	4.7	3.2	7.4
247	第48次	-	第IV層	黄灰色粘質土	-	202	大和第I・II様式	6.8	3.3	12.2
248	第78次	SD-109	第2層	暗灰粘	-	116	大和第V-1様式	5.0	3.0	8.9
249	第26次	-	第1層	黒褐色土	-	45	弥生時代	4.9	5.3	9.7
250	第76次	SK-1102	第2層	黒褐色粘質土	-	167	大和第III様式?	6.8	4.5	20.0

251～258 打製石器（石錐）

251～258



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
251	第73次	SD-103	第1層	暗灰色砂質土	—	42	大和期Ⅲ-3様式	2.3	1.2	1.0
252	第113次	—	第IV層	褐色土	—	95	弥生時代	2.0	1.0	1.4
253	第76次	SD-1105	第1層	黒褐色砂質土	—	179	弥生時代	3.8	1.2	2.3
254	第77次	SK-3101	第1層	黒粘	—	60	大和期Ⅲ-1様式	4.6	1.9	3.7
255	第16次	包含層	—	—	—	296	大和期Ⅲ様式	3.7	1.9	3.7
256	第94次	SD-101	第2(下)層	黒褐色粘質土	—	25	大和期Ⅲ様式-庄内式	(5.1)	1.4	(4.0)
257	第14次	SK-101	上層	黒色土	—	18	大和期Ⅲ-3様式	5.9	2.1	7.9
258	第14次	包含層Ⅲ	—	—	—	136	弥生時代	(3.6)	2.6	(7.2)

259 打製石器（着柄石小刀）

259



MS-打他-0089 (MW-工具-0012)
033-004085 (033-00105W)

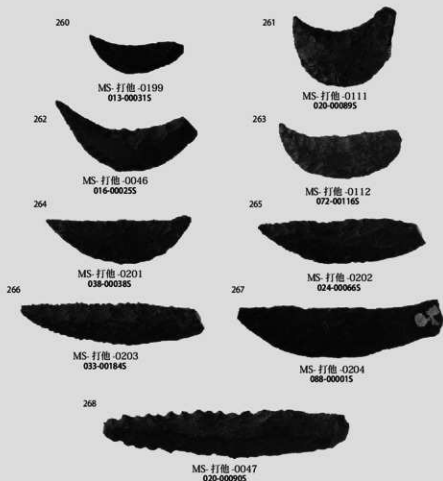
259

第33次調査	
遺構:	SK-123
層位:	第2層
土色:	灰黒粘
取上:	W-208
No.:	603
共存:	大和期Ⅱ-3様式
残存長:	1.4
幅:	2.2
残存重:	19.8

打製石器259～279はサヌカイト製の石小刀である。259は着柄の石小刀と思われるが、刃部は折損しており、木製柄部(木製品012)に差し込まれた基部のみである。柄部は、木製丸棒先端に縦方向のスリットを一部入れ、石小刀の基部を差し込み、樹皮で固く緊縛したものである。

260～268 打製石器(石小刀)

260～268

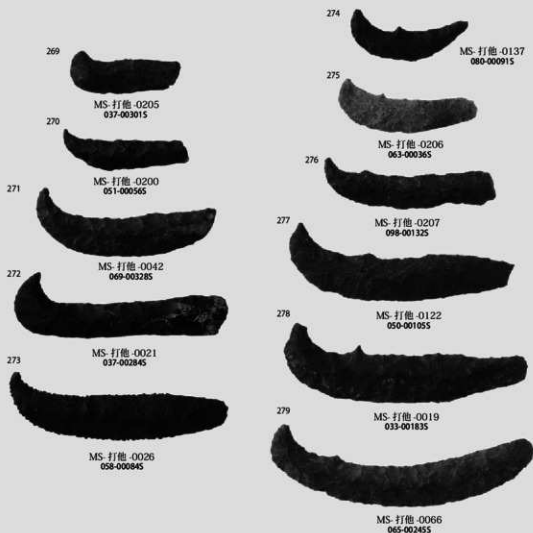


調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	高さ	
260	第13次	SD-106D	第10-4層	黒粘	—	436	大和第Ⅱ-3様式	3.8	1.1	1.9
261	第20次	SD-201	第4層	黄灰色砂質土	—	492	大和第Ⅱ-2様式	(4.0)	3.3	(0.1)
262	第16次	SD-103	—	灰黑色粗砂	—	140	大和第Ⅱ-3様式	(5.4)	2.4	(5.4)
263	第72次	—	—	黒褐色土Ⅱ	—	155	弥生時代中・後期	4.0	2.3	4.9
264	第38次	SK-102	第4層	暗黄灰色砂質土	—	77	大和第Ⅱ-3様式	5.8	1.8	6.1
265	第24次	—	第Ⅳ-a層	黒褐色粘質土	—	204	大和第Ⅱ-1様式	(6.6)	2.7	(8.8)
266	第33次	SK-134	第2層	灰粘	—	499	大和第Ⅱ-1様式	(7.3)	1.7	(0.8)
267	第88次	SK-2107	第4層	暗灰粘(砂混)	—	92	大和第Ⅱ-3様式	(8.2)	2.0	(16.1)
268	第20次	SK-114	第1層	黒色土	—	369	大和第Ⅱ-1様式	(0.5)	1.9	(20.0)

打製石器260～279の石小刀は、刃部先端を上辺部とするものや上方へ湾曲させているものである。形態的には、身部全体を大きく湾曲させるもの(260～263)、身部がほぼ直線的で刃部先端の湾曲が少ないもの(264～268)と刃部先端を強く湾曲させるもの(269～273)、前3者の形態のもので内湾側に小さく突

269～279 打製石器（石小刀）

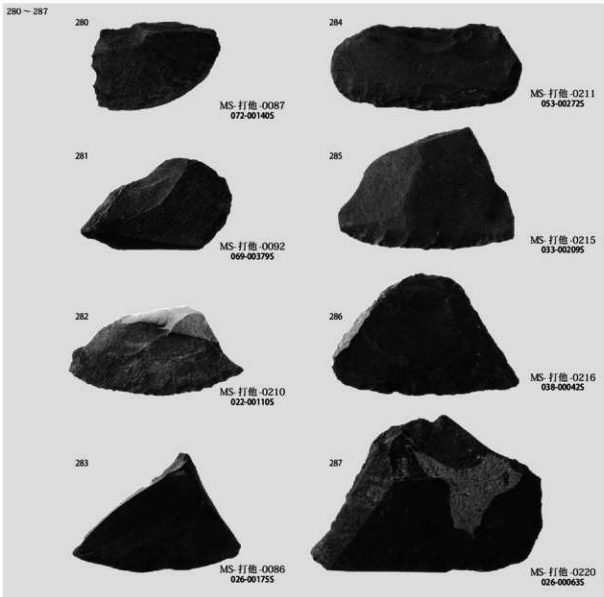
269～279



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共存時期/時代	長さ	幅	厚さ
269	第37次	—	第1層	黒褐色土	—	188	弥生時代中・後期	4.4	1.6	4.0
270	第51次	SD-103	第4層	灰黒粘	—	129	大和郡Ⅲ-Ⅰ様式	5.1	2.6	3.8
271	第69次	—	—	麻土	—	2183	弥生時代	7.1	3.0	9.9
272	第37次	SD-2101	第5層	黒粘(砂混)	—	56	大和郡Ⅴ-Ⅰ様式	8.9	2.6	11.4
273	第58次	SK-101	第6層	—	S-601	438	大和郡Ⅱ様式	8.5	2.6	(10.8)
274	第80次	SD-101	第6層	黒灰色粘砂	—	176	大和郡Ⅳ-V様式	4.7	1.3	(2.7)
275	第63次	—	—	黒褐色土	—	11	弥生時代	5.5	1.4	5.0
276	第98次	SD-05B	第1層	灰色粘質土	—	64	弥生時代	(6.7)	1.3	(6.1)
277	第50次	—	—	黒色土	—	33	大和郡Ⅲ-Ⅲ-3様式	8.9	1.9	11.3
278	第33次	—	—	黒褐色土Ⅱ	—	434	弥生時代中・後期	9.5	2.9	(18.1)
279	第65次	SB-101	第1層(下)層	—	S-151	633	大和郡Ⅲ様式	10.4	3.1	(15.8)

起を有するもの(274～279)がある。長さは3.8～10.4cmのものがあるが、各形態に大小が存在している。基部は身部よりやや細めに作り出し、基部端には自然面を残すものが多い。274では刃部外湾部の先端を除く部位に摩擦痕が認められ、使用痕と考えられる。

280～287 打製石器 (スクレイパー)



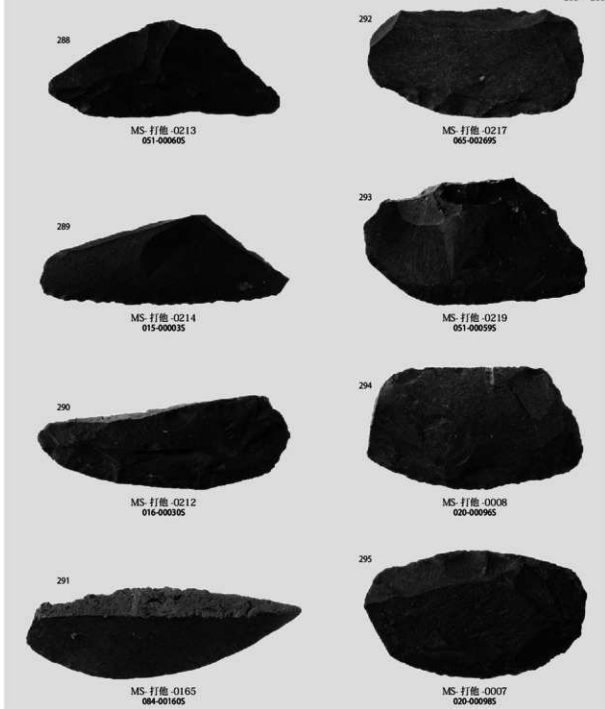
調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	高さ	
280	第72次	SD-107	第3層	灰黒粘	—	236	大和層IV・V-1様式	5.4	3.7	21.6
281	第69次	—	—	暗灰色粘質土	—	1659	大和層III-2様式	5.9	3.7	17.9
282	第22次	SK-105	第II層	黒褐色土	—	309	大和層III-4様式	6.8	3.5	16.0
283	第26次	SD-2103	第2層	黒粘	—	198	大和層III-1様式	6.6	4.7	24.8
284	第53次	SR-101B	第6層	粘物層	—	334	大和層II-1様式	7.6	3.4	38.7
285	第33次	SD-2028	第4層	黒粘	—	1055	大和層II-3様式	7.0	4.8	25.5
286	第38次	SK-104	第1層	黒色土	—	128	大和層II-3様式	7.4	4.8	33.8
287	第26次	—	第0・1層	—	—	3	弥生時代	9.3	6.2	54.7

打製石器280～306は、サヌカイト製のスクレイパーである。割片の横長方向の一边に刃部をつけたものが多く、長さ5.4～11.6cmのものがある。284や295のように周縁全体を刃部とするものもある。280・281・283・292では外弯する刃部あるいは直線の刃部全体が摩滅しており、擦り切りのような滑らかな使用痕跡と推定される。一方、293や300、305の刃部は潰れており、敲打等による使用が考えられる。

打製石器307～311はサヌカイト製の石匙である。唐古・鍵遺跡では数少ない形態である。下辺を刃部とし、一側辺の上部に突出部(基部)を設けるものである。基部は末端を突起させるものもある。309～311は、基部あるいは肩部に自然面を残している。

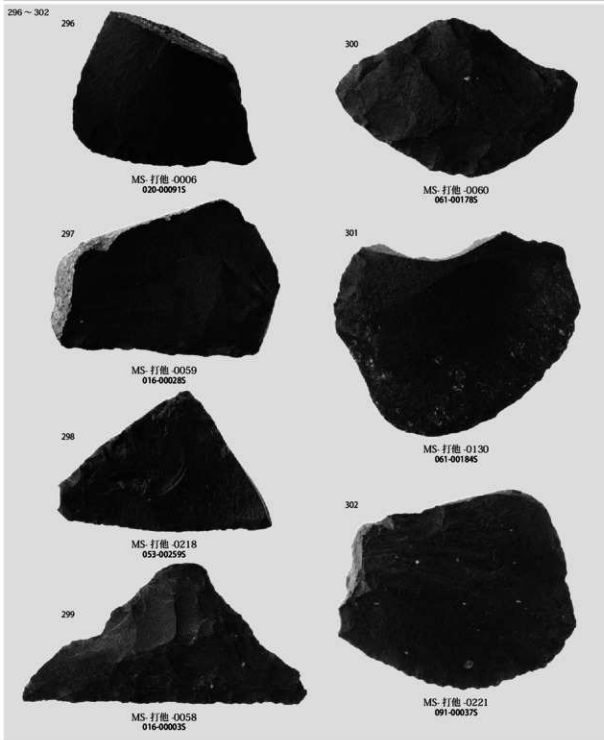
288～295 打製石器 (スクレイパー)

288～295



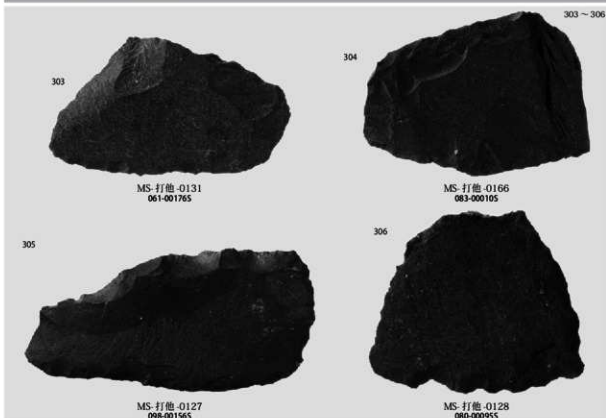
	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No	共存時期・時代	長さ	幅	高さ
288	第51次	SD-103	第4層	礫物層	—	90	大和第Ⅱ-3・第1種式	9.1	3.7	42.9
289	第15次	SD-03W	下層	黒粘	—	39	大和第Ⅱ・第2種式	9.8	3.4	35.2
290	第16次	SD-101	—	黒褐色砂質土	—	309	大和第Ⅱ-3種式	9.9	3.6	60.1
291	第84次	SD-101S	第3層	黒粘(ベース段)	—	186	弥生時代	10.9	3.6	42.3
292	第65次	Pis-195B	—	—	—	775	弥生時代中期	8.4	4.5	58.2
293	第51次	SD-103	第4層	礫物層	—	88	大和第Ⅱ-3・第1種式	9.1	5.3	74.1
294	第20次	SX-101	第4b層	黄褐色粘砂	—	204	大和第Ⅱ-1種式	8.6	4.8	73.4
295	第20次	SX-101	第5(下)層	黒泥粘	—	338	大和第Ⅱ-1種式	8.8	5.1	73.5

296～302 打製石器 (スクレイパー)

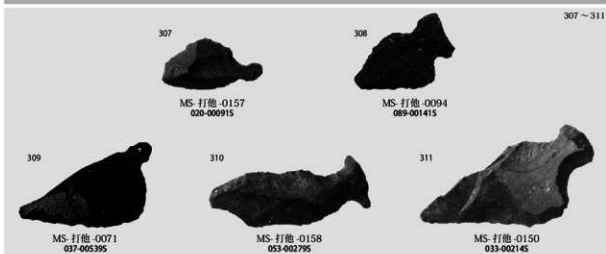


調査次数	遺構	層位	土色	取土番号	So	共存時期/時代	長さ	幅	重量
296	第20次	SX-101	—	—	355	大和第III-1様式	7.4	6.0	64.7
297	第16次	SD-101	—	—	51	大和第III-3+III-1様式	8.7	6.3	(86.2)
298	第58次	SR-101A	第4層	—	322	大和第I-2様式	8.5	5.6	59.4
299	第16次	SD-101	—	S06	20	大和第I-1様式	11.2	5.5	78.4
300	第61次	SD-151	第5層	—	1274	大和第III様式	9.6	6.2	112.2
301	第61次	SD-201B	第2層	—	1630	大和第II-1様式	8.7	9.5	135.4
302	第94次	—	—	—	7	大和第V-1様式	9.4	7.4	151.7

303～306 打製石器 (スクレイパー)

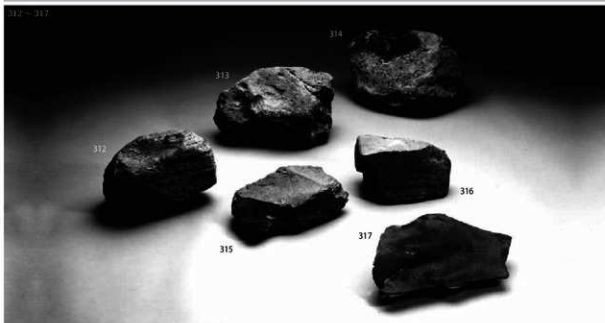


307～311 打製石器 (石匙)



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	具伴時期/時代	長さ	幅	重量
303	第61次	SD-105B	第6層	黒粘	—	988	大和遺Ⅲ-3様式	6.2	9.6	86.2
304	第83次	SD-1103B	第12層	黒褐粘(植物炭)	—	196	大和遺Ⅳ-1様式	7.7	9.6	104.6
305	第98次	SX-201	第1層	灰褐粘(植物器)	—	551	大和遺Ⅱ-1様式	11.6	3.2	88.7
306	第80次	SD-106	第5(下)層	黒灰色粘質土(砂混)	—	325	大和遺Ⅲ様式	7.8	9.2	109.9
307	第20次	SK-213	第4層	灰黒色砂質土	—	602	大和遺Ⅱ-2様式	4.0	2.1	3.6
308	第89次	SD-1114B	第7層	灰灰色砂質土	—	543	大和遺Ⅳ様式	(5.2)	3.1	(13.9)
309	第37次	SD-2202	第3(下)層	粘物層	—	1118	大和遺Ⅰ-1様式	7.2	3.4	22.7
310	第53次	SR-101A	第4(上)層	灰黒色粘砂	—	208	大和遺Ⅲ-4-1(平)様式	6.2	2.8	(10.0)
311	第33次	—	第Ⅳb層	黒褐色粘質土(黄斑)	—	1091	大和遺Ⅱ-1・2様式	7.4	3.4	23.4

312～317 打製石器 (サヌカイト原石)



MS 打他-0035
037-100025



MS 打他-0034
037-100015



MS 打他-0036
037-100035



MS 打他-0020
037-100055



MS 打他-0038
037-100065



MS 打他-0037
037-100045

318 MS 打他-0244-1 037-200015-1	319 MS 打他-0244-2 037-200015-2	320 MS 打他-0244-3 037-200015-3	321 MS 打他-0239 037-100135	322 MS 打他-0240 037-100145	323 MS 打他-0241 037-100155	324 MS 打他-0242 037-100165
325 MS 打他-0243 037-100175	326 MS 打他-0233 037-100075	327 MS 打他-0234 037-100085	328 MS 打他-0235 037-100095	329 MS 打他-0236 037-100105	330 MS 打他-0237 037-100115	331 MS 打他-0238 037-100125
332 MS 石鏃-0219 037-008465	333 MS 石鏃-0220 037-008475	334 MS 石鏃-0221 037-008485	335 MS 石鏃-0222 037-008495	336 MS 石鏃-0223 037-008505	337 MS 打他-0232 037-008515	338 MS 石鏃-0215 037-005035
339 MS 石鏃-0216 037-005015	340 MS 石鏃-0217 037-005025	341 MS 石鏃-0218 037-005045	342 MS 打他-0230 037-005105	343 MS 打他-0231 037-005095	344 MS 打他-0229 037-005085	

318～344 打製石器 (サヌカイトチップ・二次加工)



打製石器312～317はサヌカイトの原石で、西地区北部東端(第37次調査)の土坑から一括出土したものである。おおよそ長さ20～30cm、幅15～20cmほどで、重量は約2.5～11.5kgである。原石の一部に1打撃を加えているものがある。

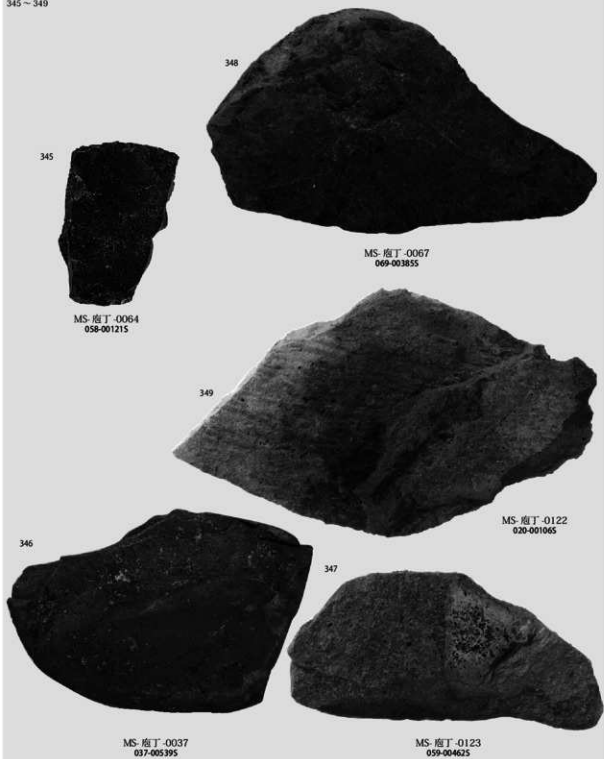
318～344はサヌカイトの剥片及び製作途中品・失敗品で、西地区北部(第37次調査)の大形土坑中層から一括出土した遺物である。このような多量のサヌカイト剥片の土坑への一括廃棄は、北地区(第59次遺跡)や西地区北部(第93次調査)などにみられ、また、小土坑(ピット)に少量の剥片の一括廃棄も存在するがこれらは限られている。



調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	具伴時期/時代	長さ	幅	重さ	
312	第37次	SK-4101	第1層	黒褐色土	S-102	688	弥生時代中晩	24.2	16.4	8.055
313	第37次	SK-4101	第1層	黒褐色土	S-101	688	弥生時代中晩	29.7	15.1	8.372
314	第37次	SK-4101	第1層	黒褐色土	S-103	688	弥生時代中晩	31.5	20.1	11.459
315	第37次	SK-4101	第1層	黒褐色土	S-105	688	弥生時代中晩	25.9	15.6	3.950
316	第37次	SK-4101	第1層	黒褐色土	—	712	弥生時代中晩	20.2	13.9	4.661
317	第37次	SK-4101	第1層	黒褐色土	S-104	688	弥生時代中晩	30.8	17.8	2.491
318	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	—	—	225.1
319	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	—	—	768.6
320	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	—	—	1,037.6
321	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和階段-2様式	2.0	1.3	0.9
322	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和階段-2様式	2.3	1.7	1.2
323	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和階段-2様式	4.7	2.5	9.5
324	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和階段-2様式	4.7	2.9	15.8
325	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和階段-2様式	5.4	3.0	14.7
326	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	2.9	1.0	1.2
327	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	2.6	1.7	1.8
328	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	1.8	1.9	1.7
329	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	3.2	2.4	8.6
330	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	4.8	3.9	19.1
331	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	5.5	4.3	35.7
332	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和階段-2様式	2.1	1.0	0.5
333	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和階段-2様式	2.4	1.1	0.8
334	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和階段-2様式	3.0	1.2	0.9
335	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和階段-2様式	1.7	0.7	0.4
336	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和階段-2様式	2.0	1.4	0.7
337	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和階段-2様式	4.9	5.6	23.2
338	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	1.3	0.5	0.2
339	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	1.2	0.9	0.4
340	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	1.3	1.1	0.6
341	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	2.4	1.2	1.1
342	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	2.2	1.0	0.7
343	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	5.6	1.2	1.5
344	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	—	235	大和階段-2様式	4.5	3.3	27.7

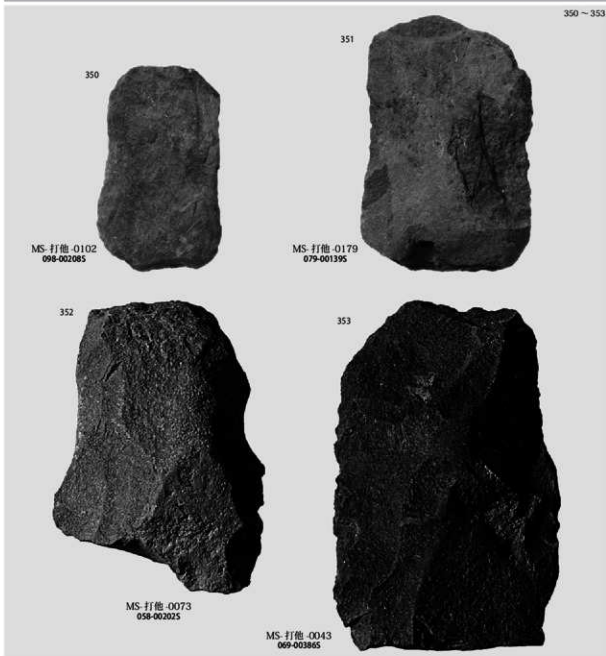
345 ~ 349 打製石器 (大型直緣刃石器)

345 ~ 349



調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	重量
345	第58次	SD-201	第2層	黄灰色細砂	—	460 大和第1-2様式	(5.1)	8.2	(95.4)
346	第37次	—	—	暗黄褐色土	—	512 大和第III-1様式	(12.2)	8.4	(162.0)
347	第59次	—	—	黒褐色土	—	34 弥生時代	12.6	6.2	137.4
348	第69次	SK-1101	第2層	黒色粘質土	—	532 大和第VI-4様式	15.6	8.9	(292.8)
349	第20次	SK-215	第3層	炭化物層	—	709 大和第1-2様式	16.0	9.9	153.5

350～353 打製石器（石鎌）

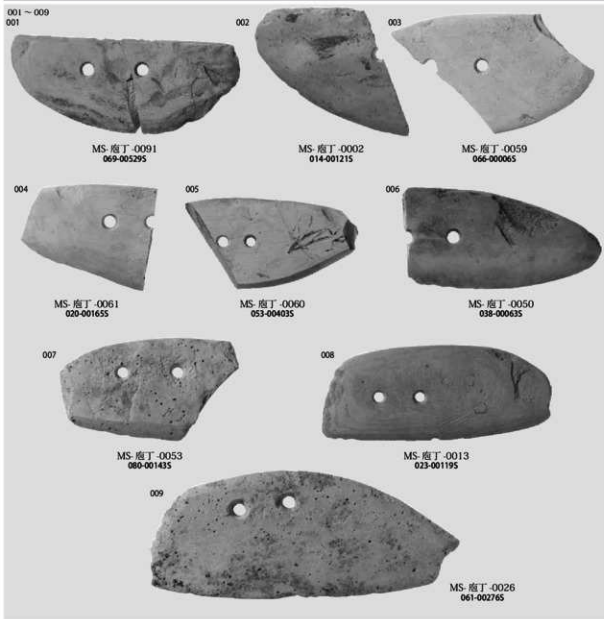


	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
350	第98次	—	—	黒色砂質土	—	465	弥生時代	(8.2)	4.2	(95.2)
351	第79次	SD-101	第3層	暗灰色粘質土(黄斑)	—	320	大和群IV様式	(10.1)	6.7	(150.6)
352	第58次	SD-106	第1層	暗褐色砂質土	—	359	大和群II-3様式	(11.7)	7.5	(274.7)
353	第69次	SD-1110	第3層	灰粘(灰泥)	—	1767	大和群II-2様式	(13.9)	8.0	(414.9)

打製石器345～349は大型直縁刃石器である。長さ約13～17cmの大型剥片の一部を横長にし、刃部とするものである。刃部は研磨するもの(346)もある。いずれにしても刃部は、使用による摩滅が認められるとともに稲科植物と思われる光沢がみられる。345はサヌカイト製、他は安山岩系の石材を利用している。

打製石器350～353は石鎌であるが、折損しているため全体は不明である。平面の形態は短冊形で、両側辺の中間あるいは上位に括れ部を有する。全体に厚みがある。350は結晶片岩製の小形品で、他の大型直縁刃石器の石材と同様なものが使用されている。352は敲打により括れ部を作るとともに括れ部に平行する上面部分も敲打調整で仕上げている。353の上面の突出した部分は研磨により平滑にしている。

001～009 磨製石器(石庖丁)

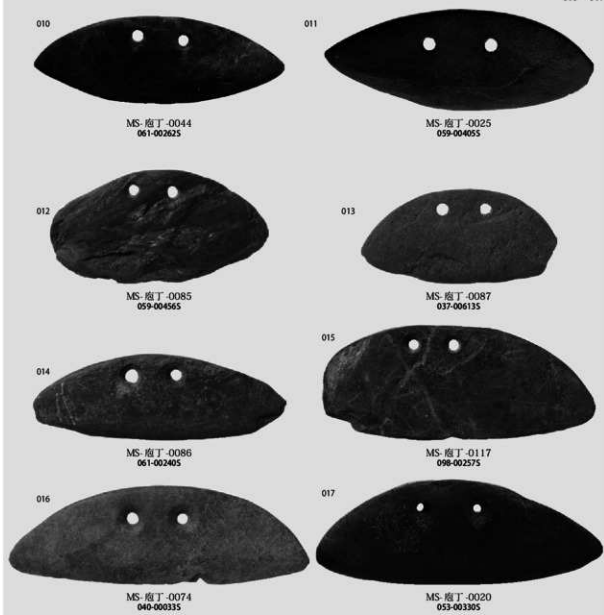


調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
001	第69次	SD-1101B	第5-層	黒灰粘(黄灰色粘質土ブロック)	—	868	大和第V-1様式	12.2	5.0 (61.5)
002	第14次	前期混合層	—	—	129	大和第1様式	(7.9)	6.9	(94.3)
003	第66次	SR-201	第4層	黒灰粘	—	56	大和第1-1様式	(10.5)	(6.5) (52.3)
004	第20次	SK-215	第2(下)層	灰黒粘	S-208	705	大和第1-2様式	(6.8)	5.5 (41.5)
005	第53次	SR-101A	第4層	灰黒粘	—	381	大和第1-2様式	(8.9)	4.9 (42.3)
006	第38次	SD-201	第3層	黒褐色砂質土	—	119	弥生時代前期	(10.6)	5.2 (63.0)
007	第80次	SD-101B	第5c層	褐色砂質土	—	265	弥生時代中期	(9.5)	5.4 (53.3)
008	第23次	SD-101	第3層	黒粘	S-302	120	大和第II-3様式	(12.1)	5.0 (65.0)
009	第61次	SK-117	第1層	黒色粘質土(炭灰混)	S-101	756	大和第III様式	(16.2)	6.7 (140.7)

磨製石器001～009は、流紋岩製の石庖丁である。001～005は外湾刃、006～009は直刃で、いずれも両刃である。001の背部は研磨を施すが、剥離面を残す。刃部中央には刃こぼれがみられる。008は長方形にちかい形態で、紐孔は左寄りの下位に2孔をあける。全体に研磨痕を残すが、B面左側は摩耗が進み光沢がみられる。009はやや大形品である。紐孔はやや左に寄るのに相応するように、左半の刃部は面をもち右半の刃部を作り出しており、使用方法が推定できるものである。

010～017 磨製石器（石庖丁）

010～017



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
010	第61次	Ph-119	第1層	暗褐色粘質土	S-101	485	弥生時代	13.3	4.6	74.6
011	第59次	SK-3130	第2層	—	S-201	1010	大和前期様式	14.2	5.4	92.4
012	第59次	—	—	黒褐色砂質土	S-101	1202	弥生時代	11.5	6.0	(85.9)
013	第37次	SK-2102	第2層	黒灰粘	—	24	大和前期-3様式	(10.3)	5.0	(57.1)
014	第61次	SD-103	第2層	黒褐色粘質土	その1	258	大和前期-4様式	13.3	4.6	75.6
015	第98次	—	—	暗褐色粘質土(灰粘混)	—	554	弥生時代	14.5	6.2	108.3
016	第40次	SD-101	第2-5層	暗灰褐色砂質土	—	111	大和前期V-VI-3-4様式	15.9	5.2	(111.9)
017	第53次	SR-101A	第4(上)層	—	S-406	319	大和前期-1・2様式	15.2	5.6	123.5

磨製石器010～049は、結晶片岩製の石庖丁である。011・019・024・031・033・046の6点はいずれも完形品で北地区第59次調査の小土坑から、また、036・040・041は北西端の第13次調査の環濠中層からいずれも集積した状態で出土した。017・026・028・045は中央区の第53次調査の落ち込み状遺構からやや散在状況であるが、全体としてはまとめて出土した。

018～025 磨製石器(石庖丁)

018～025



MS-庖丁-0089
061-002395



MS-庖丁-0041
059-004075



MS-庖丁-0045
098-002545



MS-庖丁-0118
059-004015



MS-庖丁-0043
059-004165



MS-庖丁-0083
053-003335



MS-庖丁-0031
059-004085



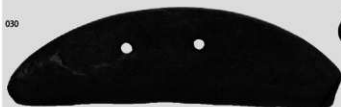
MS-庖丁-0032
079-001595

調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
018	第61次	SD-103	第3層	黒褐色粘砂	—	301	大和第VI-4種式 (13.7)	4.4	(65.9)
019	第59次	SK-3130	第2層	—	S203	1010	大和第III種式	15.9	4.9 88.0
020	第98次	—	—	暗黄褐色砂質土II	—	527	大和第II-3～II-1種式	12.1	4.2 63.8
021	第59次	SK-3107	第2層	—	S201	1001	大和第III種式	14.8	4.1 67.7
022	第59次	SD-3101	第1層	—	S104	537	弥生時代	11.3	3.4 42.0
023	第53次	SR-101A	第4(上)層	—	S409	319	大和第III-1・2種式	11.2	4.1 43.1
024	第59次	SK-3130	第2層	—	S204	1010	大和第III種式	(14.4)	5.5 (118.1)
025	第79次	SD-103	第2(下)層	黒色粘質土(粘性)	その1	115	大和第III-2種式 (14.3)	5.4	(91.8)

010・011は整った杏仁形、012・013はやや不定形な杏仁形である。他はおおまかに半月形を呈する。010のB面刃部には縦方向の使用痕がみられる。011は全体に研磨痕が残るが、B面周縁及び背部には光沢が多くみられる。017は、全体に丁寧な研磨を施すが、A面では紐孔周辺に敲打痕が残る。刃部は鋭くないが未使用品か。

026 ~ 033 磨製石器 (石庖丁)

026 ~ 033

MS-庖丁-0119
053-003285MS-庖丁-0084
053-003265MS-庖丁-0081
053-003275MS-庖丁-0077
058-001255MS-庖丁-0046
070-000035MS-庖丁-0030
059-004095MS-庖丁-0036
053-003595MS-庖丁-0042
059-004105

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期・時代	長さ	幅	重さ
026	第53次	SR-101A	第4(上)層	—	S-402	319	大和第Ⅲ-1・2様式	10.5	3.6	37.6
027	第53次	SR-101A	第4層	灰黒粘	—	255	大和第Ⅳ-1様式	12.6	3.9	49.0
028	第53次	SR-101A	第4(上)層	—	S-401	319	大和第Ⅲ-1・2様式	13.4	3.4	50.0
029	第58次	SK-101	第4層	—	S-401	321	大和第Ⅳ-1様式	13.3	4.0	62.5
030	第70次	SR-201	第3層	—	S-301	27	大和第Ⅱ-1様式	15.6	4.8	86.7
031	第59次	SK-3130	第2層	—	S-205	1010	大和第Ⅲ様式	13.8	5.1	75.1
032	第53次	SR-101B	第4層	黑粘 (斑灰)	—	221	大和第Ⅱ-Ⅲ-1・2様式	15.5	3.7	68.7
033	第59次	SK-3130	第2層	—	S-206	1010	大和第Ⅲ様式	14.3	4.4	57.7

034 ~ 041 磨製石器 (石庖丁)

034 ~ 041



MS-庖丁-0088
063-000585



MS-庖丁-0126
023-000815



MS-庖丁-0116
013-000725



MS-庖丁-0129
019-001535



MS-庖丁-0054
098-002345



MS-庖丁-0076
059-003765



MS-庖丁-0001
013-000735



MS-庖丁-0039
013-000715

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
034	第63次	SD-103A	第3(下)層	暗灰粘	—	344	大和階Ⅳ-1様式	(13.0)	3.9	(48.1)
035	第23次	SK-118	第2層	黒粘	S-201	472	大和階Ⅳ様式	10.5	4.4	55.8
036	第13次	SD-106C	第5層	粗砂	S-303	360	大和階Ⅳ-1様式	12.5	4.3	64.2
037	第19次	中世大溝	第5層	暗灰青粘	—	1059	弥生時代	11.7	5.1	64.9
038	第98次	—	—	灰粘	—	83	大和階Ⅲ-2様式	16.3	4.3	86.8
039	第59次	—	—	黒色土	—	1216	弥生時代	13.0	4.3	74.0
040	第13次	SD-106C	第5層	粗砂	S-504	360	大和階Ⅳ-1様式	14.5	4.6	95.4
041	第13次	SD-106C	第5層	粗砂	S-502	360	大和階Ⅳ-1様式	(17.5)	4.9	(125.2)

042～049 磨製石器（石庖丁）

042～049

MS-庖丁-0082
053-003055MS-庖丁-0080
063-000675MS-庖丁-0068
061-002475MS-庖丁-0078
053-003325MS-庖丁-0069
061-002185MS-庖丁-0040
059-004065MS-庖丁-0047
019-001515MS-庖丁-0048
023-000805

	調査次数	遺構	層位	土色	取土番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
042	第53次	SK-106	第4層	黒色粘砂	その1	361	大和第Ⅱ-1様式	11.80	3.2	(37.1)
043	第63次	SD-103B	第3層	黒灰粘	—	258	大和第Ⅳ-1様式	11.9	3.8	46.3
044	第61次	SD-151	第2層	灰褐色砂礫	—	1281	大和第Ⅲ-4様式	14.7	3.9	59.8
045	第53次	SR-101A	第4(上)層	—	S-408	319	大和第Ⅲ-1・2様式	12.9	4.0	65.4
046	第59次	SK-3130	第2層	—	S-202	1010	大和第Ⅲ様式	15.9	4.7	90.8
047	第61次	SK-117	第1層	—	S-102	873	大和第Ⅲ-4様式	14.1	4.2	73.1
048	第23次	落石込みⅢ	第1層	暗黄灰色土	—	242	大和第Ⅰ-2様式	14.9	4.1	81.1
049	第19次	SD-204	第6(下)層	黒灰色砂質土	—	735	大和第Ⅳ-1様式	13.8	3.6	61.9

050・051 磨製石器（石庖丁）

050・051



MS-庖丁-0035
000-000075

MS-庖丁-0016
033-003275

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
050	第0次	—	—	—	—	9	弥生時代	(14.4)	4.3	(78.3)
051	第33次	SD-110	第2層	暗灰色粘砂	—	342	大和第Ⅱ-3様式	15.2	4.7	(63.2)

052～057 磨製石器（小形石庖丁）

052～057



MS-磨他-0083
053-005135



MS-磨他-0084
076-002355



MS-磨他-0094
053-005145



MS-磨他-0044
053-005125



MS-磨他-0006
069-004265



MS-磨他-0040
033-003785

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
052	第53次	SR-101A	第2b層	黒褐色粘質土	—	105	大和第Ⅳ-1様式	(3.8)	2.2	(6.9)
053	第76次	SD-1117	第2層	暗灰色粘質土	—	318	大和第Ⅳ-2・3様式	3.6	1.6	2.7
054	第53次	SR-101A	第1b層	黒褐色粘質土	—	137	大和第Ⅳ-1様式	4.5	2.4	7.1
055	第53次	SK-201	第1層	灰黒粘	—	312	大和第Ⅱ-1様式	5.4	2.7	15.0
056	第69次	SD-1102	第1層	暗褐色土	—	853	大和第Ⅴ-3様式	5.6	2.8	12.3
057	第33次	SK-109-115	第0(上)層	黒褐色粘質土	—	400	大和第Ⅳ-1様式	5.8	2.8	15.0

磨製石器050・051は、粘板岩系と思われる黒色を呈す石庖丁である。050の左側縁には一部欠損がみられるが、縦位の擦痕があり全体に摩耗している。特に背部の摩耗が激しい。片刃である。

磨製石器052～057は結晶片岩製の小形石庖丁である。いずれも6cm以下の小形品で、刃部を作り出すなど石庖丁の形態を忠実に模している。石庖丁製作時の割片を利用したものと推定される。052は左半分を欠くが、紐孔2をあける。053の右側紐孔は途中穿孔である。054～057は紐孔をもたない。

058～061 磨製石器（大形石庖丁）

058～061

058

MS-庖丁-0033
083-000115

059

MS-庖丁-0014
079-001465

060

MS-庖丁-0124
R-198916-5

061

MS-庖丁-0093
079-001465

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	高さ
058	第83次	—	—	灰褐色砂質土	—	88	弥生時代中期	(9.0)	(7.4)	(109.3)
059	第24次	SR-101	第2層	灰白色細砂	—	91	大和群IV-2様式	(11.8)	11.8	(198.0)
060	R-198916	—	—	—	—	1	弥生時代	(9.5)	(15.4)	(165.6)
061	第79次	—	—	黒色粘質土(砂混)	—	9	大和群II-3様式	(12.9)	10.1	(163.7)

磨製石器058～061は大形石庖丁である。いずれも欠損しており、全体は不明である。058・059は背部中央が突出し、その中央に紐孔1をあける。刃部が横長になるタイプと思われる。060・061は背部中央が平坦な山形を呈するタイプである。060では背部中央に紐孔2、未通過孔2がある。

062～076 磨製石器（流紋岩原石）

062～070



062
MS-庖丁-0130-3
016-200035

063
MS-庖丁-0130-2
016-200025

064
MS-庖丁-0130-4
016-200045

065
MS-庖丁-0130-1
016-200015

066
MS-庖丁-0131-1
016-200065

067
MS-庖丁-0131-2
016-200075

068
MS-庖丁-0132-1
016-200095

069
MS-庖丁-0131-3
016-200085

070
MS-庖丁-0130-5
016-200055



MS-庖丁-0090
016-100035



MS-庖丁-0028
016-100025



MS-庖丁-0034
052-100015



MS-庖丁-0027
052-100045



MS-庖丁-0104
052-100035



MS-庖丁-0079
058-100015

磨製石器062～114は、流紋岩の原石及び剥片である。これらのうち剥片は、集落内部の調査では散在的に出土するが、原石を含めてまとめて出土したのは、西地区中央部南の第16次調査(062～072・076～114)や南地区の第52次調査(073～075)である。掲載したものは、それらの一部である。原石はおおよそ20～40cmの大きさで、重量は10kgを最大とする。これぐらいの重量が取り扱う単位の最大であろう。

077～114 磨製石器（流紋岩チップ）

MS- 庖丁-132.2～132.39
016-200105～200475

077	078	079	080	081	082	083
MS- 庖丁-0132.2	MS- 庖丁-0132.3	MS- 庖丁-0132.4	MS- 庖丁-0132.5	MS- 庖丁-0132.6	MS- 庖丁-0132.7	MS- 庖丁-0132.8
016-200105	016-200115	016-200125	016-200135	016-200145	016-200155	016-200165
084	085	086	087	088	089	090
MS- 庖丁-0132.9	MS- 庖丁-0132.10	MS- 庖丁-0132.11	MS- 庖丁-0132.12	MS- 庖丁-0132.13	MS- 庖丁-0132.14	MS- 庖丁-0132.15
016-200175	016-200185	016-200195	016-200205	016-200215	016-200225	016-200235
091	092	093	094～114			
MS- 庖丁-0132.16	MS- 庖丁-0132.17	MS- 庖丁-0132.18	MS- 庖丁-0132.19～132.39			
016-200245	016-200255	016-200265	016-200275～200475			

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	具伴時期/時代	長さ	幅	厚さ
062	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	S-25	172	大和第1-2様式	12.2	20.6	2.202
063	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	S-03	172	大和第1-2様式	10.9	13.8	664.7
064	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	S-40	172	大和第1-2様式	10.9	13.9	537.7
065	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	S-02	172	大和第1-2様式	9.2	12.5	696.5
066	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	169	大和第2-1様式	9.5	11.8	463.1
067	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	169	大和第2-1様式	8.6	10.4	385.3
068	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第2-1様式	9.0	11.7	259.8
069	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	169	大和第2-1様式	10.0	10.9	292.0
070	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	S-72	172	大和第1-2様式	9.9	10.8	472.7
071	第16次	SX-102	—	砂質土層	S-01	229	大和第3-3様式	36.5	26.2	9406.0
072	第16次	SX-101	—	灰黒色砂質土	S-04	193	大和第3-3様式	41.8	20.3	9304.0
073	第52次	SX-101	第2層	—	S-230	32	大和第3様式	32.0	19.1	3884.0
074	第52次	SX-101	第2層	—	S-227	32	大和第3様式	31.8	39.5	1320.0
075	第52次	SX-101	第1層	—	S-101	7	大和第4様式	28.5	18.5	10000.0
076	第58次	SD-51B	第10層	暗灰褐色土	—	181	弥生時代?	29.5	35.4	2270.0
077	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	8.0	8.2	127.1
078	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	4.5	9.4	90.0
079	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	6.0	7.4	116.0
080	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	5.9	8.0	73.4
081	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	6.7	6.2	38.7
082	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	4.9	7.0	63.9
083	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	3.4	8.6	43.2
084	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	3.5	5.9	23.0
085	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	5.2	4.0	40.7
086	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	6.5	7.9	119.7
087	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	4.3	7.8	57.3
088	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	5.3	3.9	33.2
089	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	3.6	4.6	12.6
090	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	3.3	4.2	9.1
091	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	2.4	4.5	13.2
092	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	2.9	4.7	5.8
093	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	3.2	3.7	4.3
98～101	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	—	171	大和第1-2-3-1-2様式	—	—	—

115 ~ 120 磨製石器 (石庖丁未成品)

115 ~ 120

115



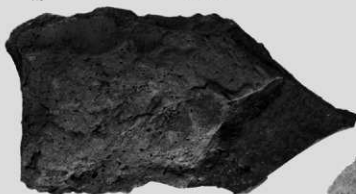
MS-庖丁-0004
016-000915

118



MS-庖丁-0058
063-001095

116



MS-庖丁-0006
016-000935

119



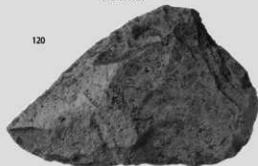
MS-庖丁-0005
016-000925

117



MS-庖丁-0057
069-006945

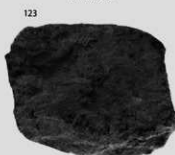
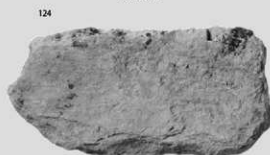
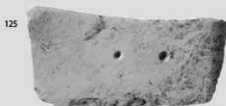
120



MS-庖丁-0029
060-000155

121 ~ 126 磨製石器 (石庖丁未成品)

121 ~ 126

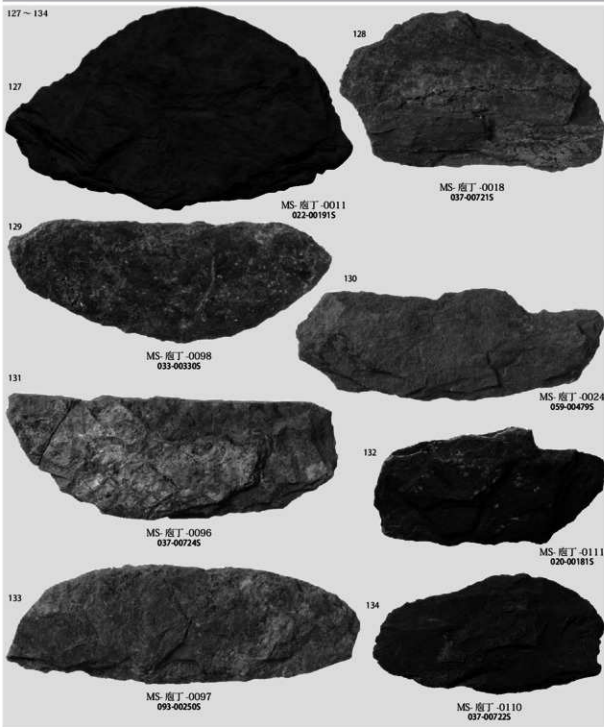
MS-庖丁-0009
019-002095MS-庖丁-0022
058-001635MS-庖丁-0063
014-001245MS-庖丁-0051
020-001935MS-庖丁-0052
076-002075MS-庖丁-0120
053-004515

	調査次数	遺構	層位	土色	出土番号	No	共存時期・時代	長さ	幅	重さ
115	第16次	SD-101	—	黒粘土層	S-06	50	弥生時代前期	(21.2)	13.0	(836.1)
116	第16次	SD-102	—	黒粘土	S-01	316	大和期Ⅱ-Ⅲ様式	18.7	10.0	311.1
117	第69次	SD-1109	第5(下)層	—	S-5506	548	弥生時代	11.3	15.3	643.1
118	第63次	SD-1038	第2層	灰黒粘	—	233	弥生時代	6.3	9.3	208.5
119	第16次	SD-105	—	黒色砂質土	S-17	172	大和期Ⅰ-Ⅱ・Ⅲ様式	14.0	9.2	330.7
120	第60次	SX-1101	第3層	黒褐色粘質土	—	48	大和期Ⅱ-Ⅲ様式	13.0	8.6	233.8
121	第19次	SD-204	第4(下)層	黒粘	S-4008	673	弥生時代	66.4	8.2	(55.8)
122	第58次	SK-51	第5(下)層	灰黒色粘質土	—	62	弥生時代	69.8	6.2	694.0
123	第14次	SK-210	—	—	—	99	大和期Ⅰ-Ⅱ様式	69.3	6.8	(106.5)
124	第20次	—	—	暗黄褐色土V	—	368	大和期Ⅰ様式	13.9	6.9	177.2
125	第76次	—	—	黄灰色粘質土	—	421	大和期Ⅰ様式	10.5	5.4	66.5
126	第53次	SR-101A	第4層	灰黒粘	—	339	大和期Ⅱ-Ⅲ・Ⅳ様式	68.8	4.6	(38.6)

磨製石器 115 ~ 126 は、流紋岩製の石庖丁の未成品である。粗割段階から細孔穿孔段階のものがある。流紋岩の石質が硬いため、形態を整えるのがかなり困難で厚みのあるものが多い。120 ~ 124 は大形剥片を利用したもので、周縁部に剝離調整がみられるが、研磨はまだみられない。125 は不定形な長方形を呈する小形の未成品である。全体に研磨が及んでいる。細孔は未完通の2孔がA面のみにもみられる。刃部も作り出しているが、中央部分は対こぼれ状を呈していることから使用痕の可能性もある。

127～134 磨製石器（石庖丁未成品）

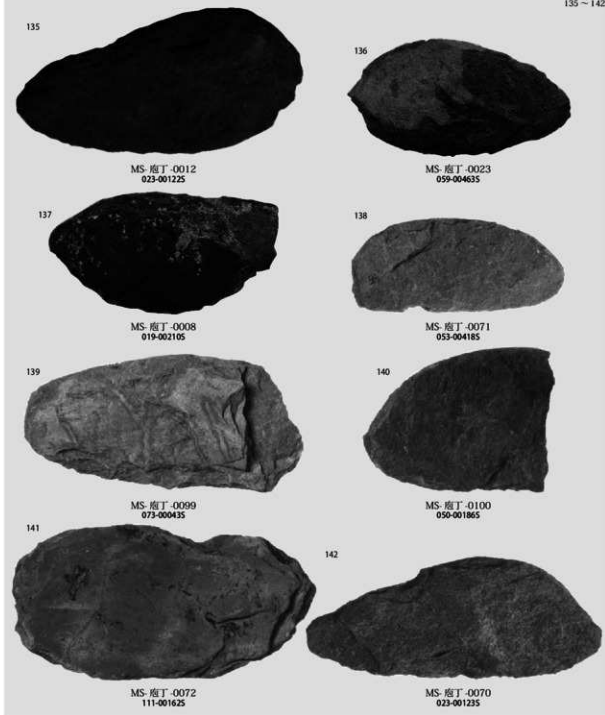
127～134



調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	重さ	
127	第22次	SK-201	第3層	灰黑色粘質土	S201	131	大和第Ⅱ之様式	18.9	11.1	47.4g
128	第37次	SX-2101	第1層	茶褐色砂質土	—	254	弥生時代中期	13.7	8.1	155.1
129	第33次	狭布込分庫	第1-b層	黒褐色土	—	127	弥生時代中・後期	16.7	6.2	212.3
130	第59次	SR-4101	第1-e層	暗黄褐色砂質土	—	708	弥生時代中・後期	15.9	5.8	143.7
131	第37次	—	第1層	黒褐色土	—	83	弥生時代中・後期	16.9	6.3	159.8
132	第20次	SX-101	第7層	灰褐色粘	S701	767	大和第Ⅲ-1様式	12.1	6.2	148.6
133	第93次	—	—	黒褐色粘質土	—	34	大和第Ⅳ・V様式 (18Z)	7.2	—	(208.8)
134	第37次	SX-3101	第3層	灰褐色粘	—	347	大和第Ⅴ-M様式	12.2	6.3	128.4

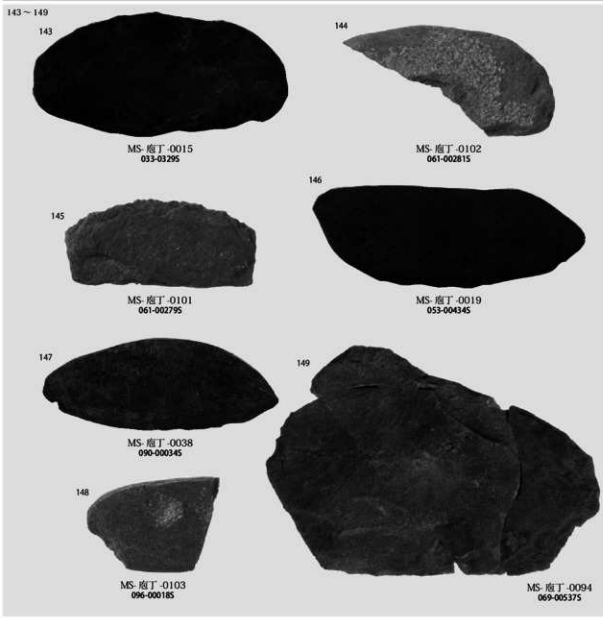
135 ~ 142 磨製石器 (石庖丁未成品)

135 ~ 142



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No	共存時期・時代	長さ	幅	重さ
135	第23次	SD-103	第1層	黒褐色土	—	247	大和第Ⅱ-3種式	15.9	7.5	213.6
136	第59次	SD-1102	第3層	灰黒粘	—	338	大和第Ⅱ-1種式	11.9	6.2	1104.1
137	第19次	SD-103	第2(下)層	黄褐色粘砂	—	245	大和第Ⅱ-3種式	(12.2)	6.6	(116.3)
138	第53次	SR-101A	第4(上)層	灰黒色粘砂	—	213	大和Ⅱ-2-1-2種式	11.3	5.0	83.8
139	第73次	SD-201	—	—	—	191	弥生時代中期	14.8	7.1	183.5
140	第50次	SD-106	第3(上)層	灰黒色粘土	—	165	大和第Ⅱ種式	7.8	(10.3)	(145.6)
141	第111次	—	—	暗灰褐色土	—	4	弥生時代	16.6	8.2	(331.6)
142	第23次	SD-106	第2層	黒粘	S-203	292	大和第Ⅱ-1種式	15.7	4.5	188.0

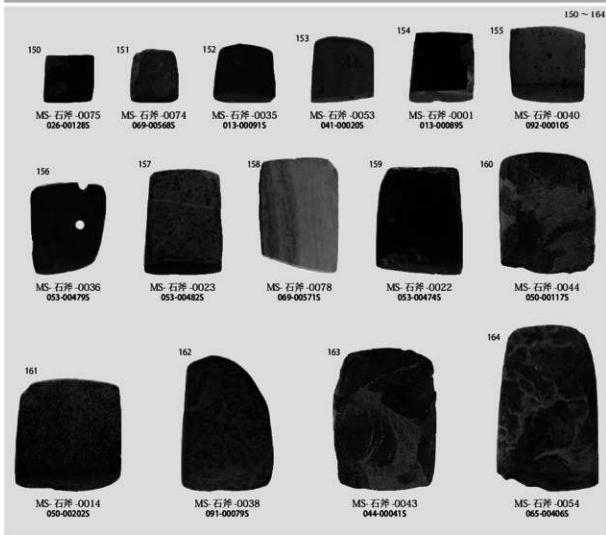
143～149 磨製石器 (石庖丁未成品)



調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No	共存時期/時代	長さ	幅	重さ	
143	第33次	—	第四層	黒褐色粘質土	—	876	弥生時代中期	13.4	6.5	156.8
144	第61次	SD-115	第2層	灰粘	—	1355	大和第Ⅱ-2様式	(11.6)	(5.9)	(84.5)
145	第61次	SD-102B	第4b層	灰褐色粘砂	—	437	大和第Ⅴ様式	(10.3)	(4.7)	(71.2)
146	第53次	SR-101B	第(下)層	黒色粘質土	—	99	大和第Ⅱ-1・2様式	14.0	5.1	96.8
147	第90次	SD-103	第2層	—	5201	112	大和第Ⅲ様式	12.5	4.9	50.1
148	第96次	SD-51	第5層	暗青灰粘	—	76	弥生時代	(5.2)	(7.1)	(47.4)
149	第69次	SK-1143	第1層	暗灰粘(炭灰混)	—	1846	大和第Ⅱ-3様式	(17.2)	11.9	(147.8)

磨製石器127～149は結晶片岩製の石庖丁未成品である。現在までの調査で唐古・鍵遺跡出土の最も大きい未成品は127であり、長さ20cm程度のものが運ばれてきていると推定される。これは粗製段階のもので、周縁を打欠し形態を整えたものである。129～135は、さらに大きさや厚さ、形態を整えた段階のものであるが、まだ研磨はみられない。136・137は形態がほぼ出来上がり、研磨直前のもので、138～145は、面的な研磨をおこなっているもの、146は、厚さがほぼ整い、周縁部の研磨をおこなっているもの、147は背部・刃部(両刃)を作り出し、僅かに紐孔位置を示す敲打痕をつけた段階のもの、148は敲打による紐孔穿孔段階のものである。149は、大形石庖丁の未成品である。山形の形態を呈するが、未研磨段階のものである。

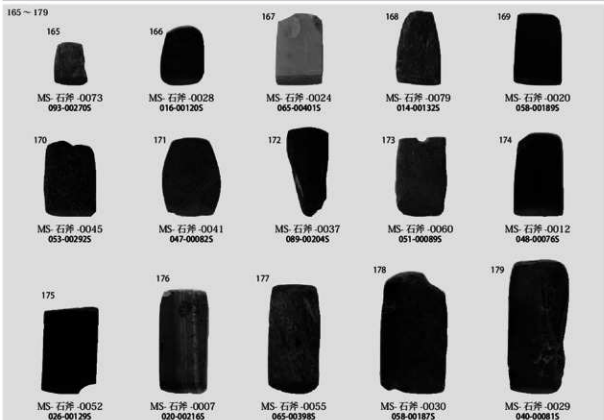
150～164 磨製石器（扁平片刃石斧）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No	共存時期/時代	長さ	幅	厚さ
150	第26次	SK-2103	第1層	黒粘	—	216	大和期Ⅲ3種式	2.5	2.7	9.1
151	第69次	SD-1104B	第4(上)7層	暗灰色粘砂	—	1379	大和期Ⅳ-V種式	2.9	2.6	5.6
152	第13次	SD-08	—	—	—	569	弥生時代	3.3	3.1	11.6
153	第41次	—	—	黒褐色粘質土	—	11	弥生時代中・後期	3.5	3.3	17.4
154	第13次	SD-106D	第10-c層	粘物層	S-1062	443	大和期Ⅲ1種式	3.7	3.4	25.2
155	第92次	SD-2101	第2層	暗灰色粘質土	—	8	大和期Ⅳ種式	4.1	4.0	(41.5)
156	第53次	SR-101B	第6(下)層	黒泥粘	—	385	大和期Ⅱ1種式	4.9	4.0	18.1
157	第53次	落ち込みⅡ	第2(下)層	黒褐色粘質土	その1	91	大和期Ⅴ-1種式	5.7	4.1	41.4
158	第69次	—	—	黒褐色土	その1	122	大和期Ⅴ3・4種式	4.3	6.2	48.6
159	第53次	SR-101A	第4(上)層	灰黒色粘砂	—	234	大和期Ⅱ2・Ⅲ1・3種式	5.8	4.5	66.2
160	第50次	SD-105	第1層	灰泥粘	—	371	大和期Ⅳ4種式	4.9	3.8	(33.3)
161	第50次	—	—	黒色土	—	24	大和期Ⅳ-V同種式	6.0	5.6	108.3
162	第91次	SD-103	第3-b層	暗褐色粘質土	—	273	大和期Ⅴ-1種式	(7.1)	4.7	(129.2)
163	第44次	SD-103	第5-b層	暗灰色粘質土	—	274	大和期Ⅲ3種式	5.7	4.0	(45.2)
164	第65次	—	—	黒褐色土Ⅱ	S-204	993	大和期Ⅳ種式	8.8	5.4	(148.4)

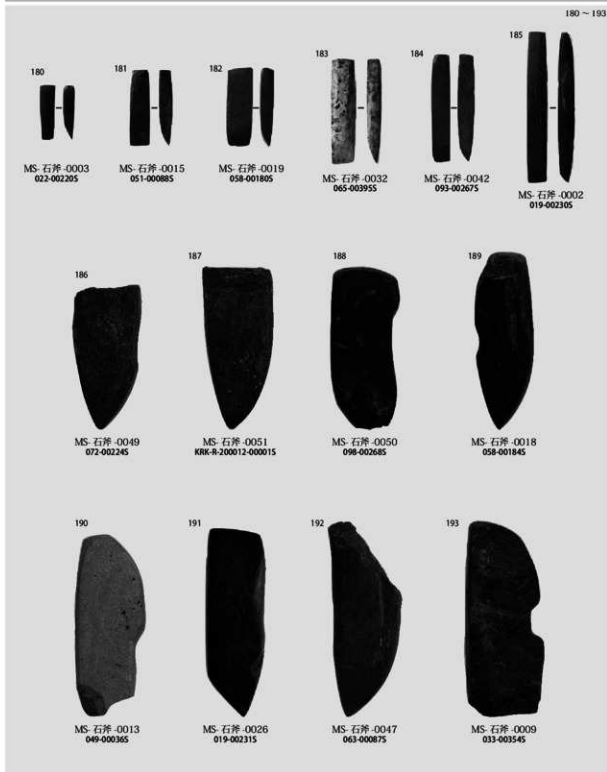
磨製石器 150～179は扁平片刃石斧である。さまざまな石材が使われており、156・173は石廂丁、162は柱状片刃石斧からの転用品、160・163・164はサヌカイト製である。特に小形の扁平片刃石斧については、何らかの別製品からの転用品の可能性が高い。形態的には正方形にちかひもの(150～161)と、縦長の長方形を呈するもの(162～179)がある。また、刃部幅は、2～3cmまでのものと5cm前後のものに分類できる。

165 ~ 179 磨製石器 (扁平片刃石斧)



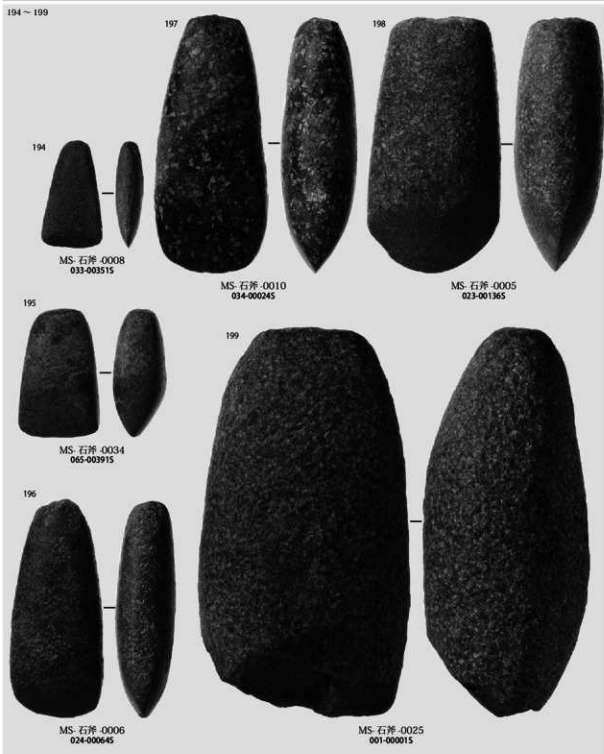
調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No	共存時期/時代	長さ	幅	重量
165	第93次	SK-2122	第6層	黒粘(木片混)	—	910 大和Ⅷ-1様式	2.8	1.8	3.3
166	第16次	SD-101	—	—	57	大和Ⅷ-4様式	3.2	2.3	9.1
167	第65次	SR-151N	第2層	灰白色細砂	—	1055 大和Ⅷ様式	3.9	2.5	(13.5)
168	第14次	Pit-277	—	—	100	弥生時代	3.9	2.4	8.3
169	第58次	SX-101	第3層	黄褐色粗砂	—	312 大和Ⅷ-3様式	3.8	2.6	12.3
170	第53次	—	—	—	59	弥生時代中・後期	4.0	2.8	(13.2)
171	第47次	SD-2101	第6b層	灰黒色粘質土	—	350 大和Ⅷ様式	4.2	3.1	15.3
172	第89次	SD-1051	—	—	44	弥生時代	4.7	2.2	(8.9)
173	第51次	SX-201	第2層	植物層	—	136 大和Ⅷ-1様式	4.3	2.8	17.5
174	第48次	—	—	—	316	弥生時代	4.5	2.6	18.6
175	第26次	SK-1102	第0層	暗灰色粘質土	—	346 大和Ⅷ-2・3様式	4.6	2.9	(27.6)
176	第20次	中里大溝	第3c層	黒粘	—	23 弥生時代	5.6	2.6	(26.2)
177	第65次	SK-108	第1層	黒褐色土	—	317 大和Ⅷ-2様式	5.8	2.8	21.6
178	第58次	SK-101	第1層	黒褐色土	—	291 大和Ⅷ-1様式	6.5	3.5	82.4
179	第40次	SD-104B	第2層	灰色粗砂	—	82 弥生時代(中)	7.2	3.2	44.3
180	第22次	SK-105	第10層	黒粘	—	328 大和Ⅷ-4様式	2.9	0.8	3.1
181	第51次	SD-103	第4層	植物層	季の1	91 大和Ⅷ様式	4.0	1.1	7.2
182	第58次	SK-111	第2層	—	S-201	366 大和Ⅷ-2様式?	4.2	1.4	(9.3)
183	第65次	SK-171	第1層	—	S-101	1007 大和Ⅷ-3様式	5.6	1.3	12.6
184	第93次	Pit-1201W	第6b層	暗灰色粘質土	—	1218 大和Ⅷ-2様式	5.7	1.1	13.0
185	第19次	SD-204	第10層	黒粘	S-1001	1094 大和Ⅷ様式	8.0	1.1	18.6
186	第72次	SD-106	第4層	—	S-101	88 弥生時代	(7.7)	3.6	(150.0)
187	R-200012	—	—	—	—	14 弥生時代	(8.4)	2.5	(160.9)
188	第98次	SK-123	第3層	—	S-301	316 大和Ⅷ-2様式	8.6	3.6	186.1
189	第58次	SD-51	第1層	灰褐色粘質土	—	118 弥生時代	9.4	3.0	(78.9)
190	第49次	SD-104A	—	—	195	大和Ⅷ-3様式	(9.5)	3.7	(208.1)
191	第19次	SD-204	第4(下)層	黒粘	S-4003	673 大和Ⅷ-1様式	10.0	3.2	117.7
192	第63次	SD-103B	第4(下)層	灰褐色粘質土(植物)	—	328 大和Ⅷ様式	(10.3)	3.9	(155.2)
193	第33次	—	第Ⅷ(下)層	暗黄褐色土	—	698 弥生時代(中)	(10.3)	4.0	(194.0)

180～193 磨製石器（柱状片刃石斧）



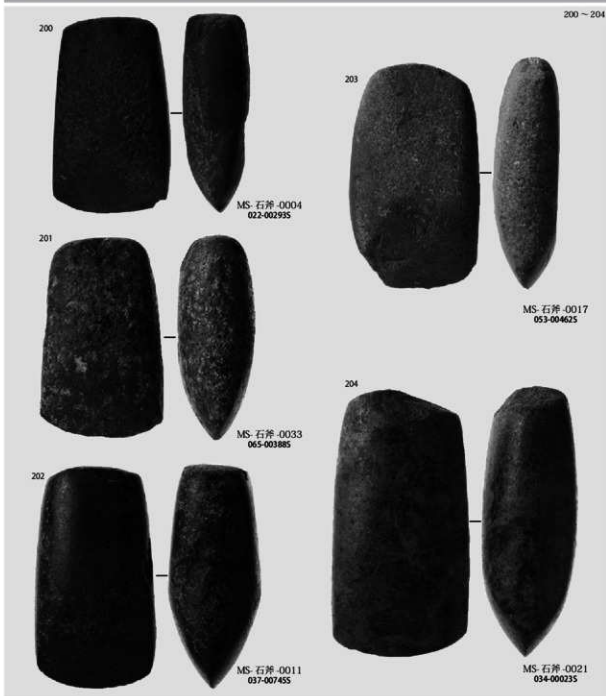
磨製石器 180～193は柱状片刃石斧である。180～185の小形品は、別石斧の折損品からの転用の可能性が高い。186～193は挟り入りである。いずれも折損しており、完形品はない。189・191は縦方向に折損した面を再研磨し、再利用している。

194 ~ 199 磨製石器 (兩刃磨製石斧)



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
194	第33次	SD-202	第2(下)層	植物層	—	984	大和遺Ⅱ-3様式	5.7	3.1	38.2
195	第65次	SB-101	第1-b(下)層	—	S-153	633	弥生時代中期	6.8	4.3	130.4
196	第24次	SK-103	第5層	黑粘	—	174	布面式	11.5	5.0	300.3
197	第34次	SD-102C	第6層	植物層	—	91	大和遺Ⅱ-4様式	13.5	6.0	511.2
198	第23次	SD-105	第1層	黒色粘質土	S-101	183	大和遺Ⅱ様式	13.4	7.0	670.8
199	第1次	—	—	—	—	5	弥生時代	(19.8)	10.8	(235.0)

200～204 磨製石器（太型蛤刃石斧）

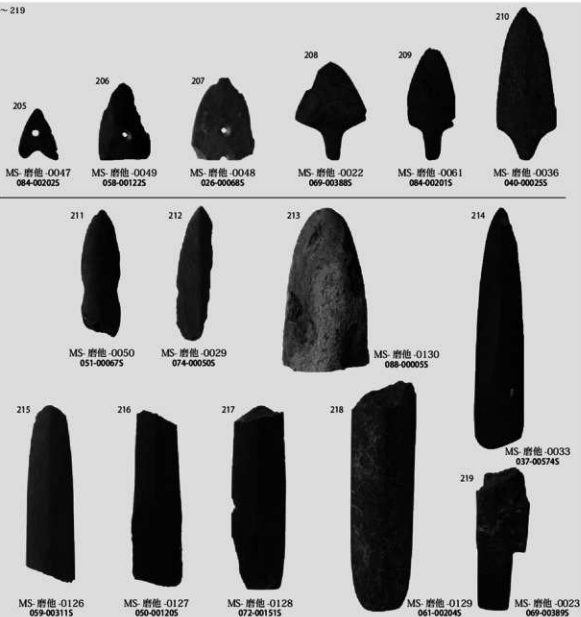


	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	高さ
200	第22次	SD-54	—	暗灰色粘砂	—	236	弥生時代	10.2	6.2	402.8
201	第65次	SK-146	第1層	—	S-101	744	大和郡Ⅱ-3種式	10.5	6.5	470.9
202	第37次	SK-2116	第5(上)層	灰粘	S-502	1103	大和郡Ⅱ-3種式	11.4	6.3	650.9
203	第53次	SR-101A	第4(上)層	—	S-404	319	大和郡Ⅱ-1種式	11.8	6.8	471.4
204	第34次	SK-103	第2層	灰黒粘	—	81	大和郡Ⅱ-2種式	13.9	7.1	925.8

磨製石器 194～199は両刃磨製石斧、200～204は太型蛤刃石斧である。194・195は長さ7cmまでの小形品、196～198・200～204は長さ10～15cmの中形品、199は20cmほどの大形品である。194・196・197は基部が尖る尖基式で、特に196・197の横断面形は丸い。200～204は平面形が短冊形で、横断面形が長方形にちかい楕円形を呈する太型蛤刃石斧である。

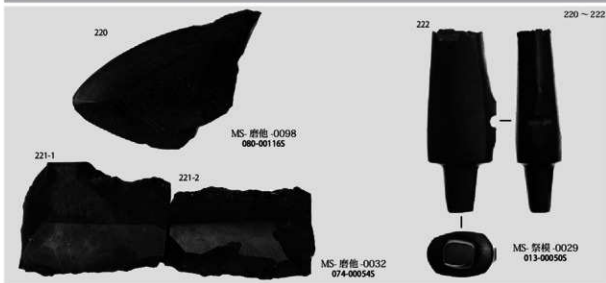
205 ~ 219 磨製石器 (磨製石鏃・磨製石剣)

205 ~ 219



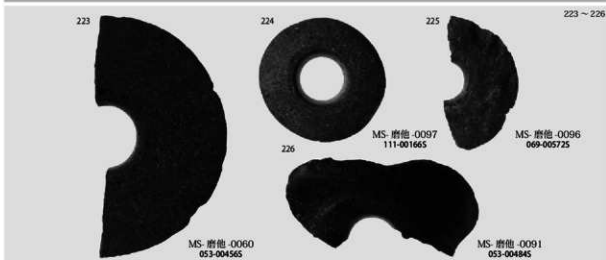
調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
205	第84次	—	陶灰色粘質土	—	151	弥生時代	2.1	(1.5)	(0.8)
206	第58次	SK-110 第1層	黒褐色粘質土	—	357	大和第V様式	3.1	2.1	(2.4)
207	第26次	SD-2004 第1層	褐色陶色土	—	73	弥生時代	(3.3)	(2.5)	(2.7)
208	第69次	—	黄土	—	2183	弥生時代	3.9	2.8	(5.1)
209	第84次	—	黒褐色粘質土	—	297	大和第Ⅲ-2様式	(4.3)	1.8	(3.1)
210	第40次	SD-101 第7(上)層	灰褐色粘砂	—	306	大和第V-1・Ⅲ-3様式	(6.1)	2.3	(6.2)
211	第51次	SK-104 第7層	灰褐色粘質土	—	131	大和第V-1様式	(6.7)	2.1	(14.4)
212	第74次	SK-119 第4(下)層	—	S-401	686	大和第Ⅴ様式	(7.2)	(1.8)	(7.2)
213	第88次	SK-2105 第1層	灰褐色粘質土	—	50	大和第1-2様式	(8.7)	4.7	(95.0)
214	第37次	SK-2130 第2b層	灰褐色	S-1201	546	大和第Ⅲ-3様式	(12.8)	2.6	(36.5)
215	第59次	SD-1102 第2b層	—	S-203	416	大和第Ⅲ-3様式	(9.4)	2.6	(25.1)
216	第50次	SD-106 Ⅱ期 Sec.第20層	—	S-01	423	大和第Ⅲ様式	(9.4)	2.7	(19.7)
217	第72次	—	黒褐色土Ⅱ	—	107	弥生時代	(9.8)	2.9	(28.8)
218	第61次	SD-102B 第5c層	灰褐色粘砂	S-551	788	大和第V様式	(12.3)	3.4	(64.9)
219	第69次	SK-1115 第1層	黒褐色粘質土	—	1199	大和第Ⅴ-4様式	(7.7)	2.9	(27.8)

220～222 磨製石器（磨製石戈・矛形石製品）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
220	第80次	SD-101B	第9層	黒灰粘	—	214	大和期IV-1様式	(7.5)	4.5	(44.2)
221-1	第74次	SD-08	第1層	暗青灰色粘質土	—	370	大和期IV-1様式	(7.9)	(6.0)	(123.3)
222	第13次	SD-106C	第9層	黒粘土	—	454	大和期第1様式	(9.5)	(3.5)	(112.8)

223～226 磨製石器（環状石斧・多頭石斧）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
223	第53次	SR-101B	第(下)層	黒粘土	S-651	384	大和期II-1様式	12.8	—	(172.2)
224	第111次	SX-101	第2層	—	S-201	201	弥生時代	6.7	6.5	93.6
225	第69次	SD-1101	第1(下)7層	暗褐色土(ハード)	—	486	大和期IV-3様式	7.1	—	(45.9)
226	第53次	—	—	黄土	—	460	大和期1様式?	10.2	(5.2)	(148.7)

磨製石器205～210は磨製石鏃、211～219は磨製石剣、220・221は磨製石戈、222は矛形石製品、223～225は環状石斧、226は多頭石斧である。磨製石鏃は、基部形態が凹基式(205)、平基式(206・207)、有茎式(208～210)があり、前2者は基部中央に1孔をあける。磨製石剣はいずれも鉄剣形で、219は有茎式である。214は、全面研磨仕上げで、基部中央から先端部にかけて鑄を作り出し、断面は薄い菱形を呈す。基部の両側縁部と基部部は、僅かに面をもち柄部とする。222の矛形石製品は、基部近くの片側辺部に耳を、基部に断面方形の茎を作り出している。224の環状石斧は完形品で、中央孔周縁を僅かに平坦にする。226の多頭石斧は、中央孔周縁の平坦部に放射状の線刻を刻む。頭部の刃部は4方に復元できる。

001～012 石製品(紡錘車・紡錘車未成品・石製円板)

001～012

MS-磨他-0075
076-002285MS-磨他-0017
061-002285MS-磨他-0015
053-004915MS-磨他-0041
079-002125MS-磨他-0079
091-000895MS-磨他-0013
048-000805MS-磨他-0085
019-002915MS-磨他-0086
023-001495MS-磨他-0069
014-001405MS-磨他-0080
091-000925MS-磨他-0072
058-001995MS-磨他-0078
079-002135

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	重さ
001	第76次	SK-1113	西甲Sec.	—	S-01	490	大和第V-1様式	3.4	3.3	10.1
002	第61次	—	—	暗褐色砂質土	S-101	1096	大和第IV様式	3.7	3.7	12.4
003	第53次	落込込み1	第1層	黒色粘質土	—	86	大和第IV-1様式	4.1	4.1	10.8
004	第79次	SD-103	第2(下)層	黒色粘質土(粘性)	その2	123	大和第III-3様式	4.1	4.1	(14.9)
005	第91次	SD-101B	第6b層	明褐色粘砂	—	231	大和第IV-4様式・庄内式	5.2	5.2	31.2
006	第48次	SK-2301	第1層	—	S-101	357	弥生時代前期	6.0	5.9	35.4
007	第19次	SD-204	第5層	灰黒色粘砂	—	692	大和第IV様式	4.5	4.2	18.8
008	第23次	SK-153	第3層	灰粘	S-301	550	大和第I-2様式	4.4	4.3	(18.1)
009	第14次	包冨層II	—	—	—	152	弥生時代	6.9	5.9	51.7
010	第91次	SD-101	第4層	灰粘	—	90	庄内式	3.4	3.2	11.0
011	第58次	SX-101	第2層	灰黒色砂質土	—	206	大和第III-1様式	4.5	4.5	20.8
012	第79次	SD-101B	—	—	—	519	大和第IV様式	4.8	4.8	(35.5)

石製品001～006は紡錘車、石製品007～009は紡錘車未成品、石製品010～012は石製円板である。006を除き、全て結晶片岩製でいずれも石磨丁破損品からの転用品の可能性が高い。直径3～7cm、重量10～50gほどのものである。

石製品013～016は石棒である。013は小形形で、横断面形は扁平な楕円形を呈する。先端・基部は尖形に削り出す。先端は1条の線刻を巡らせ頭部とし、片側に1条の縦方向の線刻を入れる。015の頭部には1条の刻み痕が巡り、全面に敲打痕が残る。017は半損した独鈷石である。明瞭な凸帯を削り出し、この部分に朱が残る。基端の破面は再研磨し、基端部には敲打痕が残る。

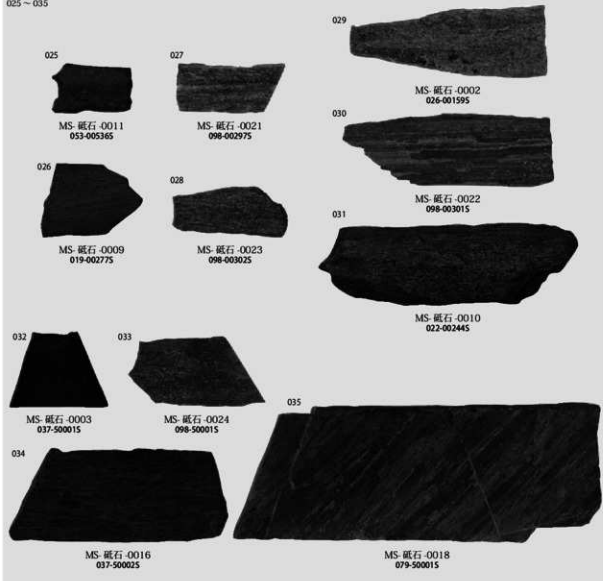


	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共用時期/時代	長さ	幅	重さ
013	第23次	SD-109	第1層	暗茶褐色砂質土	—	541	大和前期3種式	(10.4)	2.1	(29.4)
014	第37次	SK-2202	第1層	暗灰青粘	—	691	大和第1・2種式	(8.6)	3.7	(72.4)
015	第86次	SD-2201	第3層	—	S-301	99	大和第2・3種式	(9.0)	4.3	(224.5)
016	第50次	SD-105	第1層	灰黒粘	—	385	大和第3種式	(11.8)	3.6	(239.7)
017	第22次	SK-51	第1層	灰黒色砂質土	—	237	大和第1種式	(7.3)	4.4	(92.2)
018	第89次	—	—	黒色粘質土	—	118	弥生時代前・中期	(0.5)	0.1	—
019	第76次	SD-1117	第2層	暗茶褐色粘質土	—	282	大和第3種式	(1.1)	0.3	(0.1)
020	第113次	—	第3層	茶褐色土	—	50	弥生時代	5.2	1.2	6.5
021	第37次	SK-2127	第2層	黒色粘質土	—	236	大和第3種式	(5.7)	1.5	(8.4)
022	第53次	SR-101A	第4(上)層	灰黒色砂	—	214	大和1・2・1・1種式	5.6	2.1	(26.1)
023	第33次	SK-101	第1層	黒褐色土	—	337	大和第3種式	8.2	3.7	130.3
024	第20次	SK-220	第2層	暗茶褐色粘質土	—	668	大和第1・2種式	(9.4)	4.6	(163.1)

石製品018・019は石針であるが、折損しており全体は不明である。石製品020～024は石錐で、020はサヌカイト製、021は紅糜片岩製で板状である。石製品025～035は紅糜片岩製で、025～031は側縁に研磨痕がみられる石鏃、032～035は剥片(素材)である。

025～035 石製品(石鋸・石鋸素材)

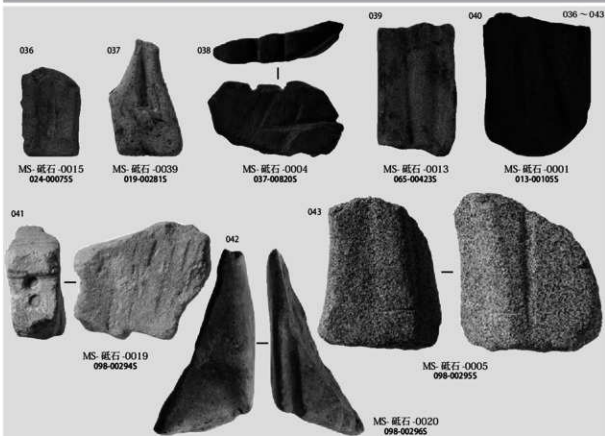
025～035



調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No	共存時期/時代	長さ	幅	高さ	
025	第53次	SR-101A	第4層	灰黒粘	—	381	弥生12・B-1・B1様式	(4.3)	2.6	(6.2)
026	第19次	SD-204	第3b層	灰色砂質土	—	620	大和第四・V様式	(5.5)	4.1	(11.7)
027	第98次	SR-104	第1層	暗褐色粘質土(ハード)	—	152	大和第三-2様式	(5.8)	(2.7)	(17.8)
028	第98次	—	—	暗褐色砂質土	—	44	弥生時代中期	(6.2)	(2.6)	(16.1)
029	第26次	—	第2層	黒褐色土	—	91	大和第四様式・布屋式	(10.4)	3.8	(49.8)
030	第98次	—	—	暗褐色砂質土	—	499	弥生時代中期	(11.3)	(3.9)	(31.9)
031	第22次	中世大溝	第4層	灰黒粘	—	147	弥生時代	(13.7)	4.3	(93.3)
032	第37次	Pe-2185	—	—	—	527	弥生時代	(5.2)	(4.0)	(7.6)
033	第98次	SR-119	—	黒灰粘	—	261	大和第三-1様式	(7.3)	3.8	(18.0)
034	第37次	—	第1層	黒褐色土	—	22	弥生時代	(11.5)	4.9	(116.3)
035	第79次	SD-101B	第6層	暗褐色(礫物混)	—	104	大和第四様式	19.2	7.1	285.0

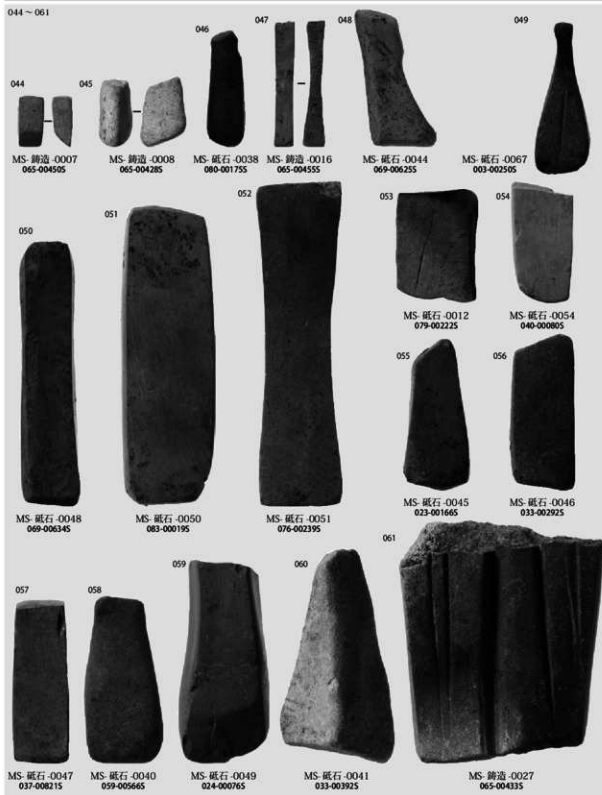
石製品036～074は砥石である。036～043は砥面に「U」字状の溝や小円孔の凹みをもつ玉砥石である。また、044・045・047・061・063・069は青銅器工房跡と推定される地区(第61・65次調査)から出土したものである。砥石の形態としては、方柱状・縦長の四角錐状・平面が楕形で板状を呈するものがある。

036～043 石製品 (砥石)



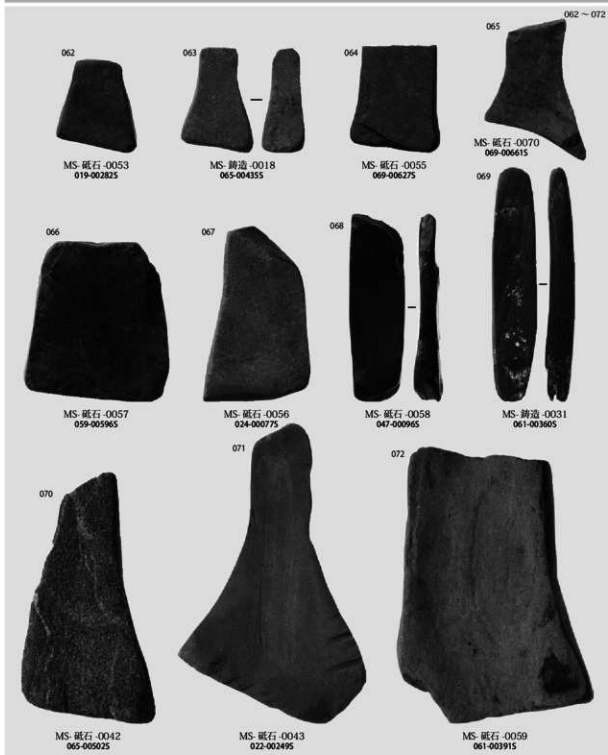
	調査次数	遺構	層位	土色	取土番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	重量
036	第24次	Ph-294	—	—	—	231	大和Ⅱ様式	(4.9)	(3.2)	(29.6)
037	第19次	SD-202	第3層	暗黒褐色粘	—	417	大和Ⅲ-3様式	6.1	3.7	84.4
038	第37次	SK-2103	第6層	灰粘	その9	266	弥生時代	(4.1)	7.1	(43.5)
039	第89次	SD-1114B	第4(下)層	暗褐色粘質土	—	487	弥生時代中・後期	(7.2)	4.3	(112.8)
040	第13次	SD-106C	第7層	砂質土Ⅱ	S-714	382	大和Ⅳ様式	(7.6)	5.7	(176.3)
041	第98次	SK-201	第6層	黒褐色(植物混)	—	537	大和Ⅱ-2様式	6.9	7.0	107.6
042	第98次	—	—	暗褐色粘質土	—	514	大和Ⅲ様式	9.9	4.8	103.5
043	第98次	SD-101C	第13b層	暗灰粘	—	337	大和Ⅲ-1様式	(9.0)	(9.8)	(313.7)
044	第65次	—	—	黒褐色土	—	949	大和Ⅳ(小)Ⅰ-Ⅱ様式	2.7	1.4	8.7
045	第65次	SK-115	第3層	黒色粘質土	—	489	大和Ⅴ-1様式	3.7	2.5	15.6
046	第80次	SD-101	第5層	暗灰褐色粘	—	136	大和Ⅴ-1様式	6.2	2.0	29.5
047	第65次	—	—	黒褐色土Ⅱ	—	275	弥生時代中晩	6.7	1.1	12.6
048	第69次	SK-1134	第3層	黒灰粘(炭混)	—	2316	大和Ⅲ-3様式	7.7	3.5	57.1
049	第3次	SD-106	—	灰白色砂	—	5192	大和Ⅲ様式	8.0	2.9	71.6
050	第69次	SD-1102	第2層	—	S-203	1064	大和Ⅴ-3様式	(3.9)	3.1	(148.0)
051	第83次	SD-1101	第2層	黒色粘質土	—	161	布面式?	15.7	4.9	(520.1)
052	第76次	SK-1107	第2層	—	S-201	275	大和Ⅲ-3様式	16.9	4.4	375.4
053	第79次	SD-103	第2(下)層	黒色粘質土(粘性)	—	107	大和Ⅲ様式	6.1	4.1	(127.4)
054	第40次	SD-101	第3(下)層	黒色粘質土	—	128	庄内式	(6.3)	(3.3)	(51.0)
055	第23次	—	—	黒褐色土	—	37	弥生時代中・後期	8.0	3.6	95.1
056	第33次	Ph-1171	—	暗褐色粘質土	—	604	弥生時代中晩	7.9	3.3	80.6
057	第37次	SK-4101	第2層	黄灰色砂	—	445	弥生時代中・後期	8.4	3.0	(120.2)
058	第59次	SR-4101	第1b層	黒褐色粘砂	—	617	大和Ⅴ-4様式	(8.7)	4.0	(169.9)
059	第24次	SK-103	第5-6層	—	—	202	布面O式	(10.7)	4.8	(272.2)
060	第33次	東-120-10115	第2層	灰粘	—	179	大和Ⅳ-1様式	11.1	6.1	268.7
061	第65次	—	—	黒褐色土	S-103	859	大和Ⅳ-1様式	(12.4)	10.7	(764.8)
062	第19次	SD-204	第10層	黒粘	—	860	大和Ⅲ-1様式	4.5	4.3	(42.8)
063	第65次	—	—	黒褐色土	—	197	大和Ⅴ-3様式	5.5	4.0	46.7

044～061 石製品(砥石)



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共存時期/時代	長さ	幅	高さ
064	第69次	SK-1137	第5(下)層	毛土層(灰粘土)	—	2062	大和前期3様式	5.7	4.8	(40.2)
065	第69次	—	—	暗灰色粘質土	—	1672	弥生時代中・後期	5.2	7.6	(41.0)
066	第59次	—	—	黒色土	—	6	弥生時代	8.4	7.7	21.2

062 ~ 072 石製品 (砥石)



	調査次数	遺構	層位	土色	取土番号	№	共存時期/時代	長さ	幅	高さ
067	第24次	SK-103	第5層	黒粘	—	195	布目0式	9.3	5.6	95.9
068	第47次	SD-2104B	第9層	黒灰粘(植物層)	—	200	大和第Ⅳ-1様式	12.4	2.9	(66.2)
069	第61次	—	—	黒褐色土	—	59	大和第Ⅵ-4様式	12.4	2.5	(70.8)
070	第65次	—	—	灰黒粘	—	1028	大和第Ⅵ-3様式	(13.2)	7.0	(261.0)
071	第22次	SK-105	第3層	黒粘	S-301	329	大和第Ⅱ-4様式	15.4	9.7	450.4
072	第61次	SK-108	第3層	灰灰層	—	1243	大和第Ⅱ-2様式	14.1	10.4	437.8

073・074 石製品 (砥石)

073・074

073



MS-砥石-0060
026-001625

074

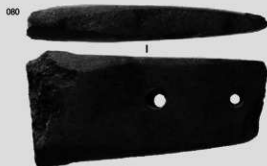


MS-砥石-0061
093-003165

調査次数	遺構	層位	土色	取土番号	No	具伴時期/時代	長さ	幅	重量
073 第26次	SD-2103	第1層	黒褐色土	S-101	53	大和第Ⅱ-2・3様式	17.9	11.7	652.3
074 第93次	SK-2116	第1層	—	S-101	291	大和第Ⅳ-2様式	30.8	22.5	2,440.9

075 ~ 088 石製品 (その他石製品)

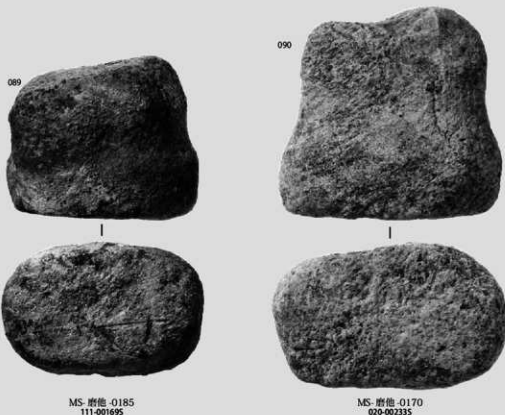
075 ~ 088

MS-磨他-0155
044-000795MS-磨他-0169
016-001315MS-磨他-0145
089-002165MS-磨他-0165
037-008045MS-磨他-0157
099-000195MS-磨他-0093
096-000255MS-磨他-0167
037-008035MS-磨他-0166
037-008015MS-磨他-0168
019-002585MS-磨他-0158
059-006215MS-磨他-0159
033-003825MS-磨他-0160
026-001465MS-磨他-0161
059-006205MS-磨他-0156
044-000835

第II部 考古資料目録

089・090 石製品（その他石製品）

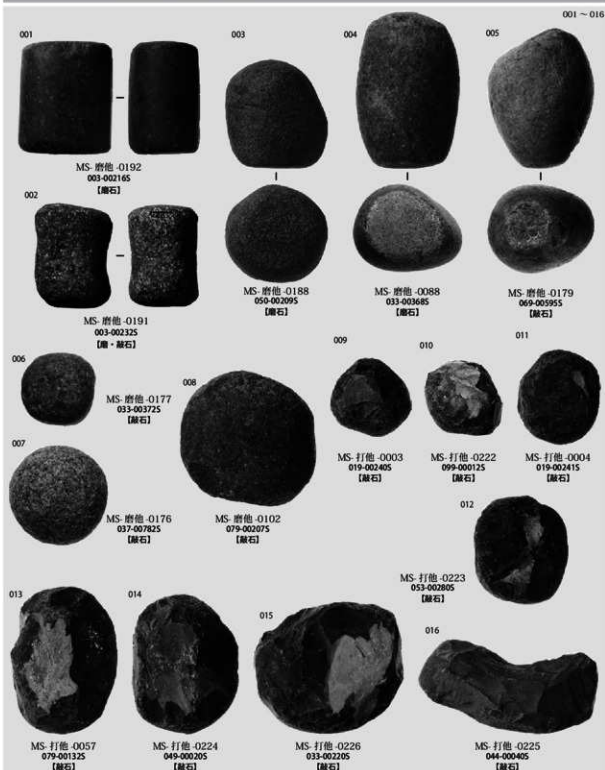
089・090



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	共存時期/時代	長さ	幅	高さ
075	第44次	SD-103	第3層	灰黒粘	—	181	大和Ⅳ-1様式	3.2	2.0	7.1
076	第16次	SX-102	—	黒粘Ⅱ	—	211	大和Ⅲ-1様式	4.4	2.7	(8.4)
077	第99次	SD-7101	第5層	黒灰粘	—	27	大和Ⅲ-4様式	7.7	5.8	65.8
078	第89次	SD-1092	—	暗灰色粘質土	—	28	弥生時代	(5.5)	2.7	(31.2)
079	第37次	SD-2202	第2層	灰黒粘	—	463	大和Ⅱ-2様式	(8.3)	3.3	(112.7)
080	第96次	SD-51C	南堂Sec.第12層	黄褐色微砂(ハード)	—	144	弥生時代	(12.8)	6.2	(261.3)
081	第37次	SD-2103	第3層	黒粘	—	85	大和Ⅱ-2様式	(4.8)	2.7	(48.7)
082	第37次	SK-2130	西壇Sec.第16層	—	—	1107	大和Ⅲ-3様式	(9.9)	2.1	(91.9)
083	第19次	SD-204	第2層	暗黄褐色砂質土	S203	601	大和Ⅳ-2様式	(6.7)	2.5	(50.0)
084	第59次	—	—	黒色土	—	489	弥生時代	9.8	3.3	(111.2)
085	第33次	SD-109	第4層	黒粘	—	234	大和Ⅵ-4様式	10.4	2.4	(52.5)
086	第26次	—	第1層	黒褐色土	—	14	弥生時代	9.3	4.3	196.2
087	第59次	SD-11022	—	—	—	39	弥生時代	9.0	3.5	126.7
088	第44次	SD-104	第2(下)層	—	S201	179	大和Ⅳ-1様式	12.7	4.4	(187.8)
089	第111次	SX-101	第3層	黒灰色土	—	205	弥生時代中・後期	9.9	8.5	(845.8)
090	第20次	SD-101	第1層	黒色土	S101	146	大和Ⅳ-1様式	11.2	10.7	1,262.9

石製品075～090は用途不明の石製品である。079は独鈷石、081は剣の茎、089・090は礎石の可能性がある。089・090は底面が平坦で、上部がややすばまる楕円柱状を呈するもので、中央に浅い溝を巡らせている。

001 ~ 016 礫石器 (磨石・敲石)



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共存時期・時代	長さ	幅	高さ
001	第3次	SD-102	下層上面	—	—	4661	弥生時代中・後期	6.1	5.0	277.1
002	第3次	SD-107	—	黑粘土	—	4662	大和第Ⅱ-VI様式	5.7	4.4	189.5
003	第50次	SD-105	第3層	黑灰粘	—	387	大和第Ⅱ-V様式	5.5	5.2	250.7
004	第33次	SK-114	第4(下)層	植物層(微砂)	その1	470	大和第Ⅱ-V様式	8.1	5.5	301.6
005	第69次	SD-1109	第5(下)層	—	S-5513	721	大和第V-2・VI-2様式	7.4	3.6	(209.4)

017 ~ 029 礫石器 (磨石・敲石)

017 ~ 029



017

MS-磨他-0186
079-002065
【磨石】



018

MS-磨他-0089
076-002205
【磨石】



019

MS-磨他-0174
019-002375
【磨石】



020

MS-磨他-0037
069-005805
【磨石】



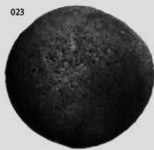
021

MS-磨他-0147
046-000065
【磨石】



022

MS-磨他-0175
020-002205
【磨・敲石】



023

MS-磨他-0193
003-002215
【磨・敲石】



024

MS-磨他-0064
091-000835
【磨・敲石】



025

MS-磨他-0180
072-002335
【磨・敲石】



028-1

028-2



026

MS-磨他-0146
061-003095
【磨・敲石】



027

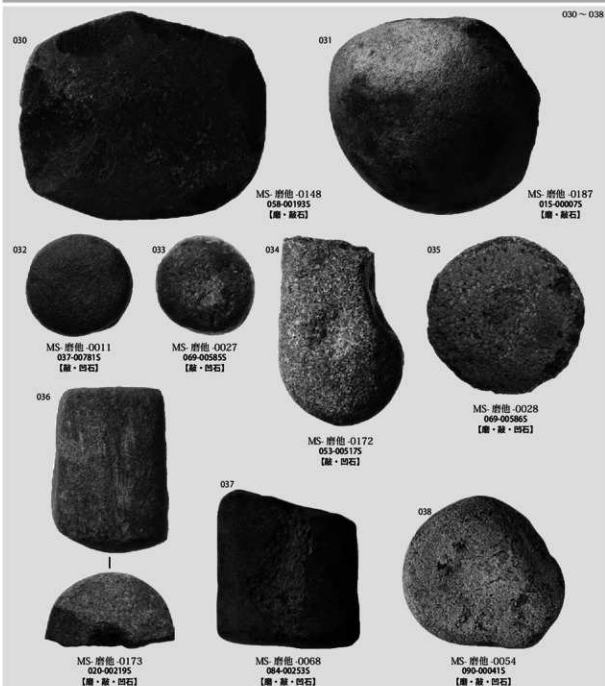
MS-磨他-0062
022-002285
【磨・敲石】



029

MS-磨他-0150
019-002385
【磨・敲石】

030 ~ 038 礫石器 (磨石・敲石・凹石)



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	%	供伴時期/時代	長さ	幅	重量
006	第33次	SD-127	第5層	黒灰色粘質土	—	892	大和第Ⅱ-3-6種式	4.3	4.3	96.4
007	第37次	SD-2201	第3層	—	S-301	745	大和第Ⅱ-1種式	5.3	5.0	199.8
008	第79次	SD-102	第4層	黒灰粘(植物炭)	—	741	大和第Ⅱ-2種式	6.1	6.6	294.4
009	第19次	SK-102	第7層	黒粘	—	763	大和第Ⅴ-1種式	4.2	4.0	71.6
010	第99次	SD-7101	第5層	黒灰粘	—	27	大和第Ⅲ-4種式	4.6	3.9	80.9
011	第19次	SD-204	第9層	黒粘(植物炭)	—	828	大和第Ⅲ-1種式	5.0	4.4	116.2
012	第53次	SK-107	第2層	黒色粘質土	—	397	大和第Ⅲ-1種式	5.9	5.3	165.1
013	第79次	SD-101	第3層	暗灰色粘質土(黄理)	—	320	大和第Ⅳ種式	7.9	5.8	262.1
014	第49次	SD-104	第1層	黒泥粘	—	131	大和第Ⅱ-3種式	8.3	6.8	393.6
015	第33次	SD-115	第2層	灰色粘質土	—	409	大和第Ⅲ-3種式	9.3	3.6	147.5
016	第44次	SD-104	第1(下)層	黒褐色土	—	89	大和第Ⅲ-4種式	4.4	9.3	147.5

039～044 礫石器（磨石・敲石・凹石）

039～044



MS-磨他-0181
059-005075
【磨・敲・凹石】



MS-磨他-0043
079-002095
【磨・敲・凹石】



MS-磨他-0194
008-001875
【磨・敲・凹石】



MS-磨他-0090
016-001215
【磨・敲・凹石】



MS-磨他-0182
079-002105
【磨・敲・凹石】



MS-磨他-0010
033-003735
【磨・敲・凹石】

礫石器001～047は、磨石・敲石・凹石である。これらは一連の使用過程での痕跡のため、各面で「磨り」と「敲き」の使い分け、混在がみられる。また、「敲き」の使用頻度が高くなった結果、「凹み」が生じたものもみられる。「磨り」のみは001・003・004である。001は楕円柱状で上下面は平坦で研磨されている。「分銅」の可能性がある。「敲き」のみは005～021、「磨り」と「敲き」が混在するものは002・022～031、「敲き」と「凹み」が混在するものは032～034、「磨り」・「敲き」・「凹み」の3者が揃っているものは035～047である。形態的には円球状、中央が膨らむ円筒状、扁平な円盤状などで、掌に収まる5cm前後～13cm前後のものが多い。石材はさまざまで、009～016はサヌカイト製、001・008・017・018は石斧の転用品の可能性のあるものである。堅果類の調理のほか、020・022・026・028には朱あるいは赤色物の付着がみられることから多様な使用が推定される。

045～047 礫石器 (磨石・敲石・凹石)

045～047



MS-磨石-0038
074-000845
【磨・敲・凹石】



MS-磨石-0016
053-004855
【磨・敲・凹石】



MS-磨石-0004
019-002395
【磨・敲・凹石】

調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共存時期/時代	長さ	幅	高さ	
017	第76次	SD-101C	第14層	暗灰粘(植物混)	—	505	大和遺跡2様式	8.4	6.1	286.0
018	第76次	SD-1107	第2(下)層	—	S-253	208	大和遺跡V-1様式	9.3	6.8	479.9
019	第19次	SD-202	第2層	—	S-203	900	大和遺跡Ⅲ様式	10.9	3.1	125.9
020	第69次	SD-1101	第1層	—	S-101	432	大和遺跡V・VI-3様式	11.5	6.0	351.2
021	第46次	—	第VI(上)層	—	—	38	大和遺跡I・II様式	12.9	8.1	935.7
022	第20次	SX-101	第6層	灰黑色砂質土	—	400	大和遺跡Ⅰ様式	6.4	6.3	328.3
023	第3次	SD-101	—	灰褐色砂	—	5091	大和遺跡V様式	8.2	7.7	327.8
024	第91次	SD-101B	第6層	暗灰粘粘砂	—	226	大和遺跡Ⅳ様式	6.8	4.3	156.0
025	第72次	SD-107	第2層	—	S-201	209	大和遺跡Ⅳ様式	7.9	5.7	(259.5)
026	第61次	SK-151・152	第1層	黒灰粘	—	1528	大和遺跡Ⅱ-3様式	8.0	6.0	383.0
027	第22次	SD-53	第1-6層	暗褐色土	—	97	弥生時代	9.2	6.9	(567.6)
028-1	第91次	SD-101B	第6(下)層	黒灰色粘砂	その1	236	大和遺跡Ⅳ様式	(7.6)	(4.2)	(176.6)
029	第19次	SD-204	第9(上)層	黒粘	S-901	1092	大和遺跡Ⅲ様式	15.2	7.0	(623.2)
030	第58次	SK-101	第6(下)層	灰黑色砂質土	—	437	大和遺跡Ⅳ1様式	12.7	10.8	(1093.1)
031	第15次	SD-102	—	植物屑	S-01	21	大和遺跡V様式	11.2	11.0	1,500.8
032	第37次	SK-2139	第5層	灰黒粘	S-502	1093	大和遺跡Ⅱ-3様式	4.3	5.5	218.0
033	第69次	SD-1109	第4層	—	S-401	161	大和遺跡Ⅳ様式・棒0式	5.4	5.0	151.7
034	第53次	SR-101A	第4層	灰黒粘	—	289	大和遺跡Ⅰ～Ⅲ様式	(9.6)	6.4	(287.2)
035	第69次	SD-1109	第4層	—	S-402	161	大和遺跡Ⅳ様式・棒0式	8.3	8.3	498.8
036	第20次	SK-107	第3層	黒粘	S-301	179	大和遺跡Ⅲ-3様式	8.8	6.1	(301.8)
037	第84次	—	—	暗灰褐色粘質土	—	38	弥生時代	7.7	7.3	444.4
038	第90次	SD-103	第2層	暗灰色粘質土	—	95	大和遺跡Ⅲ様式	8.7	8.2	385.1
039	第59次	—	—	黒色土	—	424	弥生時代	8.3	7.7	789.1
040	第79次	SD-101B	第10層	—	S-1001	493	大和遺跡Ⅲ-3様式	9.2	8.8	537.4
041	第8次	—	前上期	—	—	996	弥生時代前期	9.4	7.7	406.5
042	第16次	中世大溝	下層	灰黒粘	—	275	弥生時代	9.1	9.4	841.5
043	第79次	Ph-1148	—	灰色粘質土(ブロック)	—	406	弥生時代	9.5	8.6	(461.7)
044	第33次	SD-116	第1層	暗褐色粘質土	—	626	大和遺跡Ⅲ様式	12.5	9.9	(1089.7)
045	第74次	SK-101	第2層	黒粘	—	82	大和遺跡Ⅱ・Ⅳ-1様式	11.7	7.1	572.9
046	第53次	落ち込み	第1層	暗褐色砂質土	—	47	大和遺跡Ⅱ・Ⅳ-1様式	12.2	8.7	(888.8)
047	第19次	中世大溝	第3層	暗灰粘	—	137	弥生時代	12.2	9.6	1,773.8

第II部 考古資料目錄

048 ~ 053 礫石器 (石槌)

048 ~ 053

048



MS-磨他-0056
091-000875

049



MS-磨他-0026
069-005945

050



MS-磨他-0042
079-002115

051



MS-磨他-0003
019-002425

052



MS-磨他-0121
019-002435

053



MS-磨他-0055
091-000885

054 礫石器 (台石)

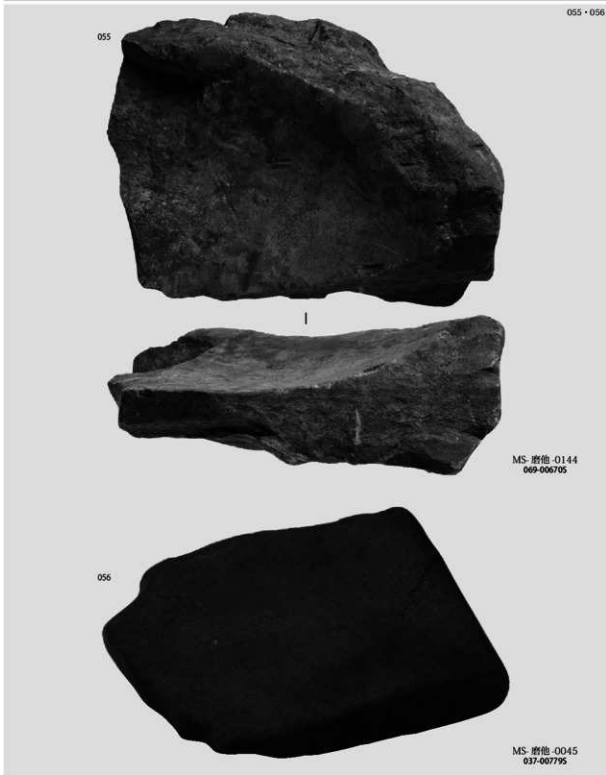
054



MS-磨他-0151
098-002785

調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No	共存時期/時代	長さ	幅	高さ
048 第91次	SD-101B	第6(下)層	黒灰色粘砂	—	330	大和第VI-3様式	6.2	5.2	190.5
049 第69次	SD-1109	第5(下)層	—	S-5512	721	大和第V様式	7.2	6.0	(299.6)
050 第79次	SD-101B	第7(下)層	黒褐色微粘砂(植物流)	—	424	大和第IV-1様式	6.8	4.7	(251.0)
051 第19次	SD-204	第5層	灰黒色粘砂	S-504	714	大和第IV様式 (7.1)	7.1	6.5	(357.7)
052 第19次	中世大溝	第4層	黒色粘砂	—	14	弥生時代	7.3	6.5	(259.2)
053 第91次	—	—	—	—	1108	弥生時代	7.6	6.3	(280.0)
054 第98次	SK-201	第3層	暗灰色(植物流)	—	523	大和第II-2様式	(17.3)	(11.4)	(1,307.0)

055・056 礫石器（石皿）



礫石器048～053は石槌である。いずれも縦長の扁球形の中央に浅い溝を巡らせるものである。上下面には敲打痕のあるもの(048・052・053)、僅かに敲打痕があるもの(049・050)、敲打痕のないもの(051)がある。

礫石器054は台石で、上面に敲打による凹みが見られる。055・056は石皿で、上面が磨り面になっている。056には赤色物の付着が見られる。台石・石皿とも唐古・鍵遺跡では非常に少ない遺物である。

第II部 考古資料目録

057 礫石器 (浮子)

057



MS-磨他-0178
019-002595

058・059 礫石器 (石錘)

058・059



MS-磨他-0035
033-004075



MS-磨他-0034
026-001785

060～069 礫石器 (石製投弾)

060～069



MS-磨他-0002
016-001305



MS-磨他-0053
089-002115



MS-磨他-0046
085-000045



MS-磨他-0052
089-002105



MS-磨他-0020
013-000965



MS-磨他-0051
089-002095



MS-磨他-0092
033-003805



MS-磨他-0021
014-001445



MS-磨他-0005
020-002315



MS-磨他-0140
084-002575

調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共存時期/時代	長さ	幅	重さ	
055	第60次	SD-1122	第2層	黒粘	—	1372	大和第V-1様式	(19.7)	(13.6)	(1.829.4)
056	第37次	SK-2116	第4層	植物層	S-401	1091	大和第II-3様式	229	209	3,506.0
057	第19次	—	包含層	黒色土II	—	106	弥生時代中・後期	3.5	3.1	5.8
058	第33次	SK-157	第0層	黒褐色粘質土	—	296	弥生時代中期	5.3	3.9	87.6
059	第26次	SD-1101	第2層	—	S-201	156	古墳時代前期	5.5	3.9	87.6
060	第16次	SD-101	—	黒色土(下)	S-02	29	大和第III-4様式	3.2	3.2	48.6
061	第89次	—	—	噴出粘	—	620	弥生時代中期	4.2	3.3	55.7
062	第85次	SD-101	第3層	暗灰色粘質土(砂混)	—	69	弥生時代後期後半	4.2	3.8	64.1
063	第89次	—	—	灰粘(灰色砂互層)	—	593	弥生時代中期	4.6	3.6	66.2
064	第13次	SD-106D	第10c層	植物層	—	434	弥生時代中期	4.3	4.0	52.0
065	第89次	SD-1115	第1層	黒褐色粘質土	—	131	大和第IV-1様式	(4.7)	3.0	(61.1)
066	第33次	SD-114	第3層	黒粘	—	398	大和第III-1様式	4.5	4.1	84.2
067	第14次	SK-101	下層	黒粘	—	6	大和第VI-3様式	4.0	3.3	64.8
068	第20次	SD-201	第5層	灰黒粘	—	521	大和第I-2様式	4.2	4.3	131.1
069	第84次	SD-110	第2層	黒灰色粘質土	—	264	大和第II-2様式	4.6	3.8	80.6

礫石器057は軽石を利用した不定形の浮子である。上下面の中央に孔が穿たれているほか、未通孔が3つみられる。1側面に切断痕が残る。礫石器058・059は石錘で、058は円筒状、059は卵形状で縦断面形は隅丸三角形である。いずれも中央に敲打などによる溝を巡らせている。

礫石器060～069は、円球状や卵形状の自然礫である。いずれも長さ3～5cm、重さ50～80gほどのものが多い。



木製品004(MW-工具-0002)残片



木製品012(MW-工具-0012)残片



木製品015(MW-農具-0076)残片



木製品017(MW-農具-0004)残片



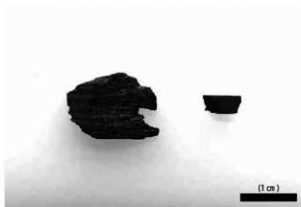
木製品019(MW-農具-0047)残片



木製品021(MW-農具-0070)残片



木製品040(MW-農具-0046)残片



木製品042(MW-農具-0075)残片



木製品046(MW-農具-0080)残片



木製品051(MW-農具-0063)残片



木製品057(MW-農具-0051)残片



木製品060(MW-農具-0015)残片



木製品062(MW-農具-0032)残片



木製品068(MW-農具-0084)残片



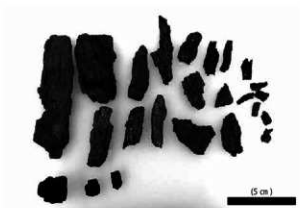
木製品072(MW-農具-0083)残片



木製品082(MW-農具-0035)残片



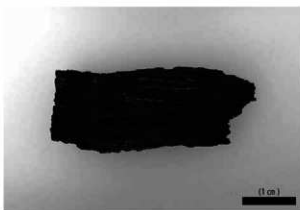
木製品083(MW-農具-0059)残片



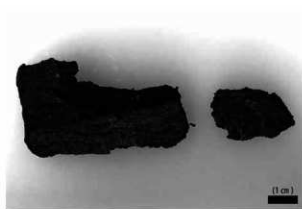
木製品088(MW-織編-0012)残片



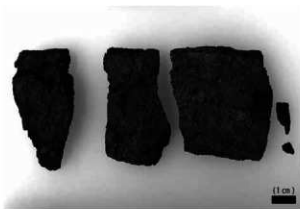
木製品091～102(MW-織編-0020～31)残片



木製品093(MW-織編-0022)残片



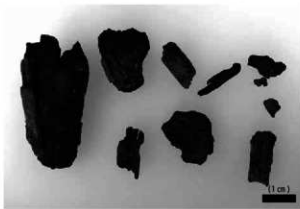
木製品094(MW-織編-0023)残片



木製品098(MW-織編-0027)残片



木製品099(MW-織編-0028)残片



木製品102(MW-織編-0031)残片



木製品113(MW-武器-0008)残片



木製品118(MW-武器-0003)残片



木製品124(MW-武器-0013)残片



木製品136(MW-食膳-0016)残片



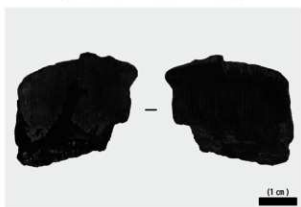
木製品142(MW-食膳-0021)残片



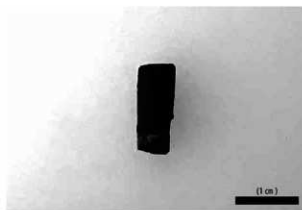
木製品144(MW-食膳-0023)残片



木製品152(MW-食膳-0029)残片



木製品154(MW-食膳-0052)残片



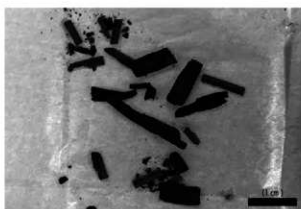
木製品 160(MW-食膳-0042)柄



木製品 163(MW-食膳-0022)残片



木製品 166(MW-食膳-0028)残片



木製品 168(MW-食膳-0047)残片



木製品 171(MW-雑具-0004)残片



木製品 184(MW-雑具-0012)残片



木製品 185(MW-雑具-0013)残片



木製品 186(MW-雑具-0006)残片



木製品195(MW-建築-0016)残片



木製品198(MW-建築-0015)残片1



木製品198(MW-建築-0015)残片2



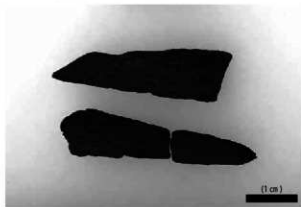
木製品199(MW-建築-0018)残片1



木製品199(MW-建築-0018)残片2



木製品200(MW-建築-0012)残片



木製品213(MW-其他-0010)残片

註1 木製品154は奈良国立歴史考古学研究所附属博物館にて展示しているが、残片は田原本町埋蔵文化財センターに保管している。

註2 木製品198・199の残片は多量のため、掲載したものはそれぞれの一部である。

【報告書】

- 末永雅雄・小林行雄・藤岡謙二郎『大和唐古弥生式遺跡の研究』京都帝国大学文学部考古学研究報告第16冊 1943
- 田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡Ⅰ一範囲確認調査一遺構・主要遺物編』田原本町埋蔵文化財調査報告書第5集 2009
- 田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡Ⅰ一範囲確認調査一写真図版編』田原本町埋蔵文化財調査報告書第5集 2007
- 田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡Ⅰ一範囲確認調査一特殊遺物・考察編』田原本町埋蔵文化財調査報告書第5集 2009

【概報】

- 田原本町教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所『昭和52年度唐古・鍵遺跡発掘調査概報』1978
- 田原本町教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所『昭和53年度唐古・鍵遺跡第4・5次発掘調査概報』1979
- 田原本町教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所『昭和54年度唐古・鍵遺跡第6・7・8・9次発掘調査概報』1980
- 田原本町教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所『昭和55年度唐古・鍵遺跡第10・11次発掘調査概報』1981
- 田原本町教育委員会『昭和57年度唐古・鍵遺跡第13・14・15次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要1』1983
- 田原本町教育委員会『昭和58年度唐古・鍵遺跡第16・18・19次発掘調査概報 黒田大塚古墳第1次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要2』1984
- 田原本町教育委員会『昭和59年度唐古・鍵遺跡第20次発掘調査概報 黒田大塚古墳第2次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要3』1986
- 田原本町教育委員会『昭和60年度唐古・鍵遺跡第22・24・25次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要4』1986
- 田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡第21・23次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要6』1987
- 田原本町教育委員会『昭和61年度唐古・鍵遺跡第26次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要7』1987
- 田原本町教育委員会『昭和61年度唐古・鍵遺跡第29・30次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要9』1987
- 田原本町教育委員会『昭和62・63年度唐古・鍵遺跡第32・33次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要11』1989

【年報】

- 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 1 1988・1989 年度』1990
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 2 1990 年度』1991
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 3 平成 3 年度』1992
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 4 1992・1993 年度』1994
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 5 1994・1995 年度』1996
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 6 1996 年度』1997
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 7 1997 年度』1998
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 8 1998 年度』1999
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 9 1999 年度』2000
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 10 2000 年度』2001
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 11 2001 年度』2002
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 12 2002 年度』2003
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 13 2003 年度』2004
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 14 2004 年度』2006
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 21 2011 年度』2013
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 22 2012 年度』2014
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 24 2014 年度』2016
 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 25 2015 年度』2017

【図録等】

- 飯田恒男『大和唐古石器時代遺物図集』1929
 田原本町『唐古・鍵遺跡発掘調査 50 周年記念 唐古・鍵ムラの弥生人』1986
 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館『唐古・鍵弥生遺跡調査 50 年史』奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・特別陳列解説』1986
 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・田原本町教育委員会『平成 8 年度春季特別展 弥生の風景 唐古・鍵遺跡の発掘調査 60 年』1996
 奈良国立文化財研究所『木器集成図録 近畿原編』奈良国立文化財研究所史料 第 36 冊 1993
 田原本町教育委員会『唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録』2004
 田原本町教育委員会『たわらもと 2005 発掘速報展』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.1 2005
 田原本町教育委員会『弥生時代の青銅器鋳造～唐古・鍵遺跡の鋳造遺物を中心に～』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.4 2006
 田原本町教育委員会『ヤマト王権はいかにして始まったか～弥生の王都 唐古・鍵～』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.6 2007
 田原本町教育委員会『道の考古学』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.11 2010

- 田原本町教育委員会『弥生エッセンス～その技と美～』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録
Vol.13 2011
- 田原本町教育委員会『村を守る－乱世の考古学－』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.14
2012
- 田原本町教育委員会『弥生遺産Ⅱ』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録Vol.17 2014
- 田原本町教育委員会『弥生遺産Ⅴ』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録Vol.22 2017
- 田原本町教育委員会『たわらもと 2015 発掘速報展』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録
Vol.18 2015
- 田原本町教育委員会『弥生遺産Ⅲ』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録Vol.19 2015
- 田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 Vol.1 概説編』田原本の遺跡 1 1999
- 田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 Vol.2 土器編』田原本の遺跡 2 1998
- 田原本町教育委員会『2000 年の時間を超えて 唐古・鍵遺跡 Vol.3 概説編 2』田原本の遺跡 3
2000
- 田原本町教育委員会『弥生の王都 唐古・鍵』田原本の遺跡 6 2013
- 田原本町教育委員会『ミュージアムコレクション Vol.1』2007
- 田原本町教育委員会『ミュージアムコレクション Vol.2』2009
- 田原本町教育委員会『ミュージアムコレクション Vol.3』2010
- 田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 考古資料目録Ⅰ—土器編 1 (絵画・記号・文様)—』2015
- 田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 考古資料目録Ⅱ—土器編 2 (弥生・搬入・特殊)—』2016

唐古・鍵遺跡
考古資料目録Ⅲ

—木器・木製品・石器・石製品編—

平成29年3月28日

編集・発行／田原本町教育委員会
奈良県磯城郡田原本町大字阪手347-1

印刷・製本／株式会社 明新社
奈良県奈良市南京終町3-464